
令和元年度
八千代市の男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書

令和2年3月
八千代市

— 目 次 —

1	調査の概要.....	1
2	調査の結果.....	2
	(1)回答者の属性	2
	(2)生活の中での男女共同参画.....	9
	(3)働き方	17
	(4)男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	40
	(5)男女平等	50
	(6)性的マイノリティ	73
	(7)自由記述における主な意見.....	82
3	前回調査との比較【参考】	83
4	資料（調査票）	85

1 調査の概要

(1) 調査の目的

八千代市における市民の男女共同参画に関する意識、実態について把握し、男女共同参画施策を推進するうえでの基礎資料を得ること。

(2) 調査の内容

- ・ 生活の中での男女共同参画
- ・ 働き方
- ・ 男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- ・ 男女平等
- ・ 性的マイノリティ

(3) 調査の方法

(1) 調査対象者

八千代市在住の18歳以上の2,500人

(2) 標本抽出方法

住民基本台帳（令和元年8月22日現在）をもとに無作為抽出

(3) 調査方法

郵送配布・回収

(4) 調査機関

令和元年9月5日～10月15日（10月21日到着分まで集計に反映）

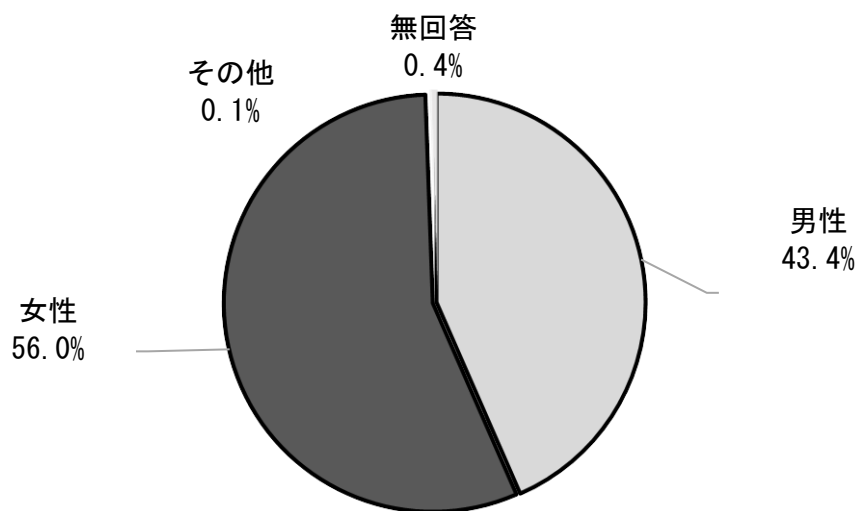
(4) 回収結果

有効回収数 702 通 有効回収率 28.1 %

2 調査の結果

(1) 回答者の属性

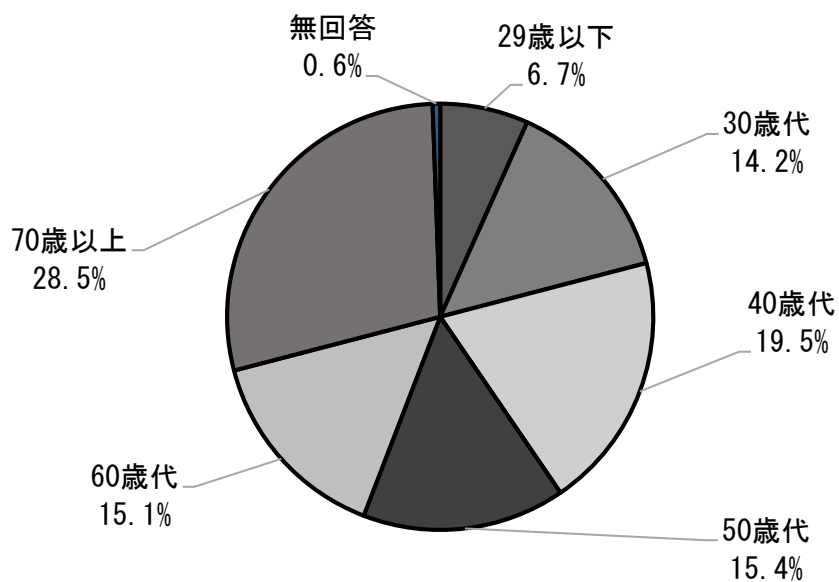
ア 性別



性別	回答数
男性	305
女性	393
その他	1
無回答	3
合計	702

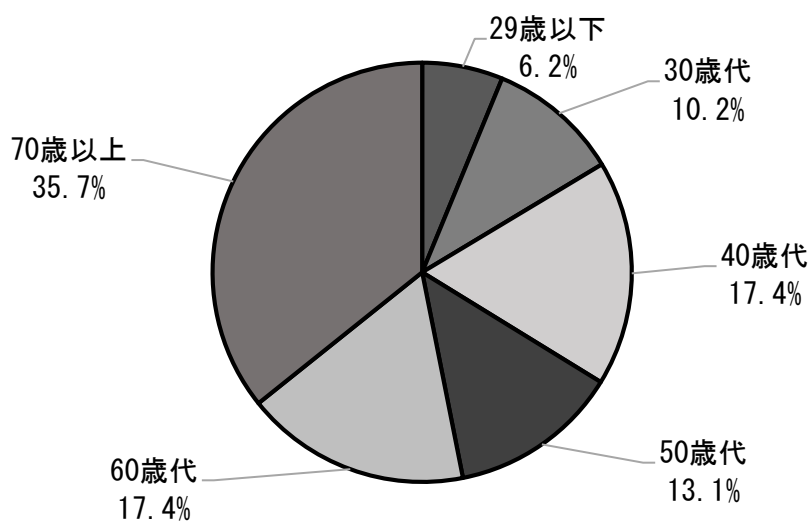
※「その他」の方の回答については、性別ごとの集計には含めていません。

イ 年代別



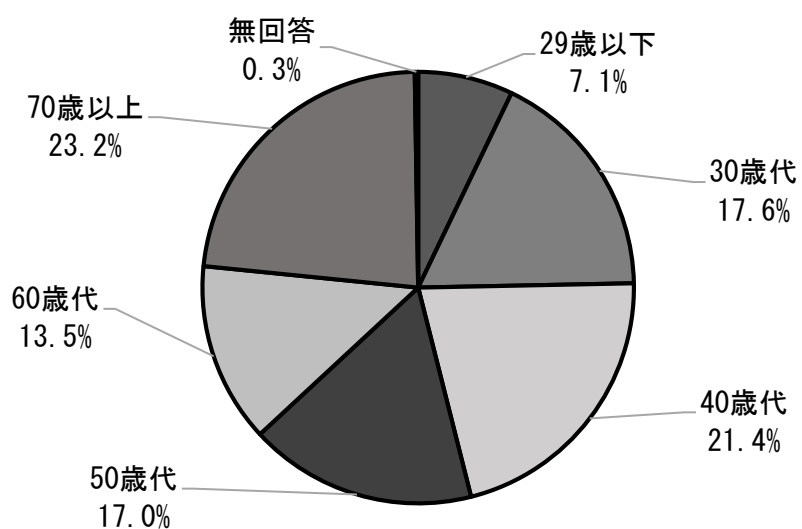
年代	回答数
29歳以下	47
30歳代	100
40歳代	137
50歳代	108
60歳代	106
70歳以上	200
無回答	4
合計	702

ウ 男性 年代別



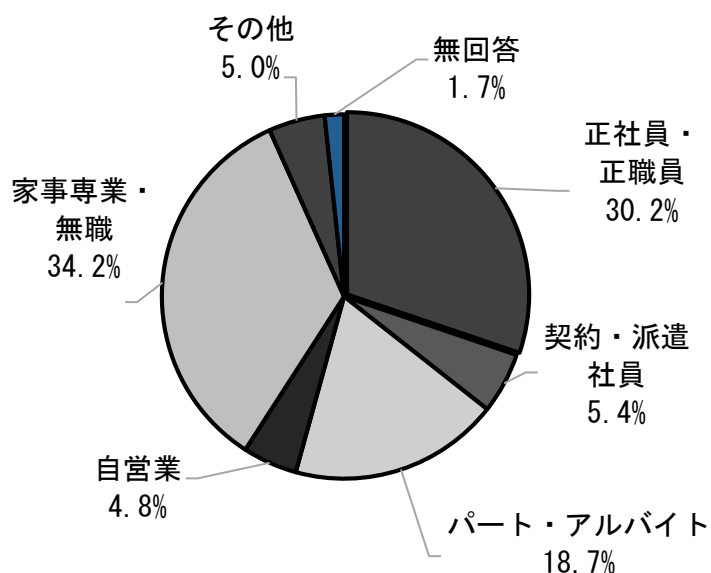
男性	回答数
29歳以下	19
30歳代	31
40歳代	53
50歳代	40
60歳代	53
70歳以上	109
無回答	0
合計	305

エ 女性 年代別



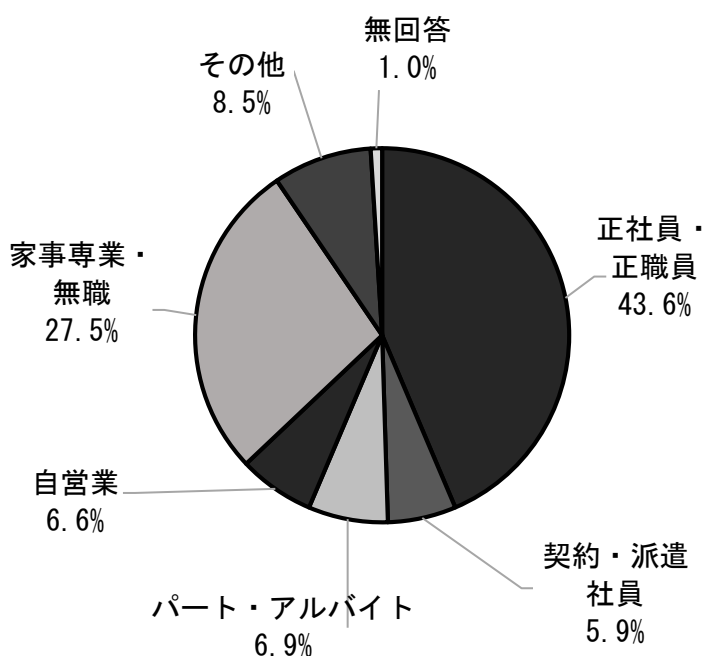
女性	回答数
29歳以下	28
30歳代	69
40歳代	84
50歳代	67
60歳代	53
70歳以上	91
無回答	1
合計	393

オ 働き方別



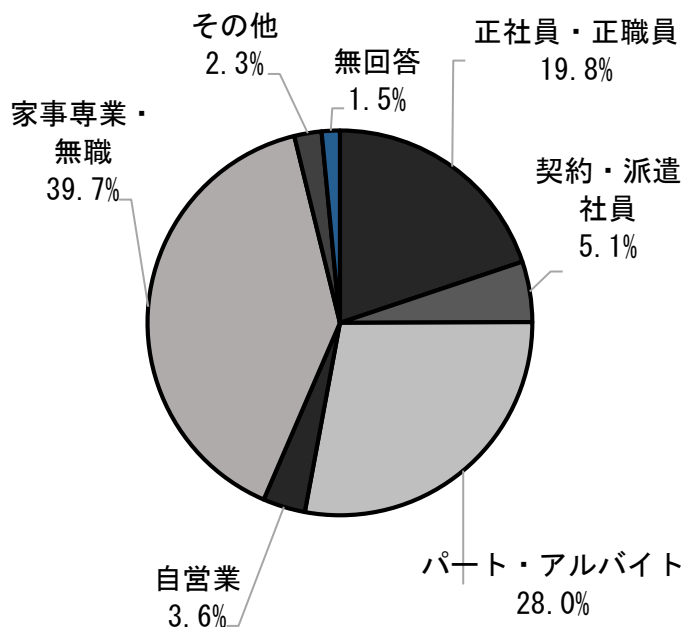
働き方	回答数
正社員・正職員	212
契約・派遣社員	38
パート・アルバイト	131
自営業 (自由業・サービス業・農業等)	34
家事専業主婦・無職	240
その他	35
無回答	12
合計	702

カ 男性 働き方別



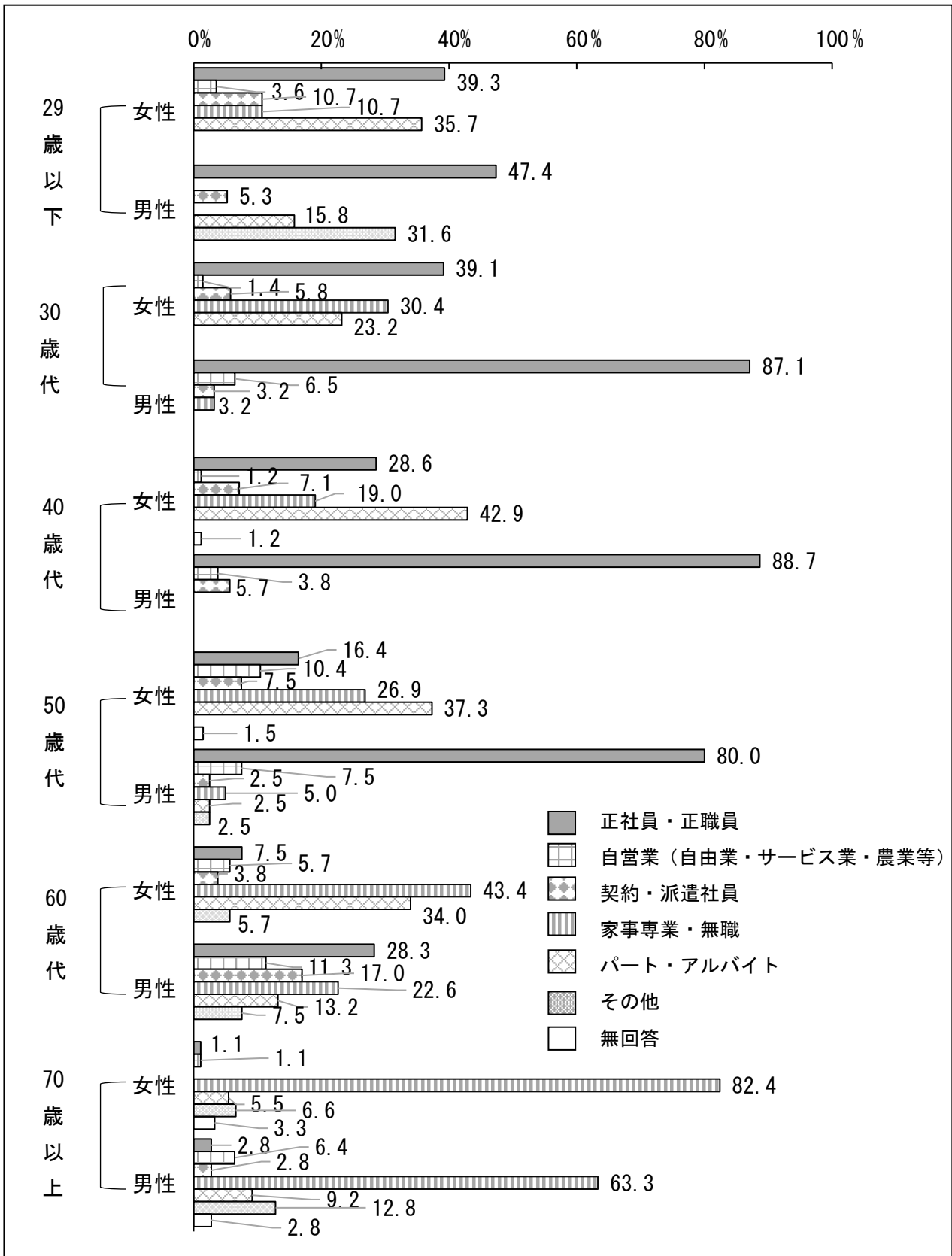
男性 働き方	回答数
正社員・正職員	133
契約・派遣社員	18
パート・アルバイト	21
自営業 (自由業・サービス業・農業等)	20
家事専業主婦・無職	84
その他	26
無回答	3
合計	305

キ 女性 働き方別

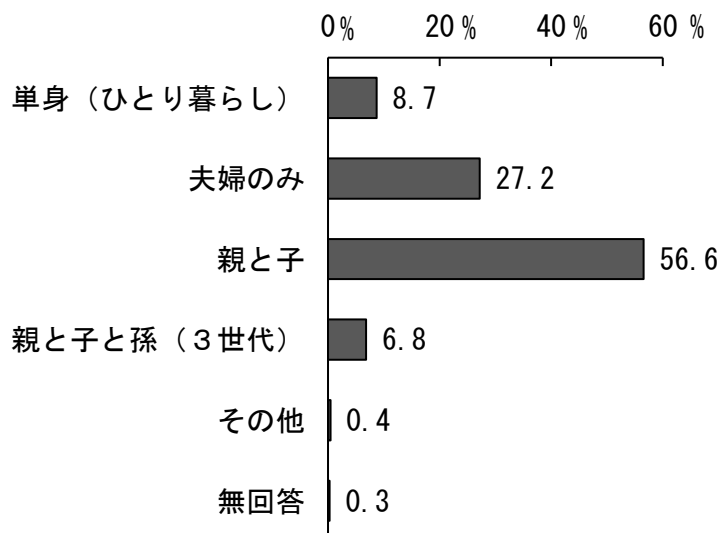


女性 働き方	回答数
正社員・正職員	78
契約・派遣社員	20
パート・アルバイト	110
自営業 (自由業・サービス業・農業等)	14
専業主婦・無職	156
その他	9
無回答	6
合計	393

ク 年代・働き方別

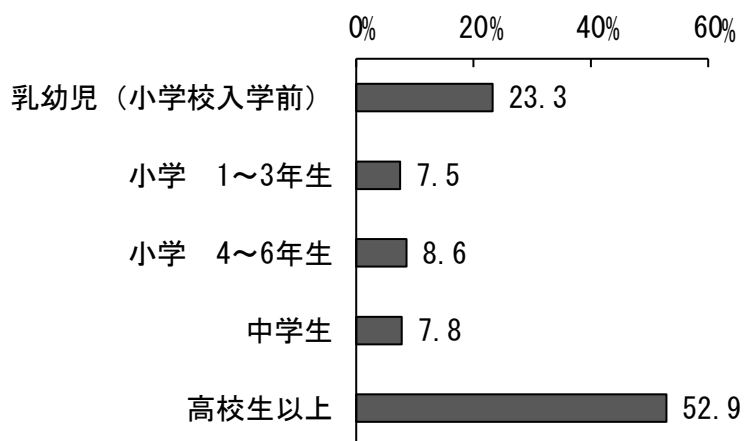


ケ 世帯構成別



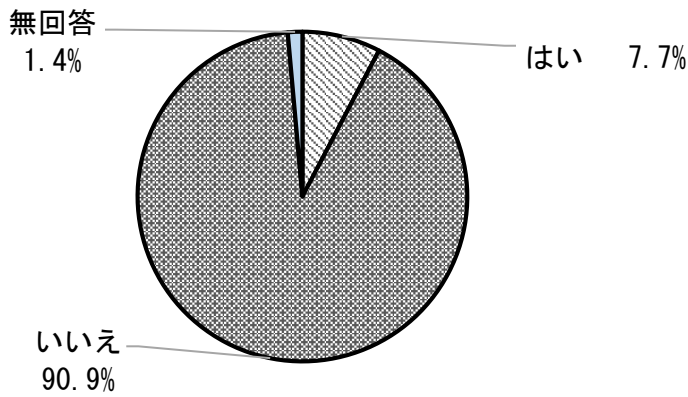
世帯構成	回答数
単身（ひとり暮らし）	61
夫婦のみ	191
親と子	397
親と子と孫（3世代）	48
その他	3
無回答	2
合計	702

コ 子どもの年代別



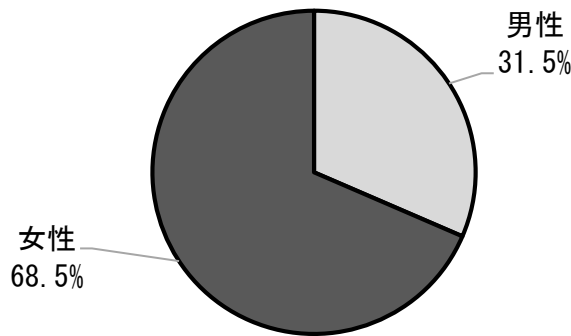
子どもの年代	回答数
乳幼児（小学校入学前）	84
小学 1～3年生	27
小学 4～6年生	31
中学生	28
高校生以上	191
合計	361

サ 介護の有無



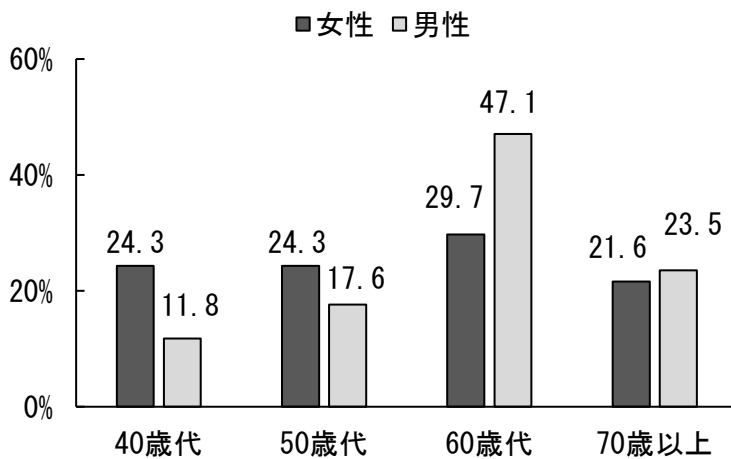
介護	回答数
はい	54
いいえ	638
無回答	10
合計	702

シ 介護者の性別



男女別	回答数
男性	17
女性	37
合計	54

ス 介護者の男女別・年代別



年代別	女性	男性
40歳代	9	2
50歳代	9	3
60歳代	11	8
70歳以上	8	4
合計	37	17

※子育てをしている人が親の介護も同時に担う「ダブルケア」について、介護を行っている方で子どもと同居されている方は18人、うち子どもの年代が中学生の方は1人、高校生以上の方が17人で、小学生以下の方はいなかった。

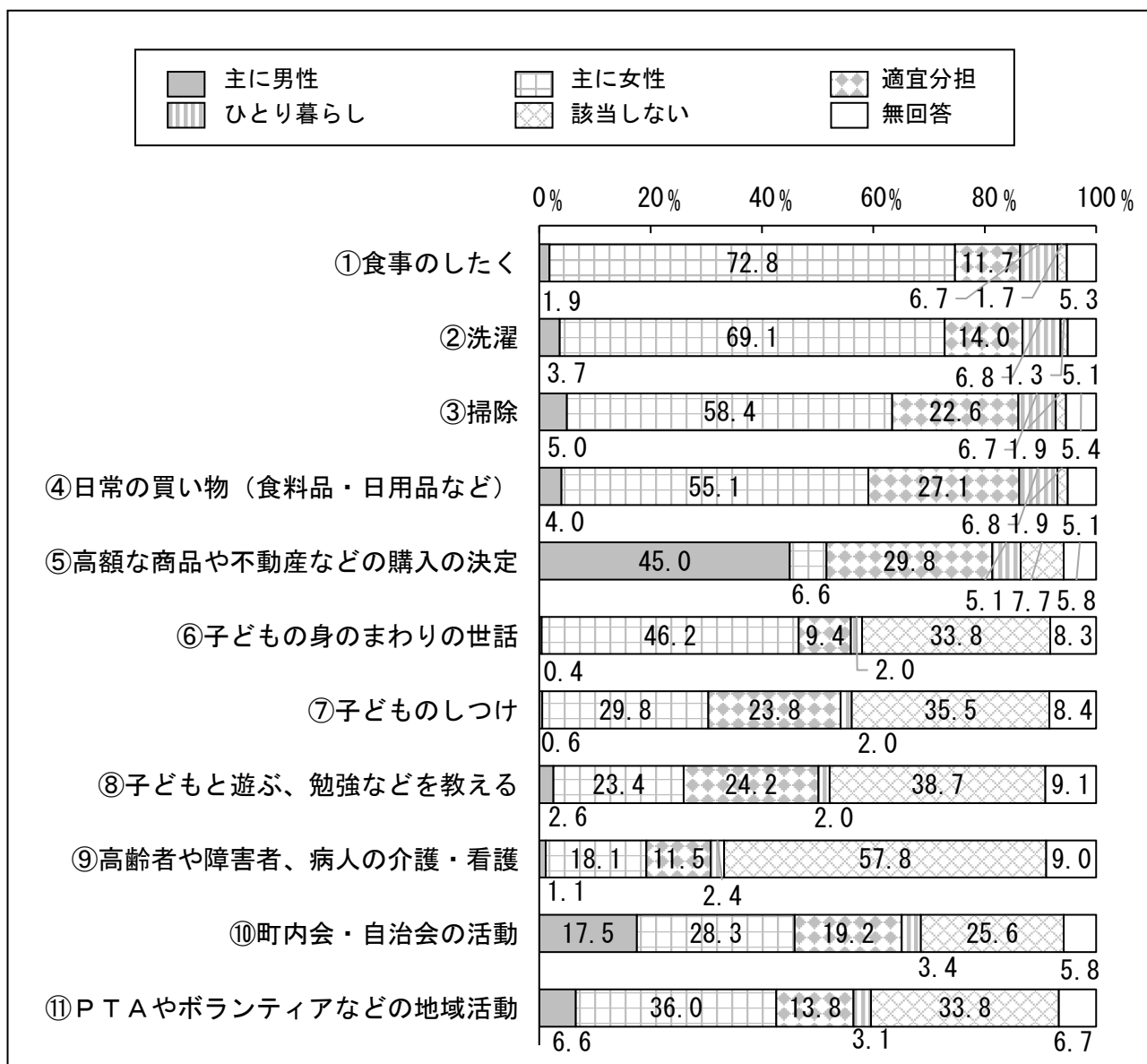
(2) 生活の中での男女共同参画

問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

ア 回答者全体

高額な商品や不動産などの購入の決定は、主に男性が多くなっているが、それ以外の家事・育児等は全て女性が多く担っており、特に「食事のしたく」「洗濯」「掃除」「日常の買い物」の女性の割合が高くなっている。

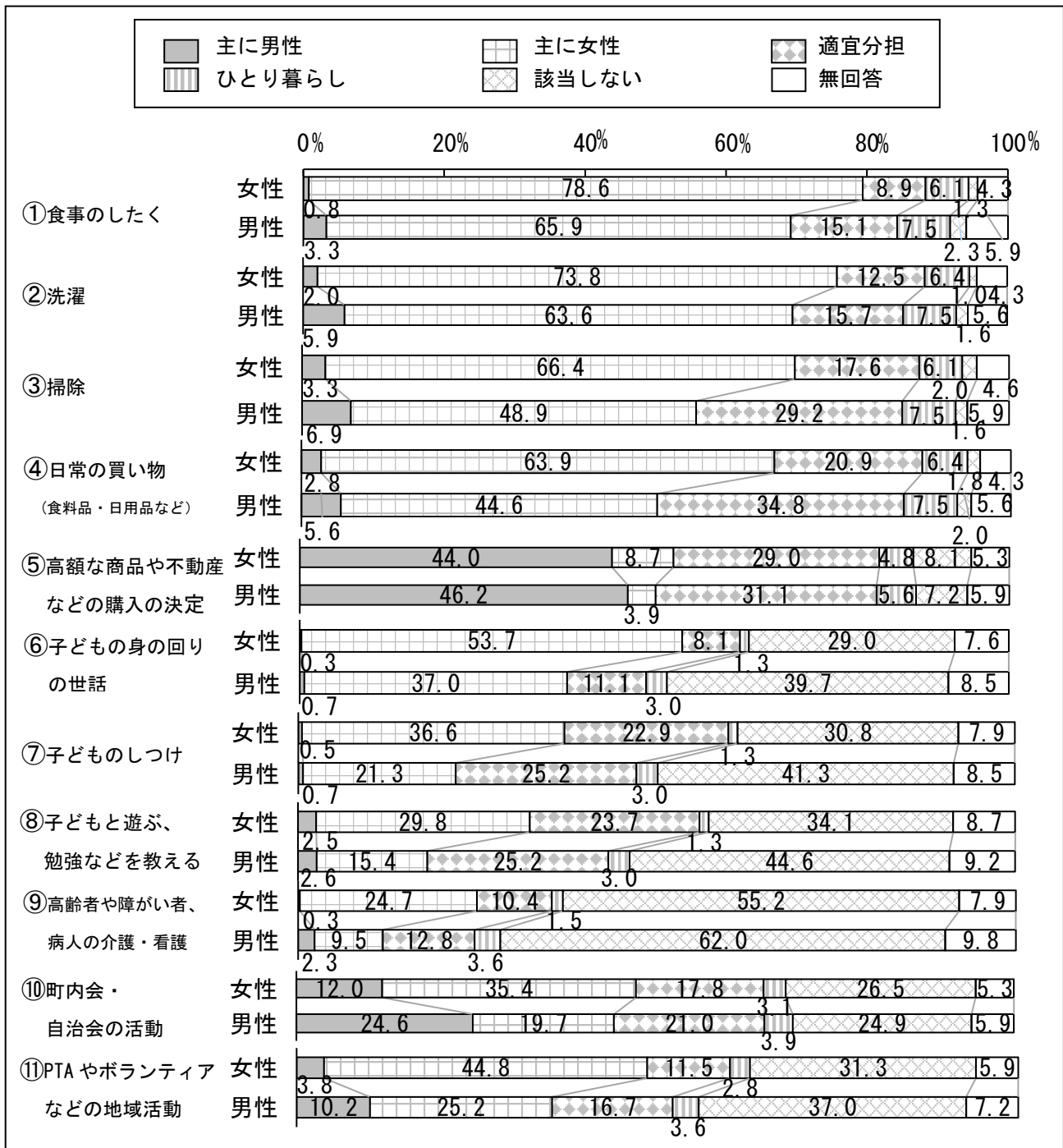
「子どものしつけ」、「子どもと遊ぶ、勉強などを教える」で適宜分担が2割以上あるのに対し、「子どもの身のまわりの世話」では1割未満で、約半数が主に女性と回答している。また、「町内会、自治会の活動」と比べて、「PTAやボランティアなどの地域活動」の女性の割合が高くなっている。



問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

イ 男女別

「高額な商品や不動産などの購入の決定」を除き、男女ともに家事・育児の多くを女性が担っているという回答が共通しているが、いずれの家事・育児についても男性の方が適宜分担しているという認識を持っている。例えば、「掃除」や「日常の買い物」は、約3割の男性が適宜分担と回答しているが、女性は他の家事と大きく差がない。

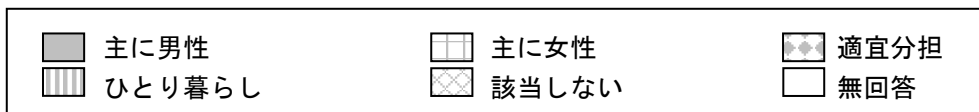
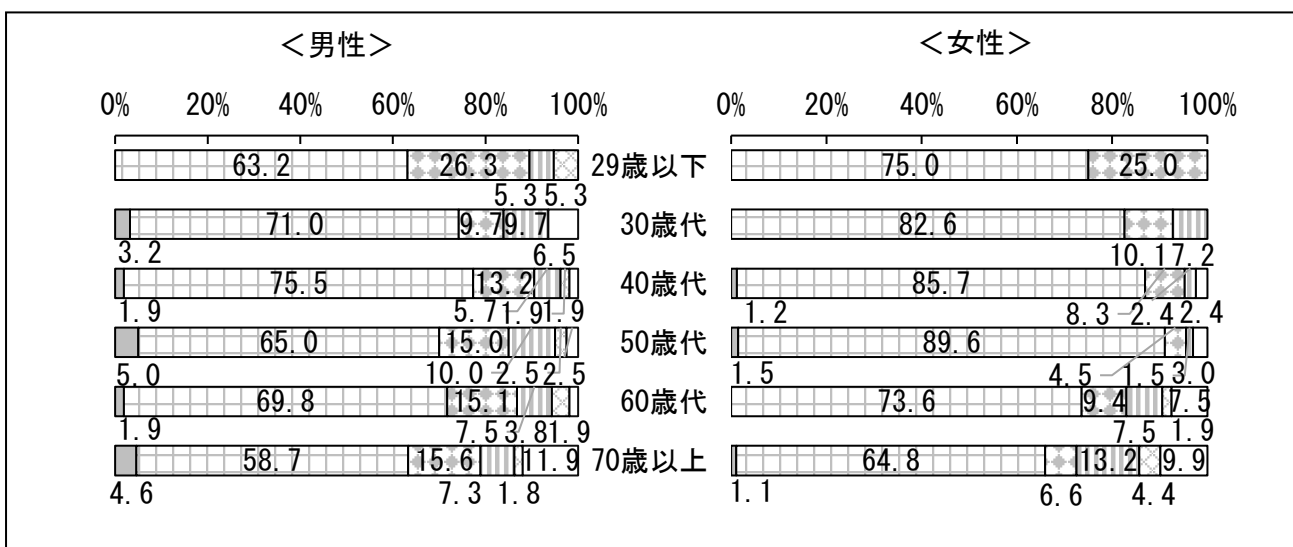


問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

ウ 年代別・男女別

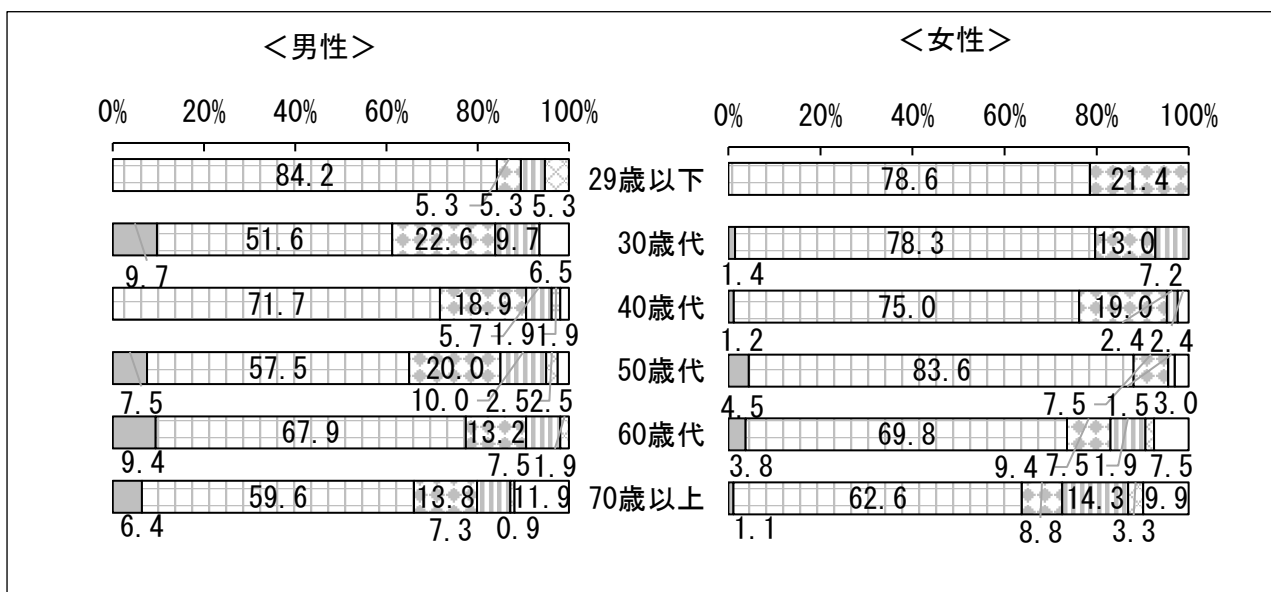
年代別で意識に大きな差はない(「該当しない」)を除く)が、子育て世代の30~40歳代を見ると、「子どものしつけ」「子どもと遊ぶ、勉強などを教える」については、適宜分担の回答が女性の方がやや少ないながらも一定数あるが、この2つの項目よりも「子どもの身の回りの世話」では女性の割合が高くなっている。

①食事のしたく

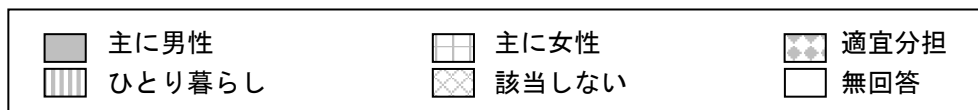
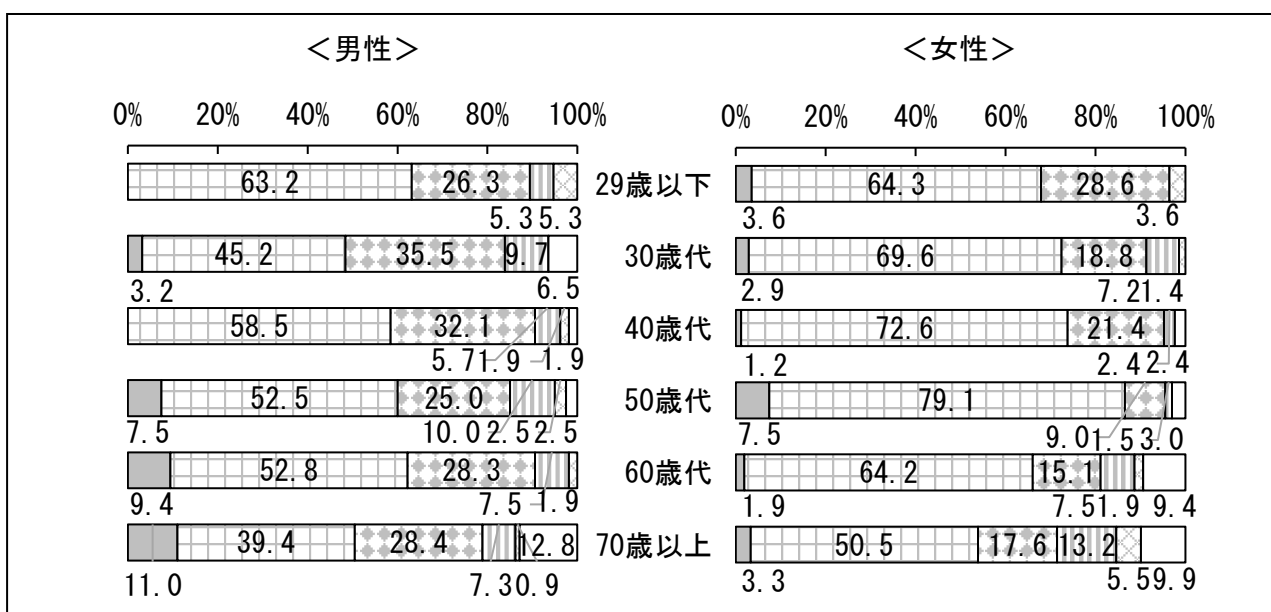


問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

②洗濯

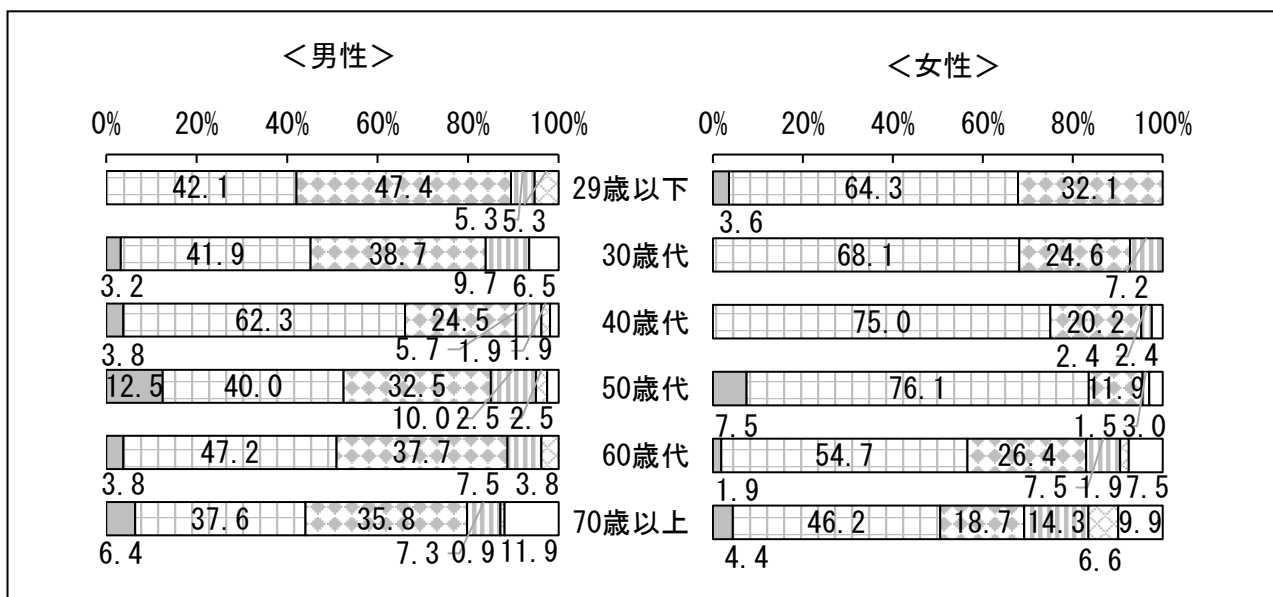


③掃除

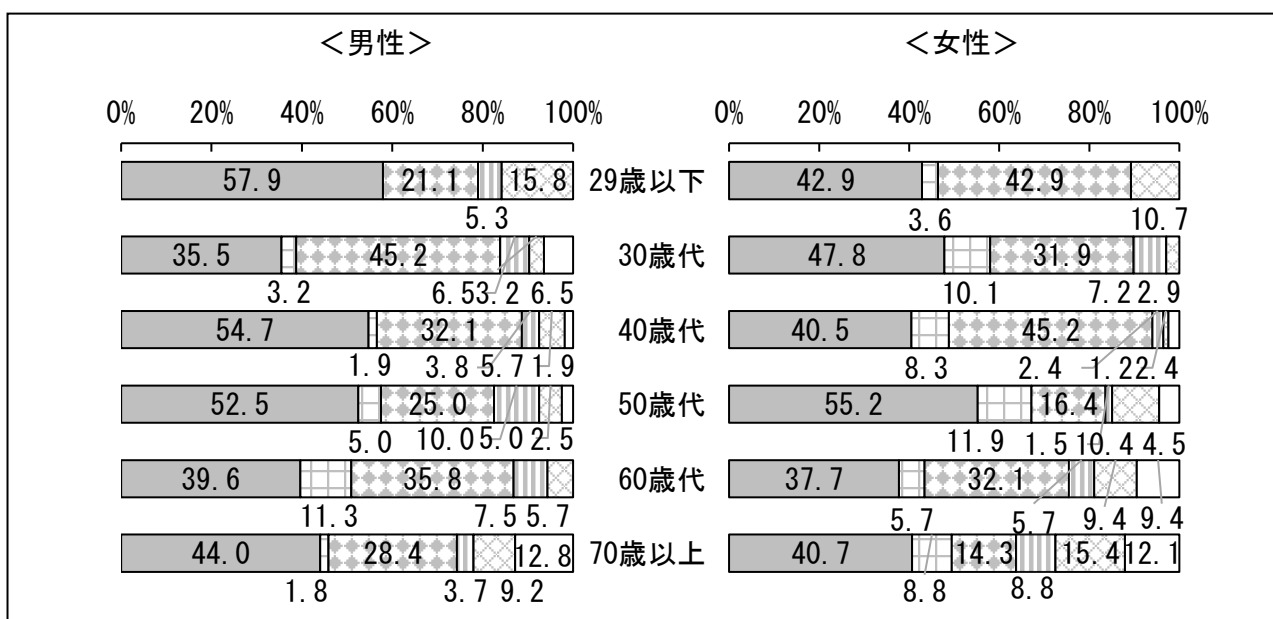


問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

④ 日常の買い物

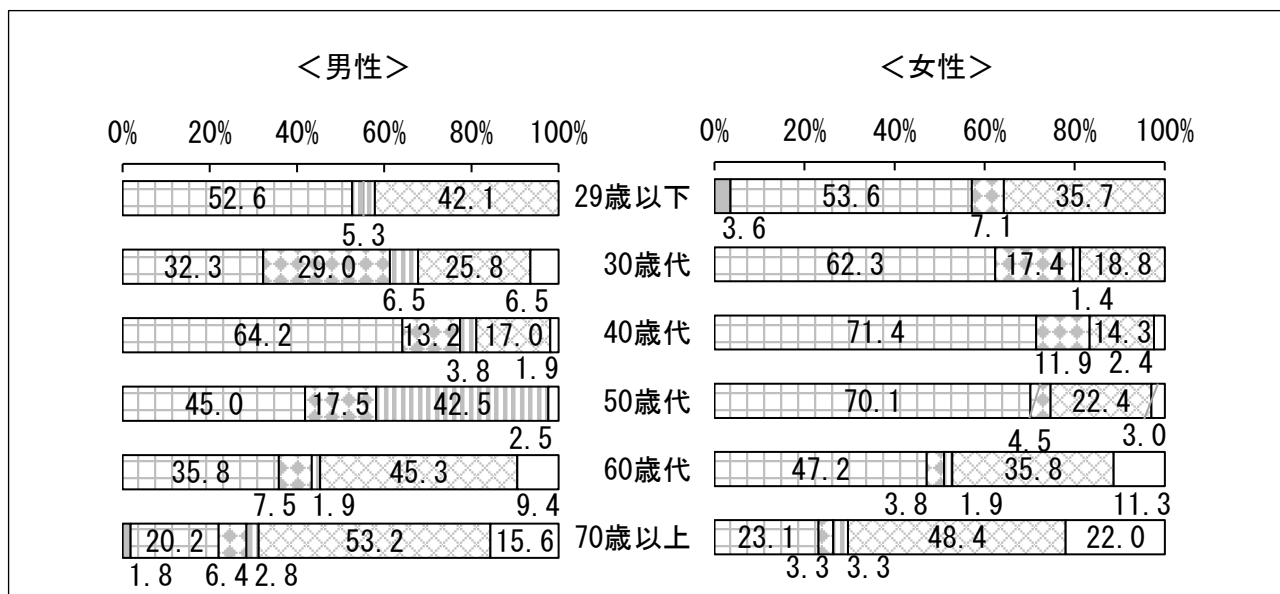


⑤ 高額な商品や不動産などの購入の決定

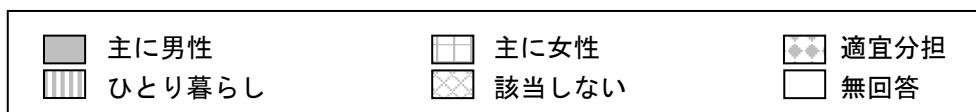
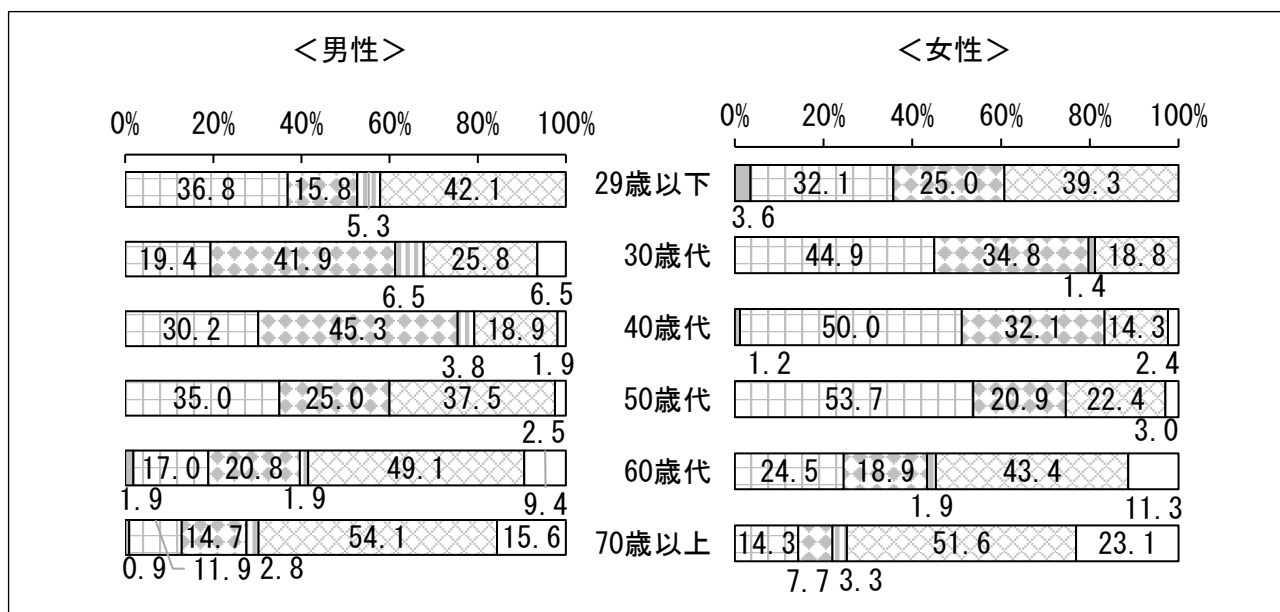


問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

⑥子どもの身のまわりの世話

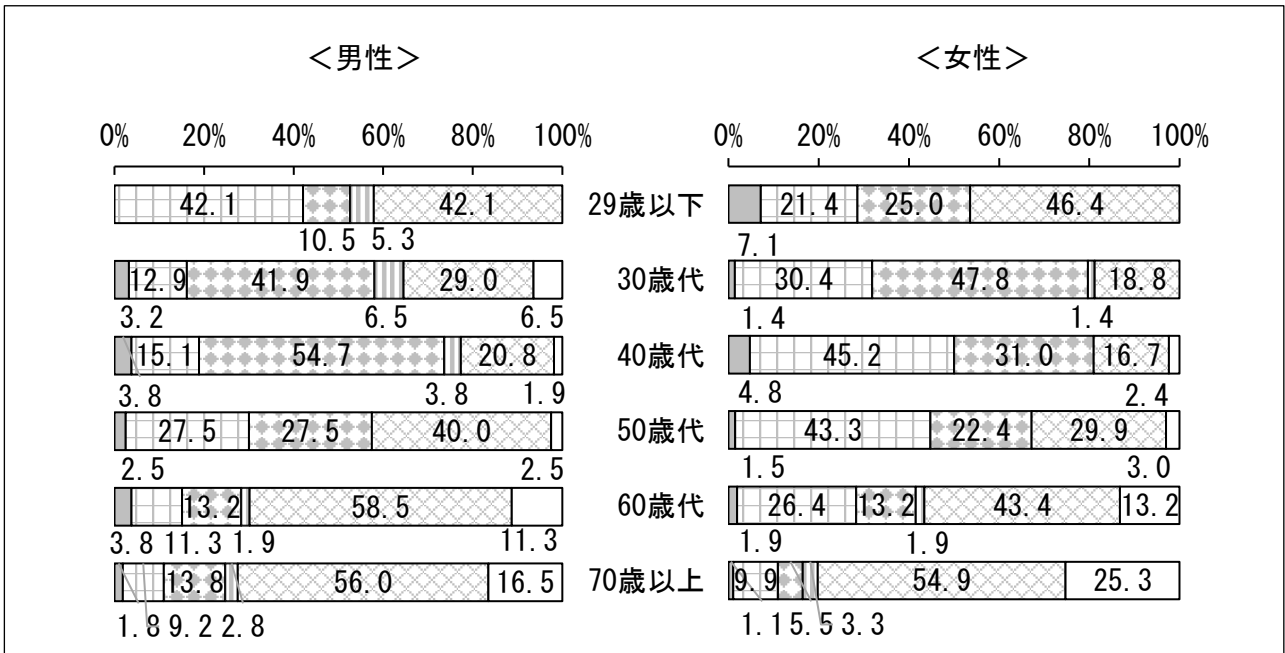


⑦子どものしつけ

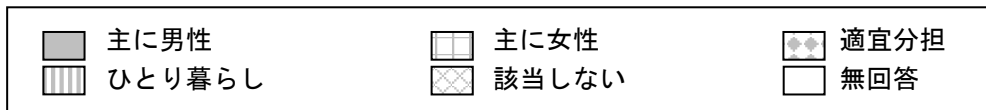
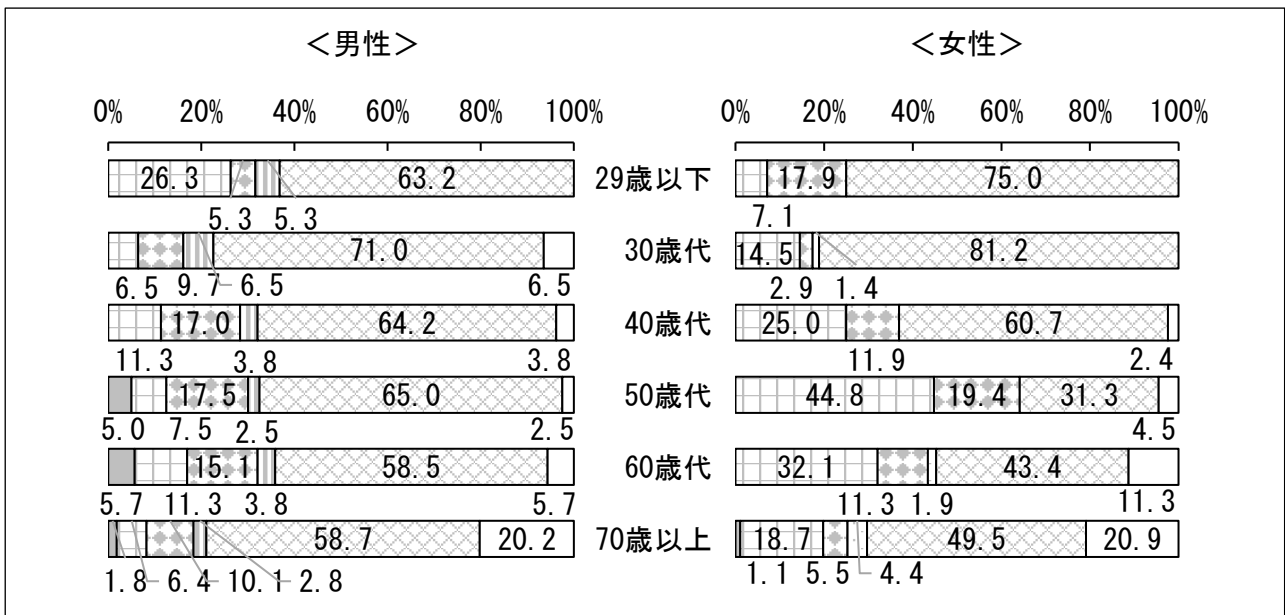


問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

⑧子どもと遊ぶ、勉強などを教える

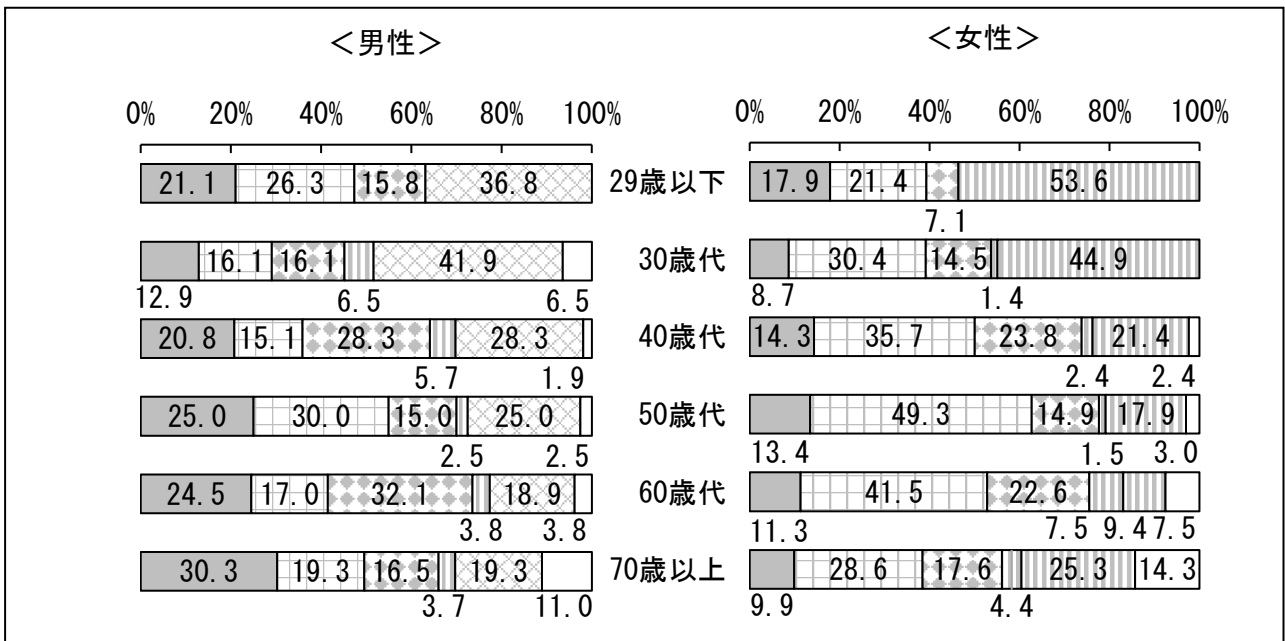


⑨高齢者や障がい者、病人の介護・看護

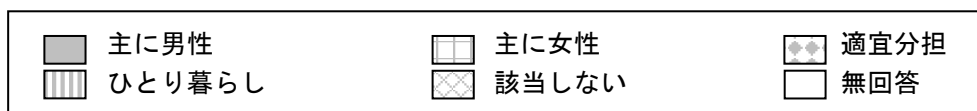
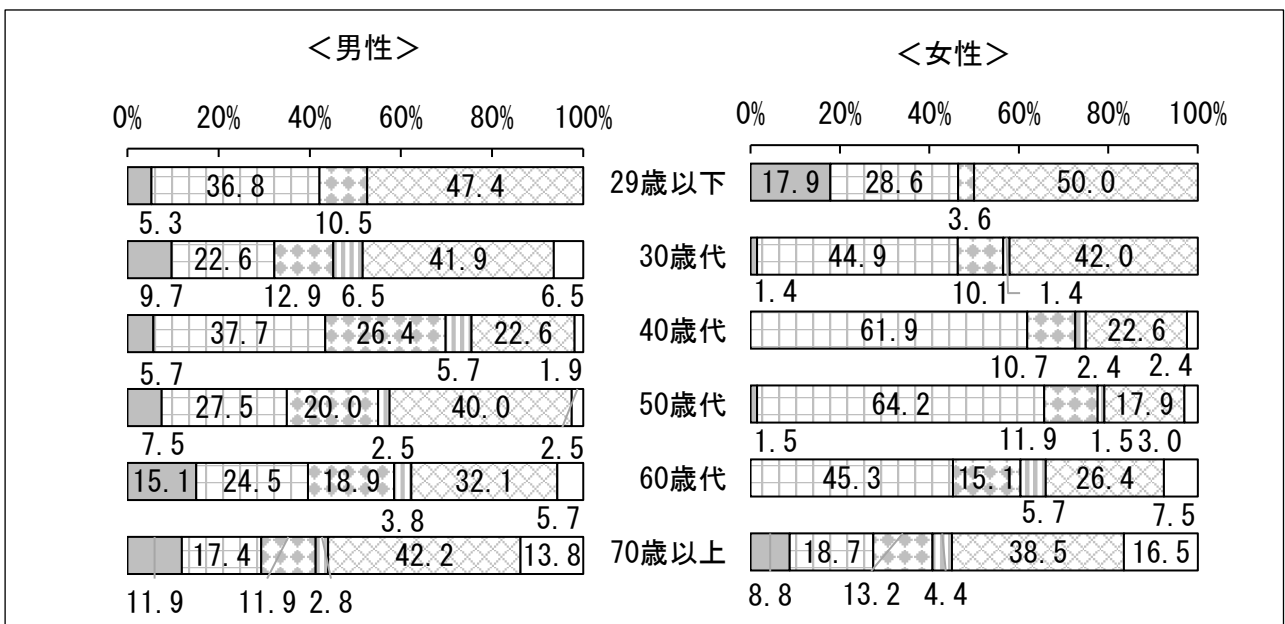


問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。

⑩町内会・自治会の活動



⑪PTA やボランティアなどの地域活動

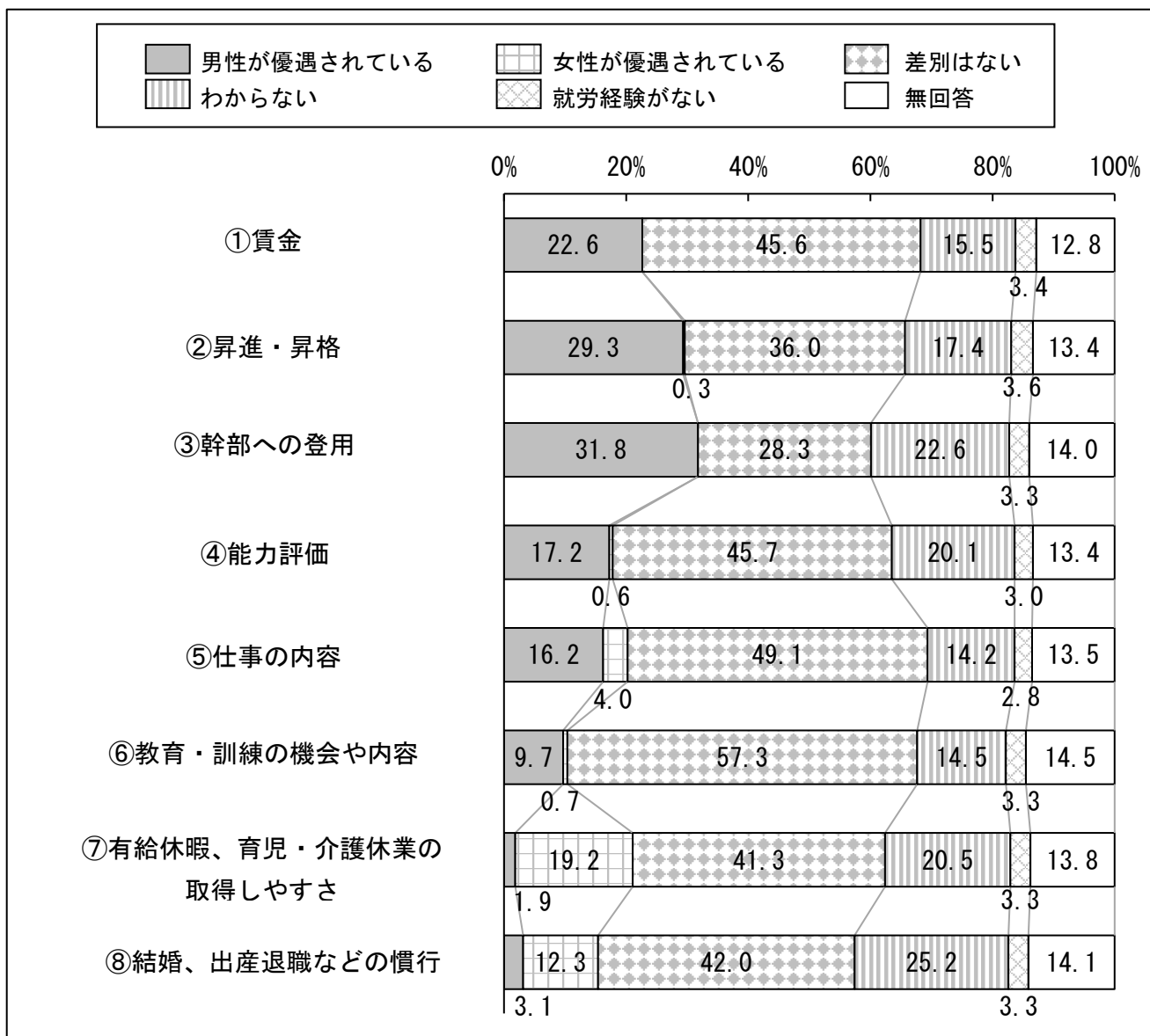


(3) 働き方

問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

ア 回答者全体

「昇進・昇格」や「幹部への登用」においては約3割の人が男性が優遇されていると答えている。ほか、「有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ」「結婚、出産退職などの慣行」を除く項目男性が優遇されているという回答がいずれも約1～2割ある。



問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

イ 男女別

男女で大きな差はないが、「昇進・昇格」「幹部への登用」では、女性の方が男性が優遇されていると回答している人がやや多く、「有給休暇、育児・介護休業の取得のしやすさ」「結婚、出産退職などの慣行」ではその逆の傾向が見られ、その他の項目では、男女ともに「男性が優遇されている」回答が約1～2割ある。

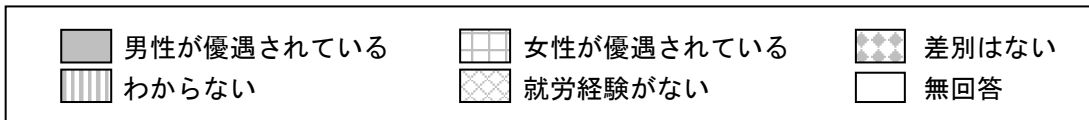
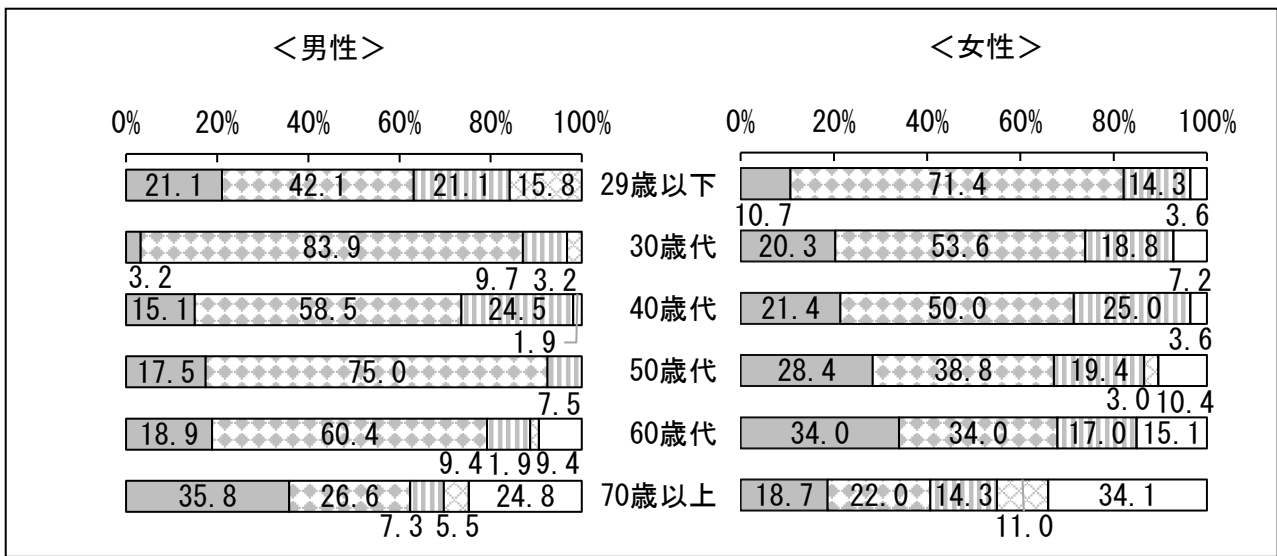


問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

ウ 年代別・男女別

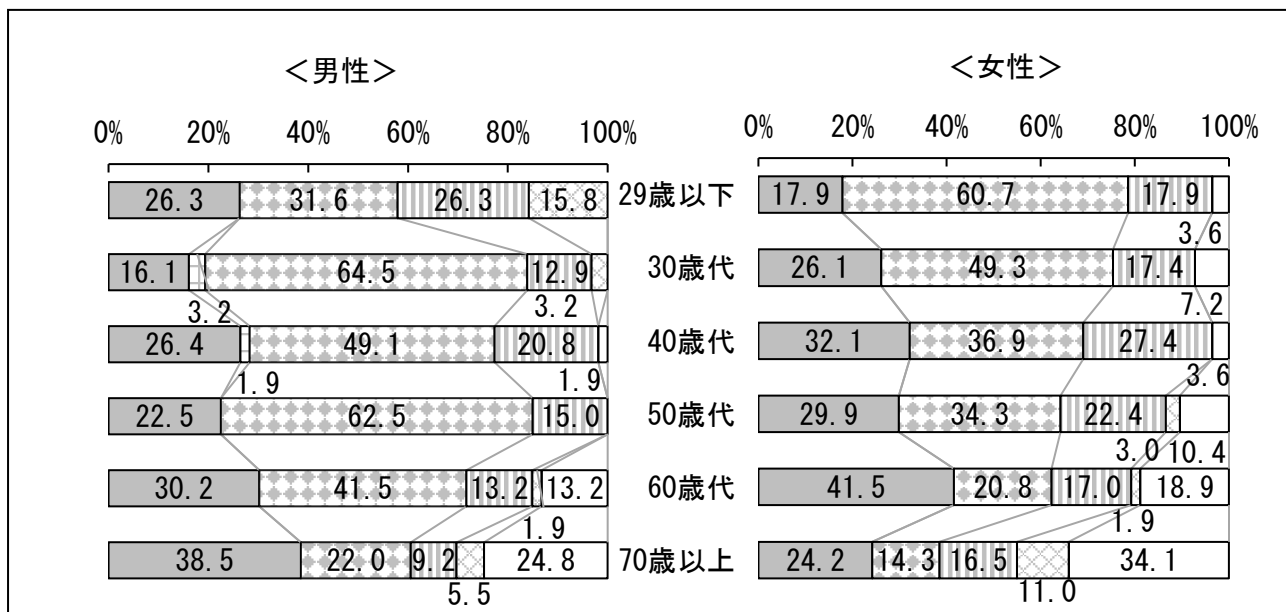
「男性が優遇されている」回答が、項目中最も多い「昇進・昇格」「幹部への登用」では、多くの年代で女性の方がそう考える人がやや多く、「女性が優遇されている」回答が、項目中最も多い「有給休暇、育児・介護の取得しやすさ」「結婚、出産退職などの慣行」ではその逆の傾向がみられる。

①賃金

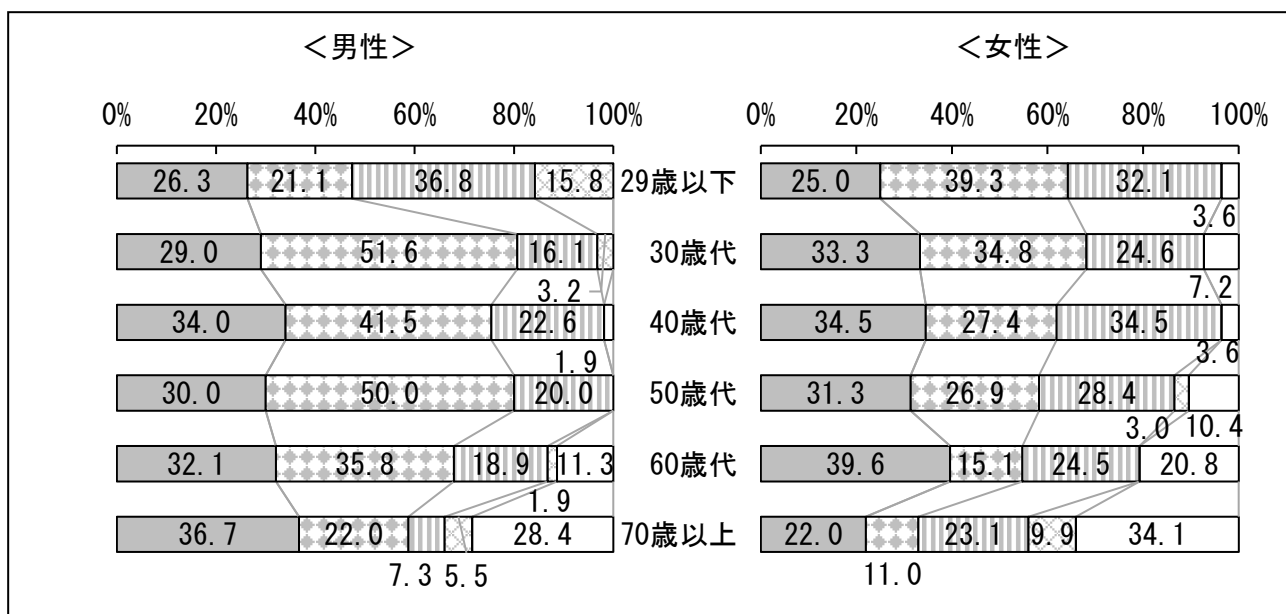


問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

②昇進・昇格

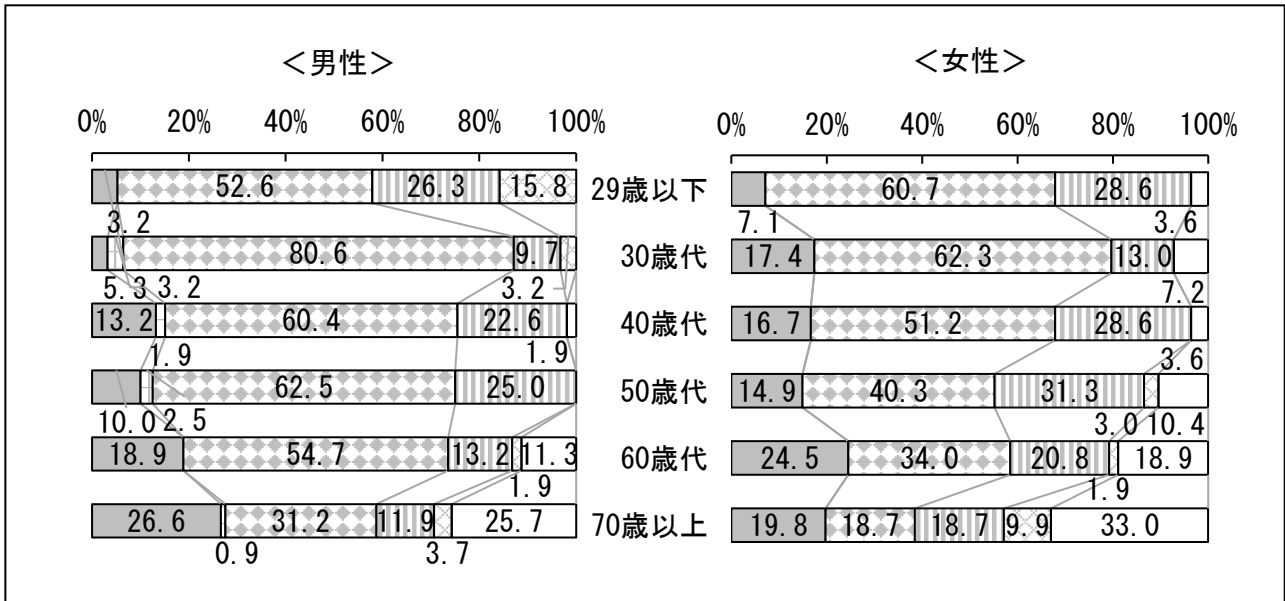


③幹部への登用

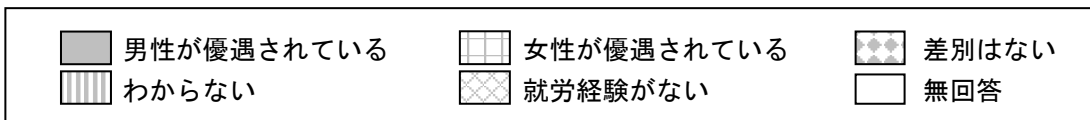
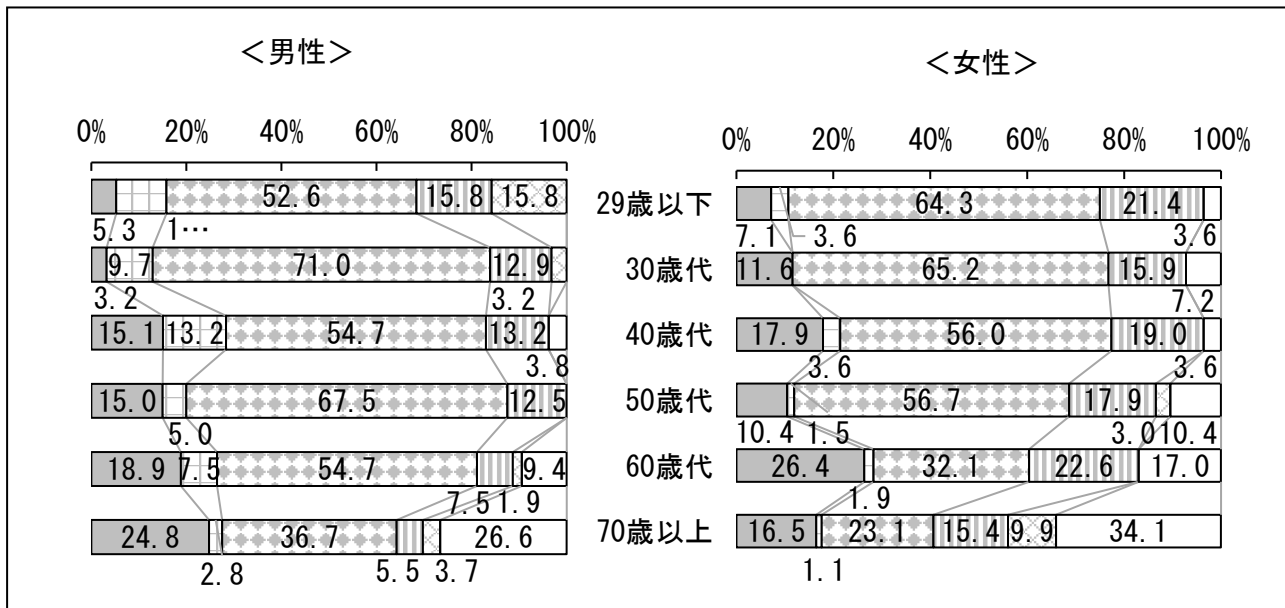


問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

④能力評価

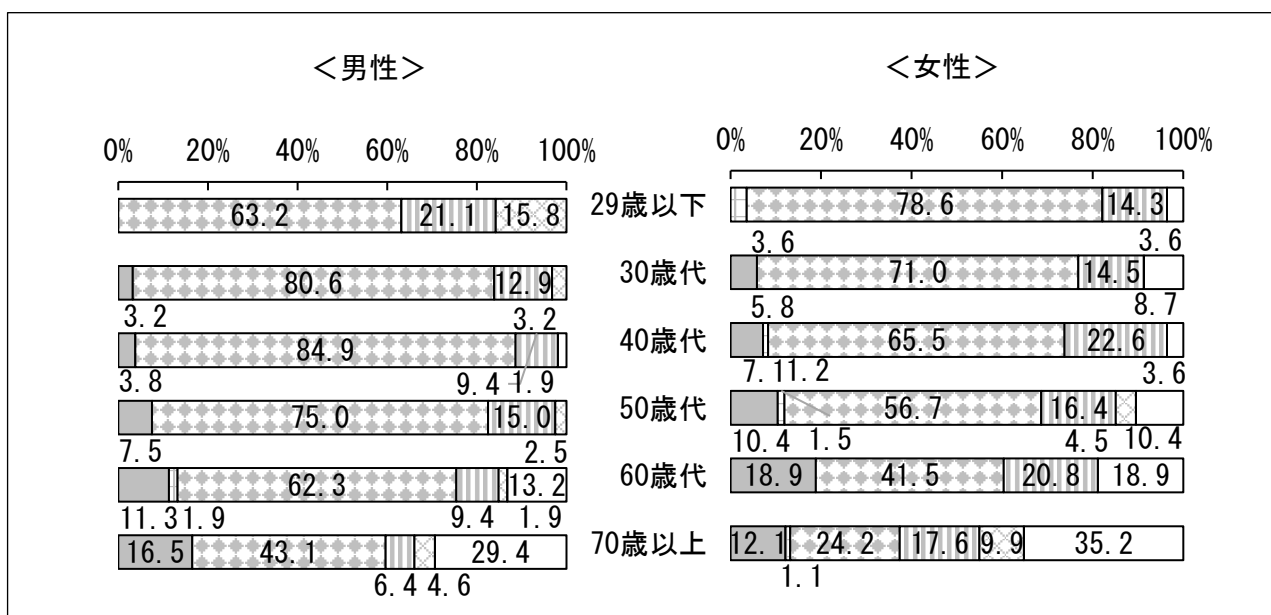


⑤仕事の内容

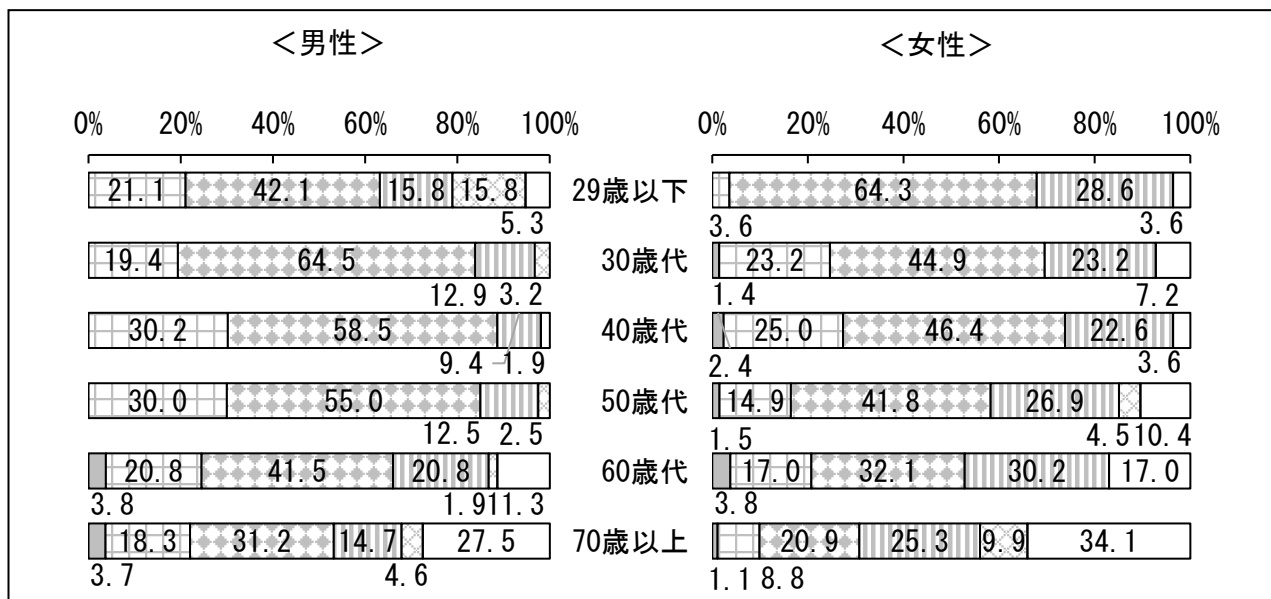


問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

⑥教育・訓練の機会や内容

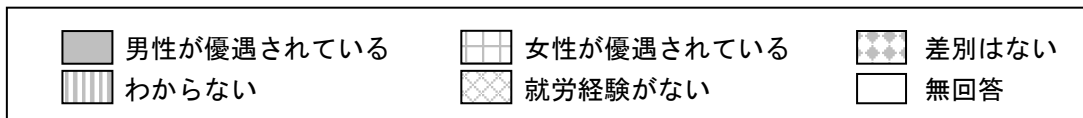
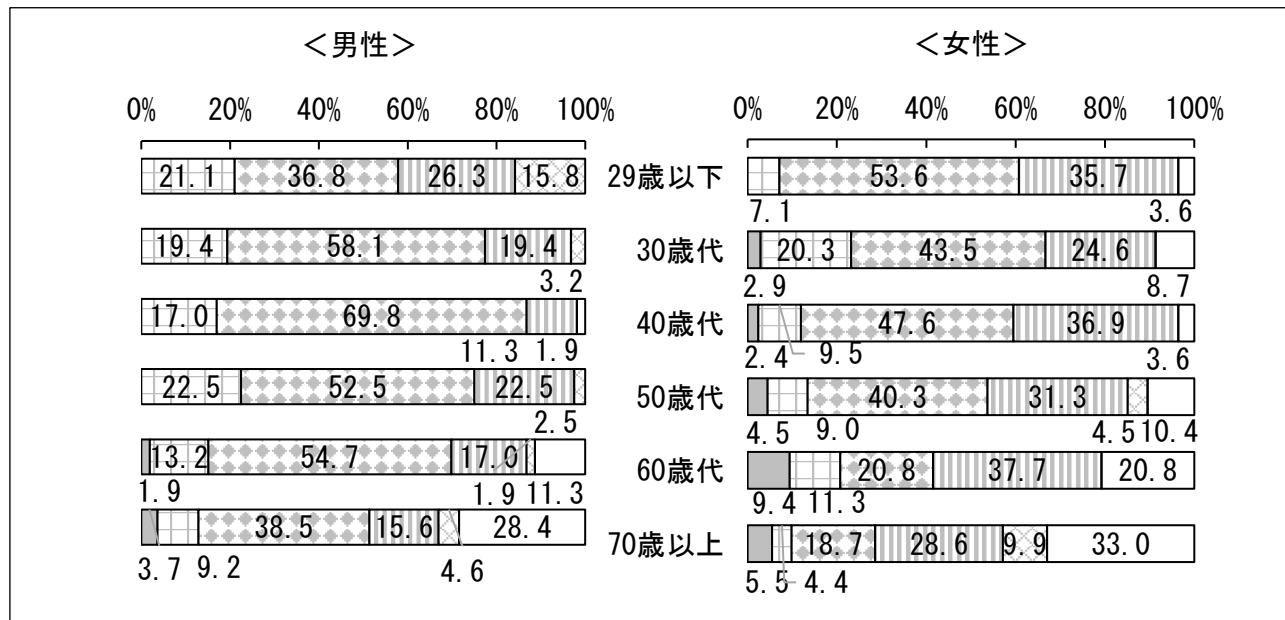


⑦有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ



問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。

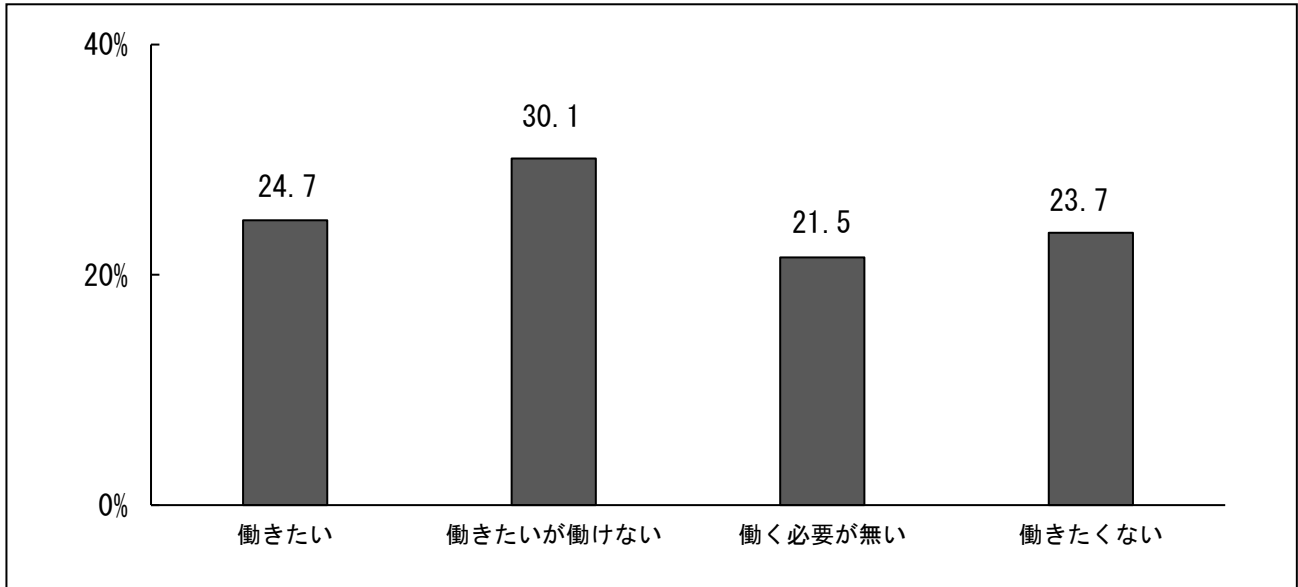
⑧結婚、出産退職などの慣行



問3 専業主婦・主夫、無職の方に伺います。現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。

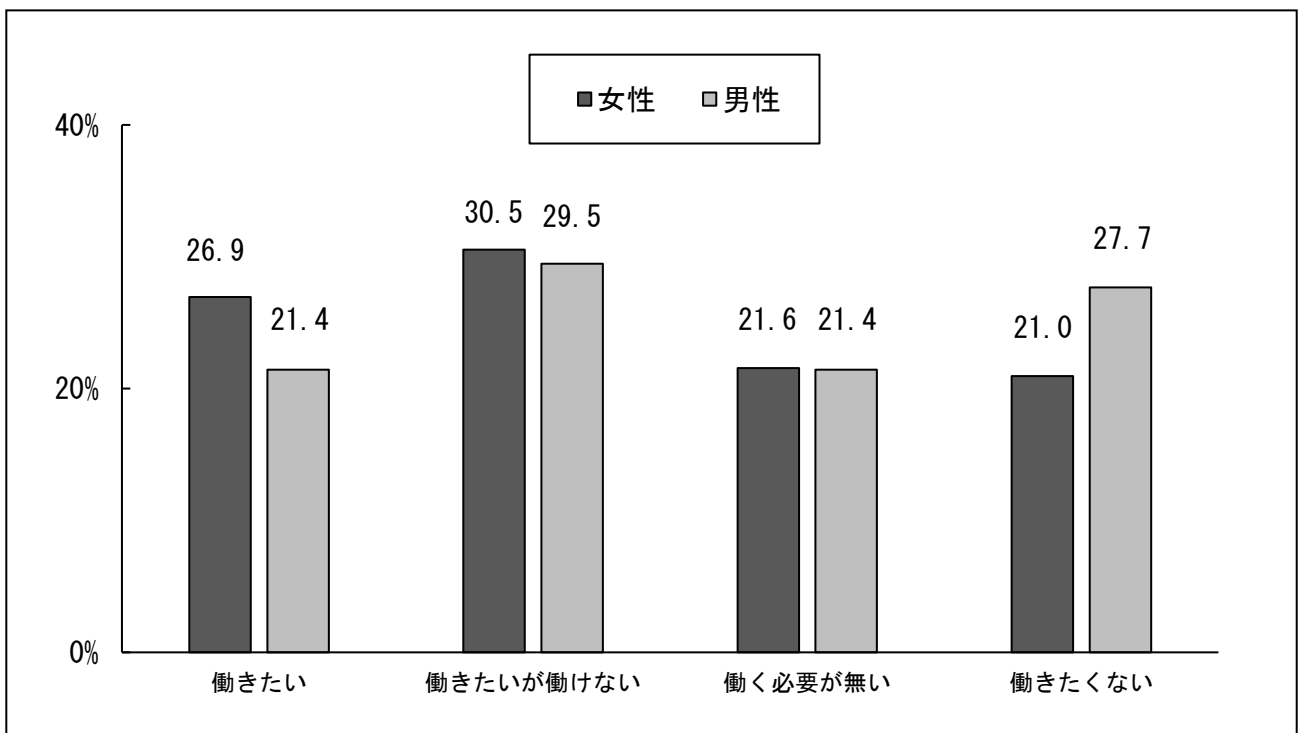
ア 回答者全体

回答は分かれているが、「働きたいが働けない」という回答がやや多くなっている。



イ 男女別

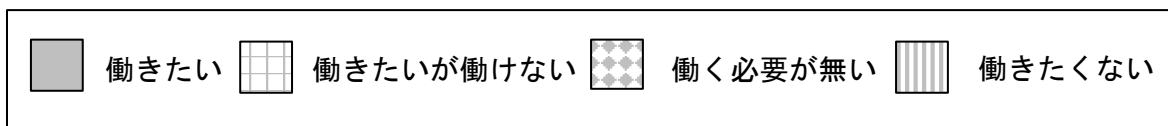
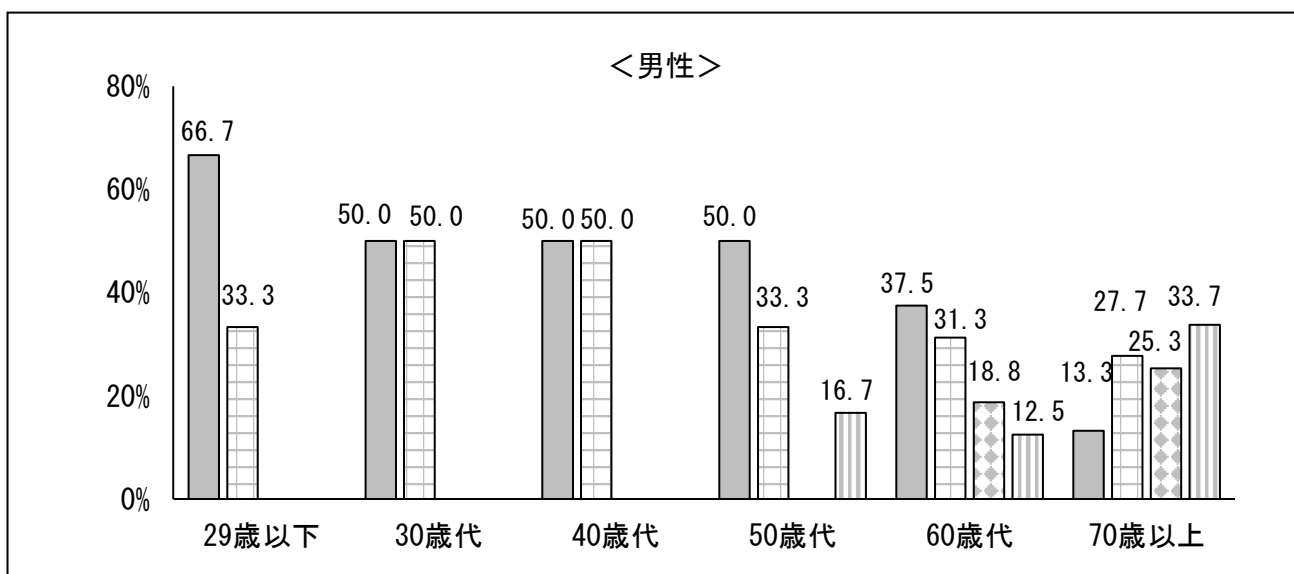
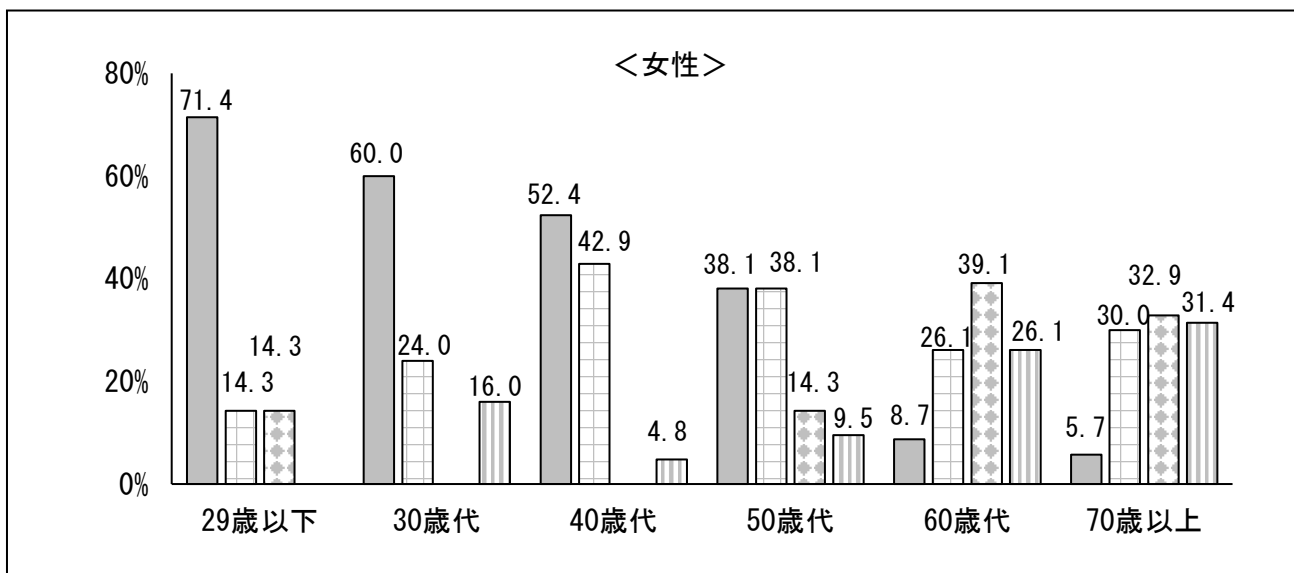
女性の方が、「働きたい」「働きたいが働けない」人の割合が高くなっている。



問3 専業主婦・主夫、無職の方に伺います。現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。

ウ 年代別・男女別

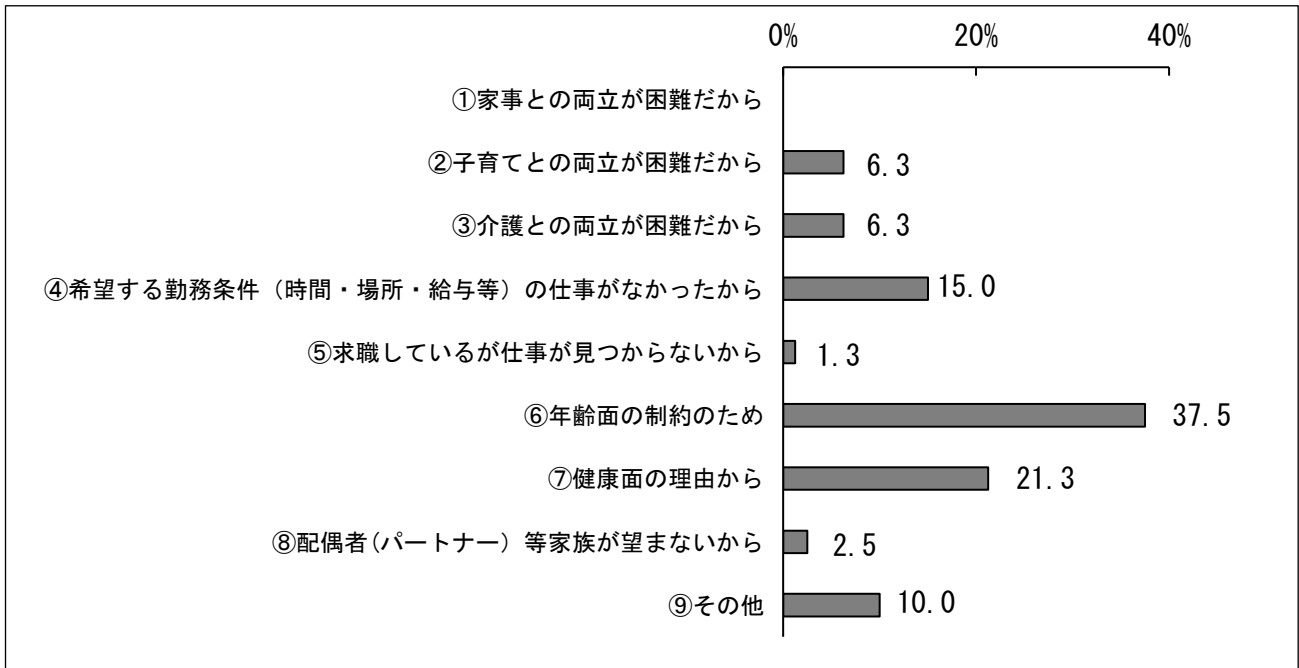
60歳以上を除くすべての年代で、女性の方が「働きたい」「働きたいが働けない」人の割合が高い。



問3-1 問3で「働きたいが働けない」を選んだ方へ、その最も大きな理由を選んでください。

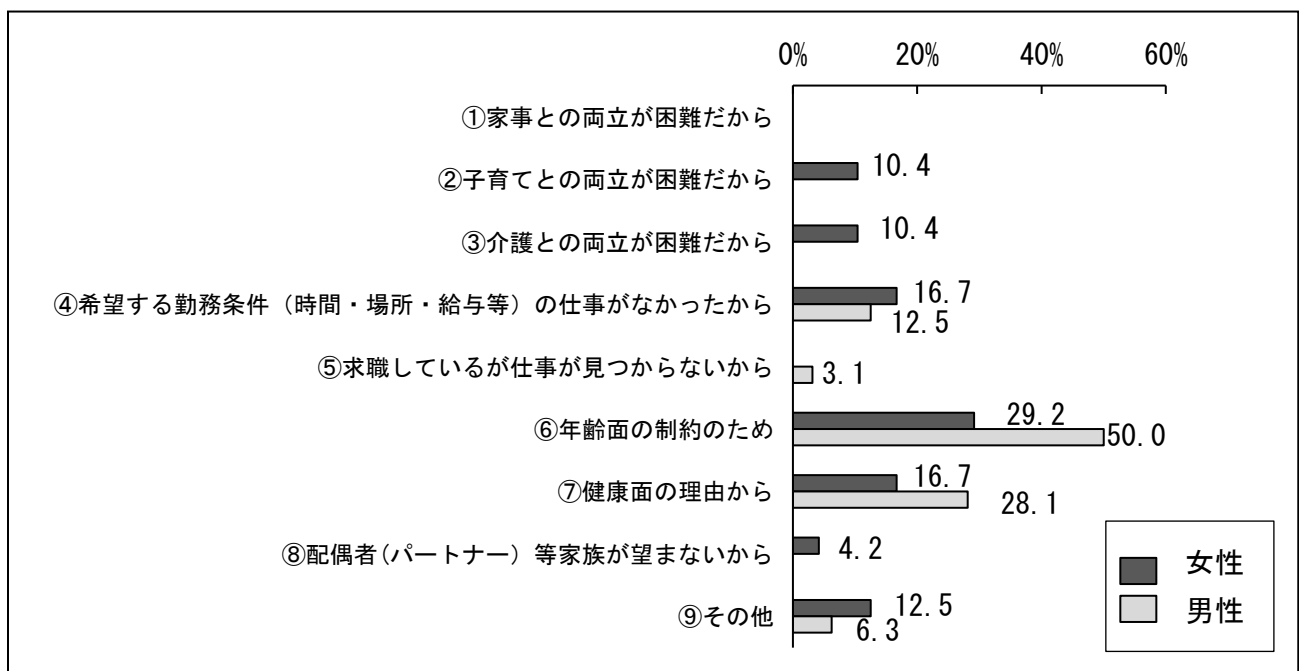
ア 回答者全体

回答者の年代が60歳以上が約半数であり、「年齢面の制約のため」「健康面の理由から」の回答が多い結果となっている。



イ 男女別

子育て・介護との両立のために働けない人は全員女性となっている。



ウ 年代別・男女別

項目	性別	年代							合計
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
②子育てとの両立が困難だから	女性	0	3	2	0	0	0	0	5
③介護との両立が困難だから	女性	0	0	2	2	0	1	0	5
④希望する勤務条件（時間・場所・給与等）の仕事がなかったから	女性	0	1	5	1	0	1	0	8
	男性	0	0	1	0	1	2	0	4
⑤求職しているが仕事が見つからないから	男性	1	0	0	0	0	0	0	1
⑥年齢面の制約のため	女性	0	0	0	2	2	10	0	14
	男性	0	0	0	0	3	13	0	16
⑦健康面の理由から	女性	0	1	0	1	2	4	0	8
	男性	0	1	0	2	1	5	0	9
⑧配偶者（パートナー）等家族が望まないから	女性	0	0	0	0	1	1	0	2
⑨その他	女性	1	1	0	2	0	2	0	6
	男性	0	0	0	0	0	2	0	2

<「その他」の主な意見>

- ◆子どもの預け先（保育園）が見つからない。（女性，29歳以下）
- ◆子どもを預ける所が決まらないと、就活・就職できない。（女性，30歳代）

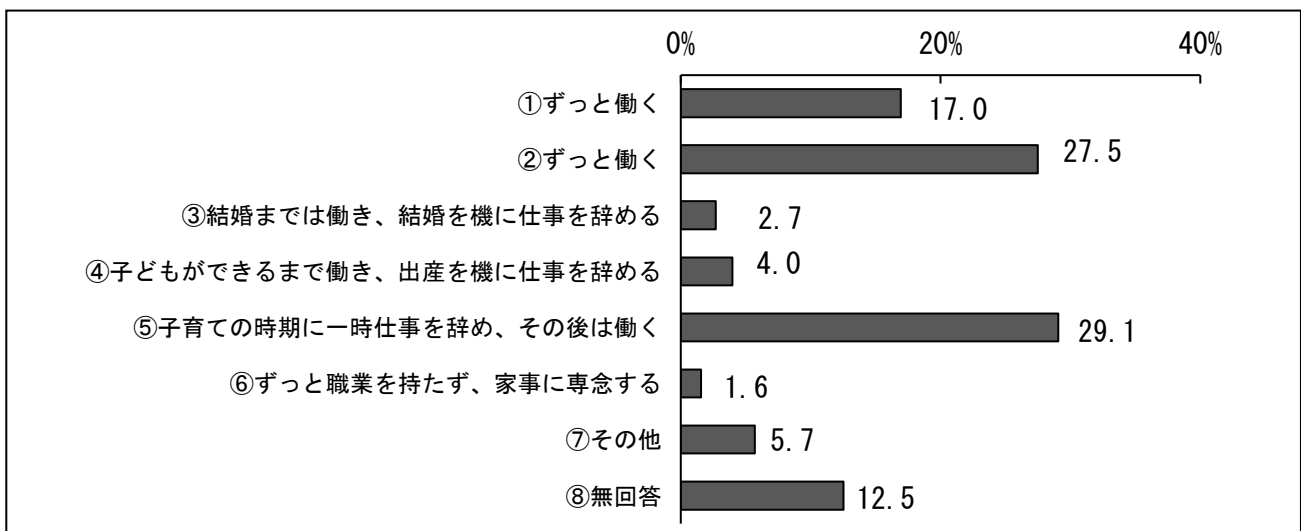
問4 女性の理想の働き方を選んでください。

※「①ずっと働く」は、勤務条件等を変えない※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む

※「②ずっと働く」は、結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす

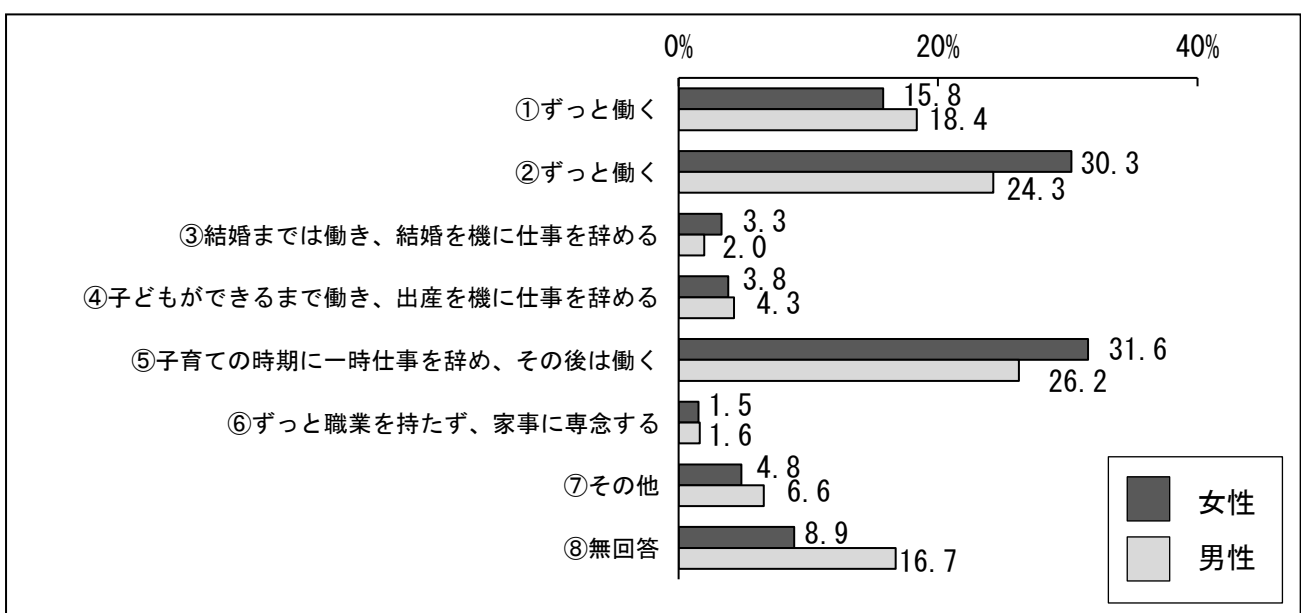
ア 回答者全体

「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」と「ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）」の回答に次いで「ずっと働く（勤務条件等を変えない※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む）」の回答が多かった。



イ 男女別

女性の方が「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」「ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）」の回答の割合が高く、男性の方が「ずっと働く（勤務条件等を変えない※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む）」の割合が高い。



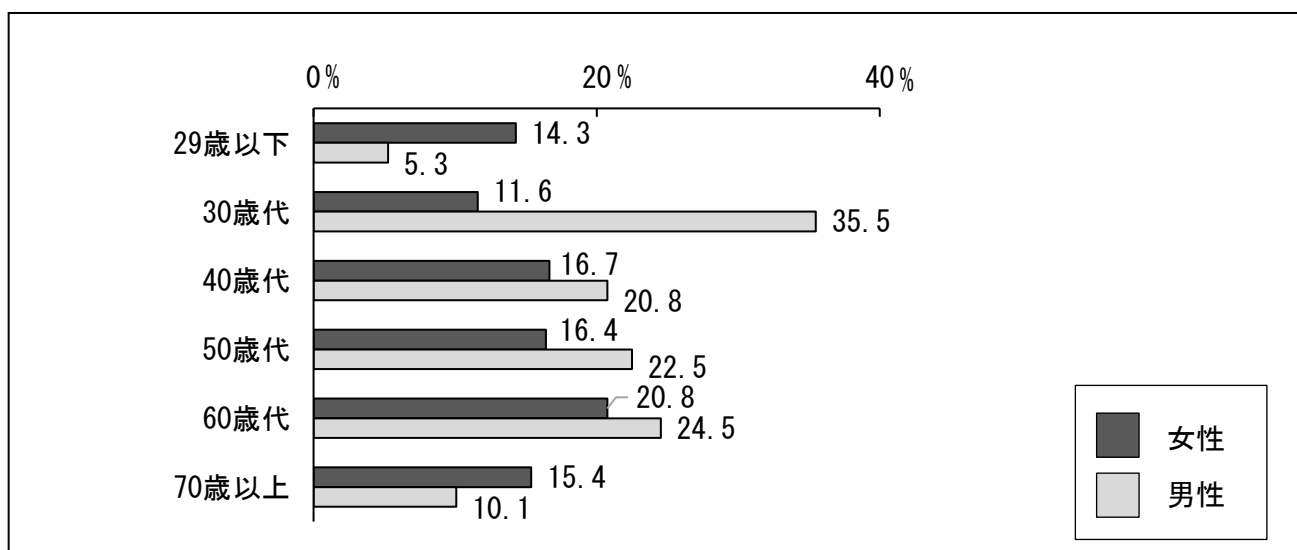
問4 女性の理想の働き方を選んでください。

ウ 年代別・男女別

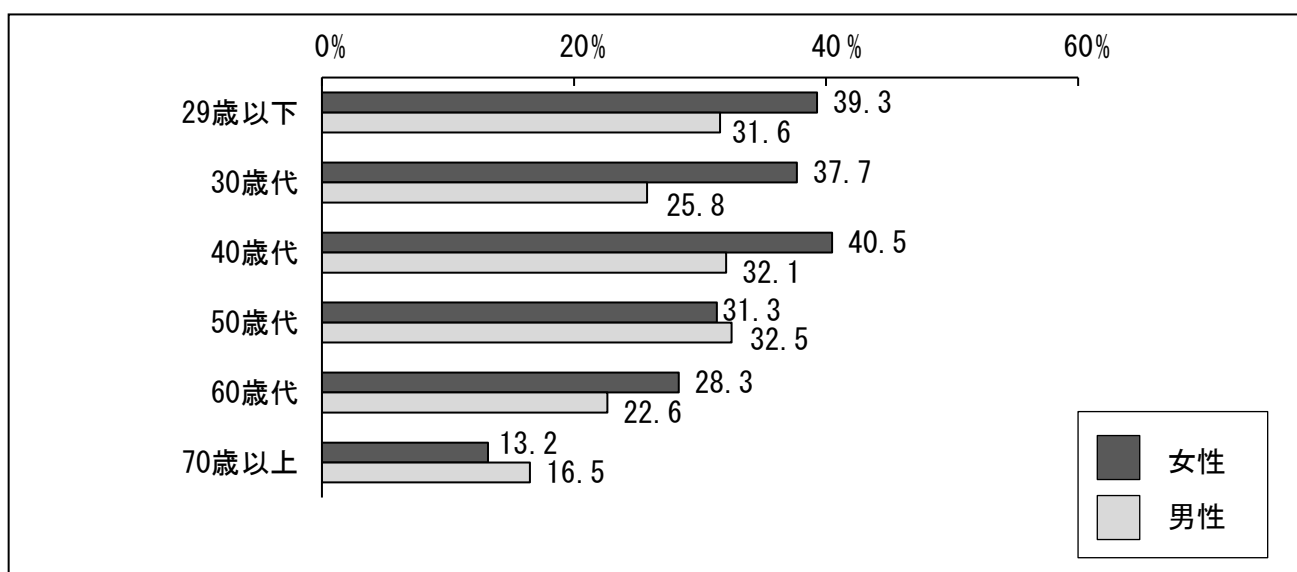
30歳代の男性で「ずっと働く（勤務条件等を変えない）」と回答した人は3割以上で、他の年代でもおおむね男性の方が割合が高い。

「ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）」を選んだ人が多く、29歳以下～40歳代の女性では約4割に達している。

①ずっと働く（勤務条件等を変えない※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む）

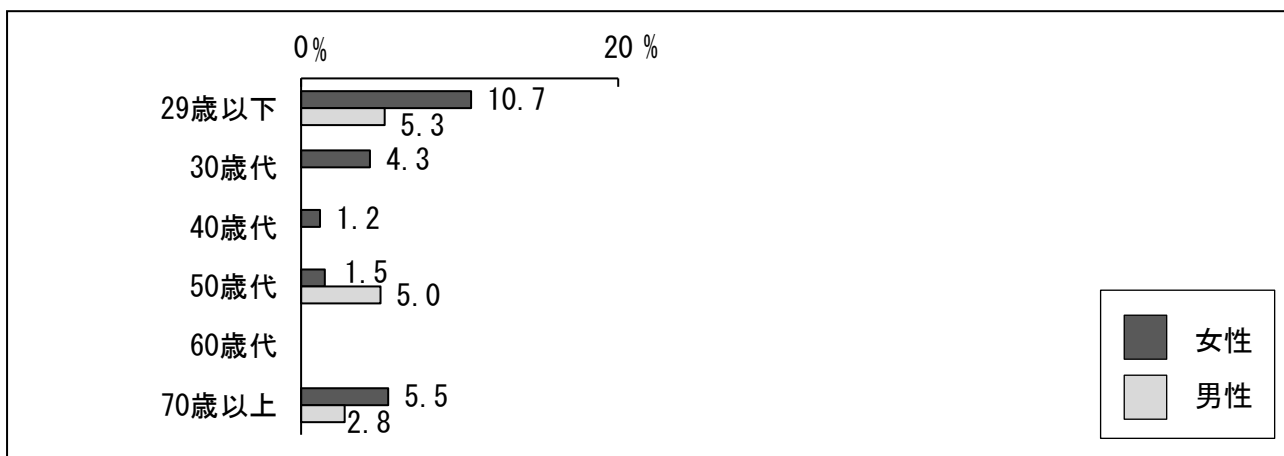


②ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）

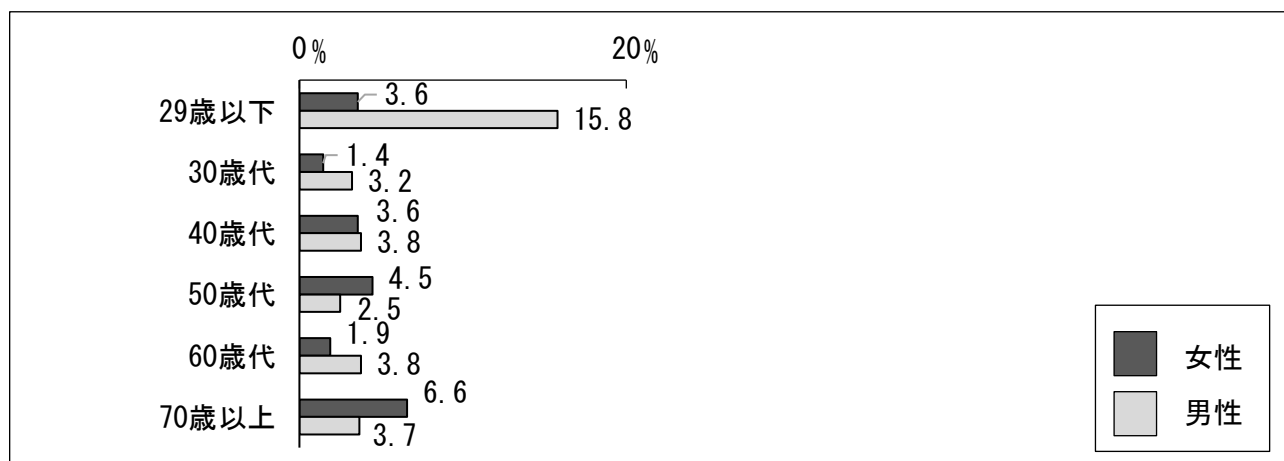


問4 女性の理想の働き方を選んでください。

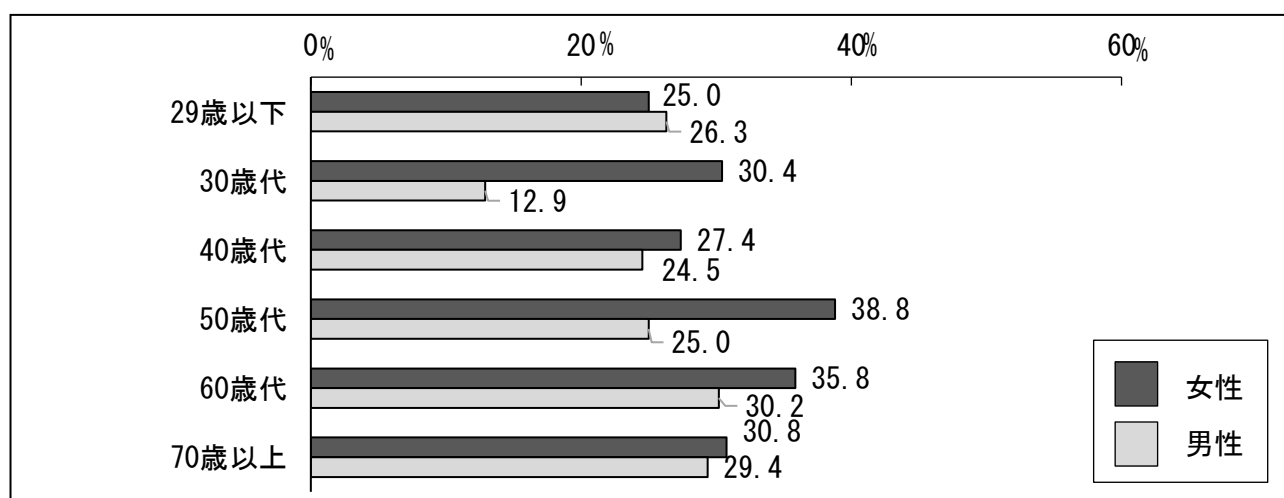
③結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める



④子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める

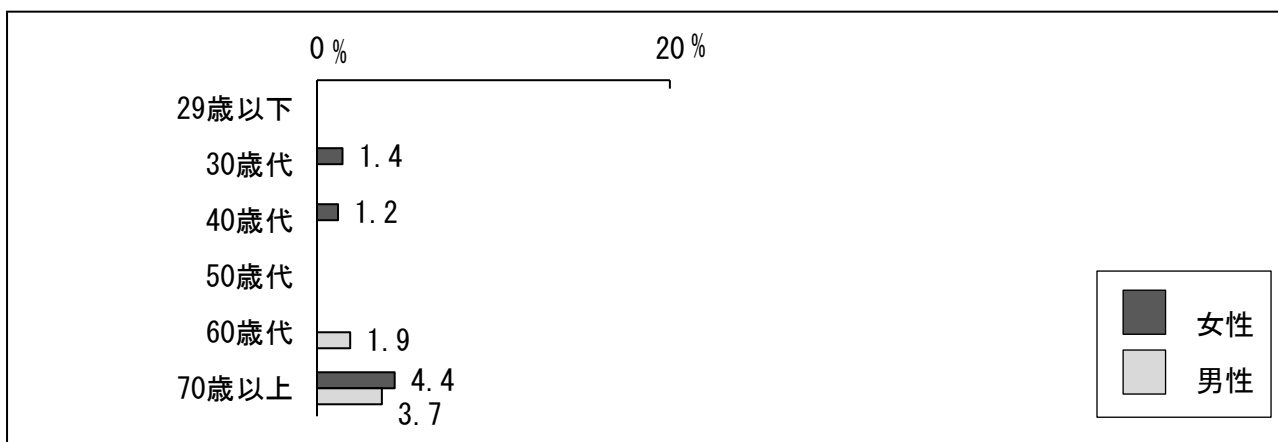


⑤子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く

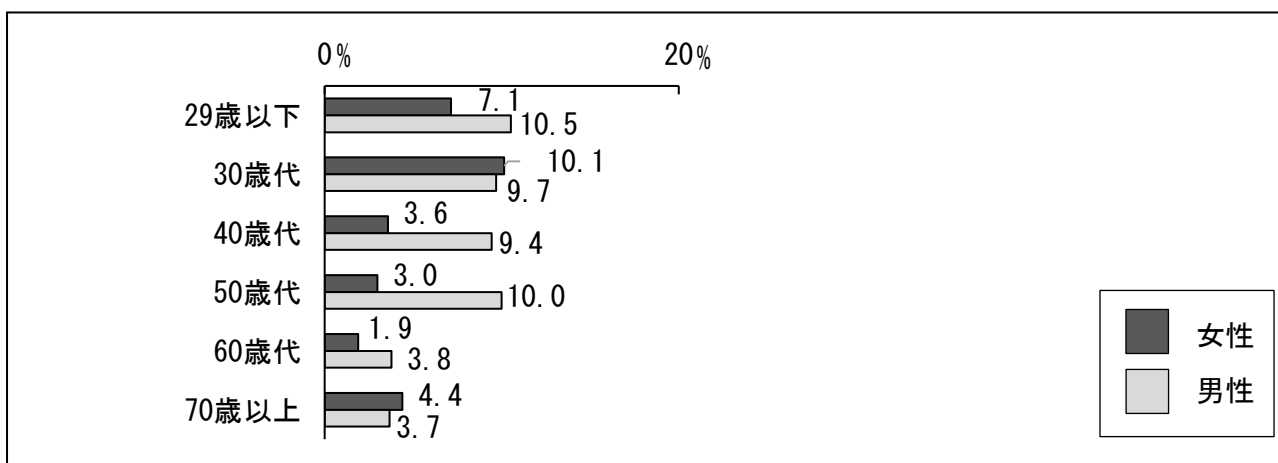


問4 女性の理想の働き方を選んでください。

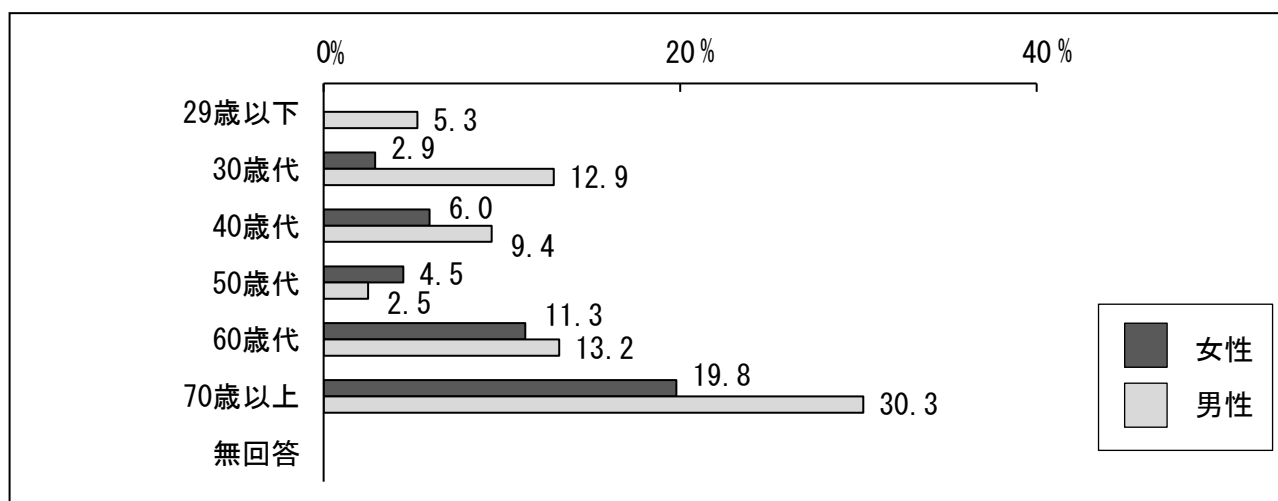
⑥ずっと職業を持たず、家事に専念する



⑦その他



⑧無回答



問4 女性の理想の働き方を選んでください。

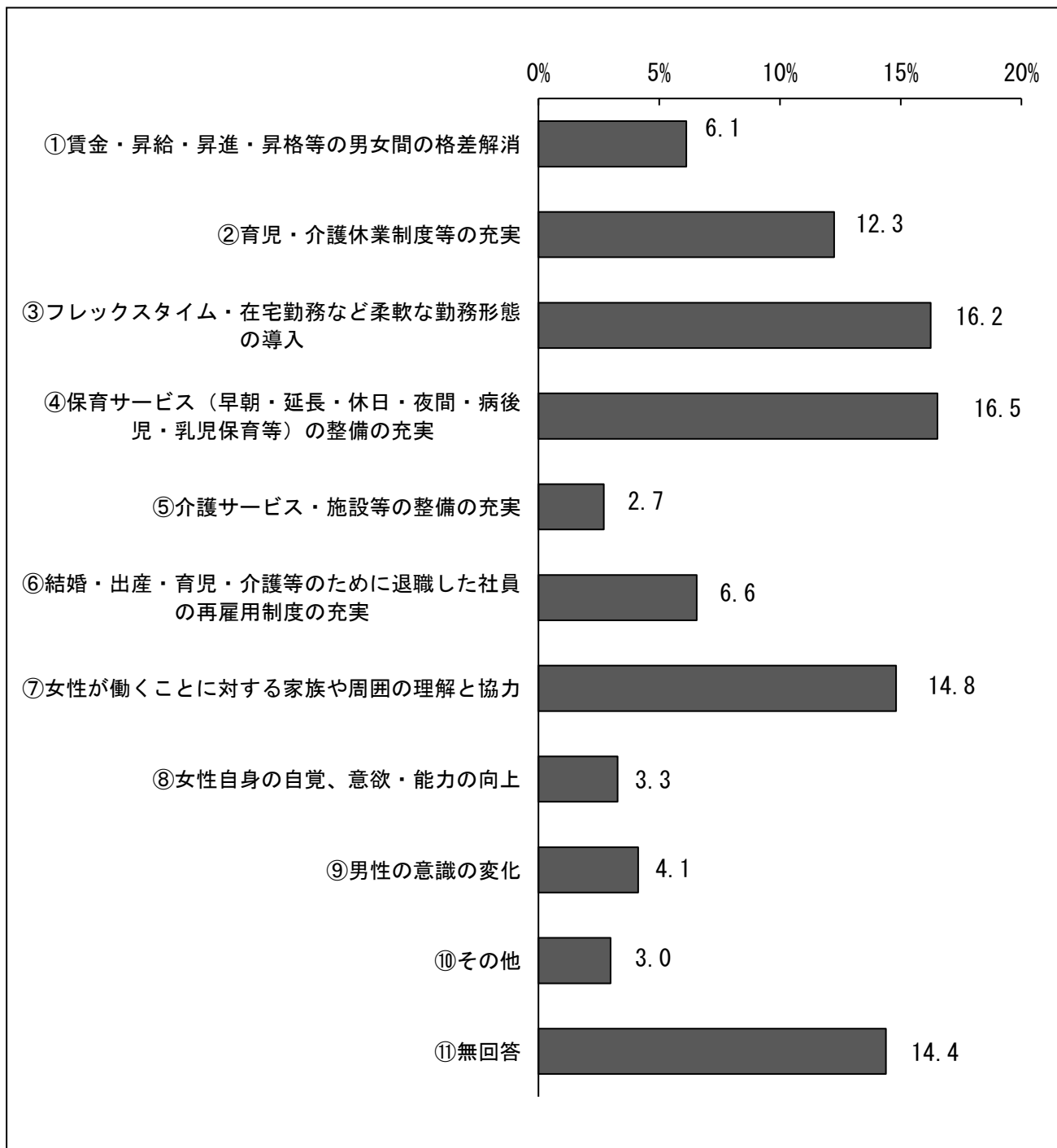
<「その他」の主な意見>

- ◆女性1人1人で違う働き方ができることが理想。(女性, 29歳以下)
- ◆女性も男性も関係なく、働きたければ働ける環境がある。家庭を中心にしたければそのようにできる環境が理想だと思う。(女性, 30歳代)
- ◆本人が考える働き方を尊重すべき。(男性, 30歳代)
- ◆理想は特になく、個人、家庭環境で決めればよいと思う。(男性, 40歳代)
- ◆人それぞれでその時の事情によると思う。(男性, 50歳代)
- ◆人それぞれ。男性女性に限らず。その時々を選べるとよい。(無回答)

問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。
最も必要だと思うものを選んでください。

ア 回答者全体

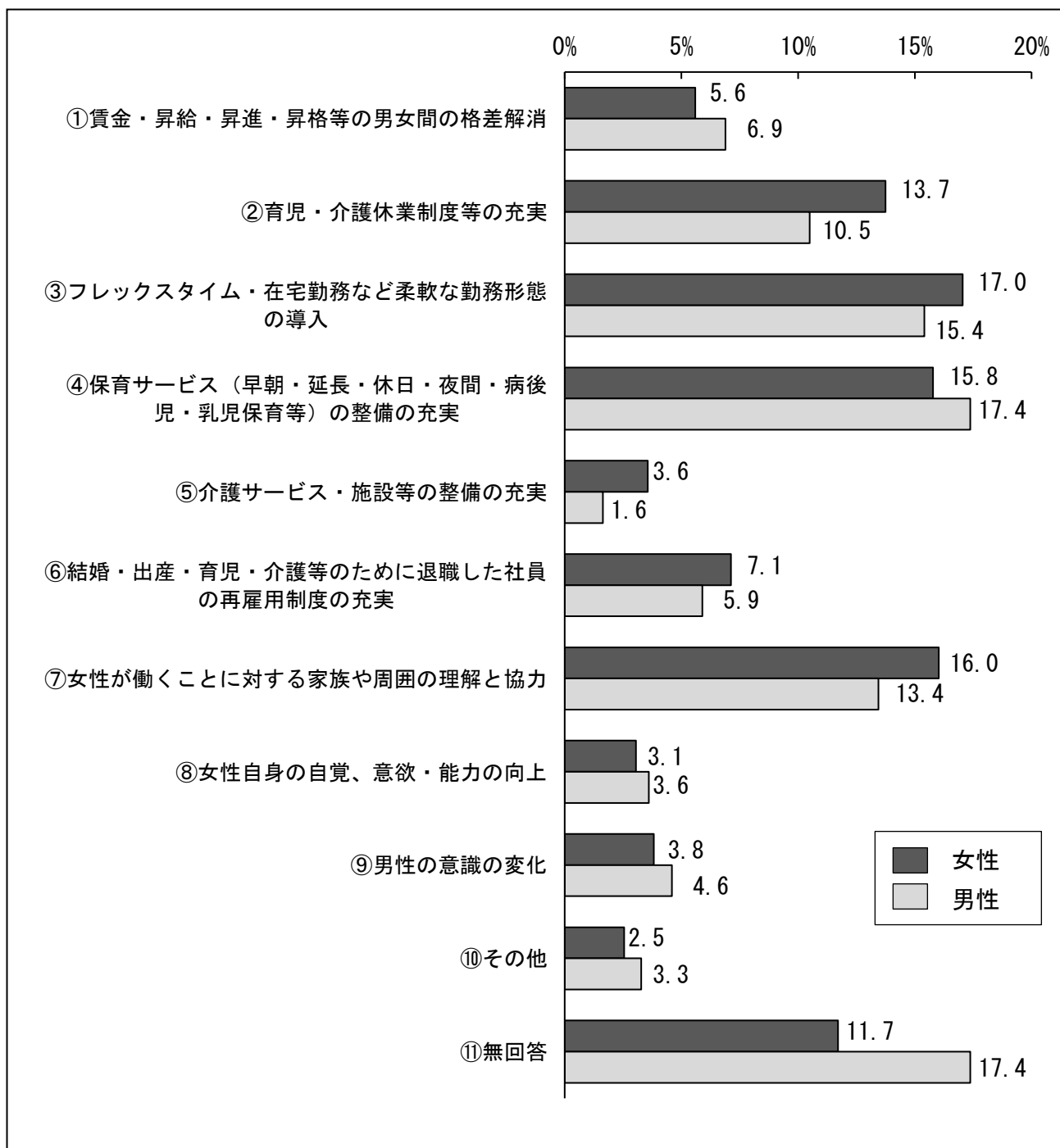
「保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実」の回答が多く、次いで「フレックスタイム・在宅勤務などの柔軟な勤務形態の導入」の回答が多かった。



問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。最も必要だと思うものを選んでください。

イ 男女別

男女で大きな差はないが、「賃金・昇給・昇格等の男女間の格差解消」「保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実」では男性の方が割合がやや高く、「育児・介護休業制度等の充実」「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」などでは、女性の方が割合がやや高くなっている。

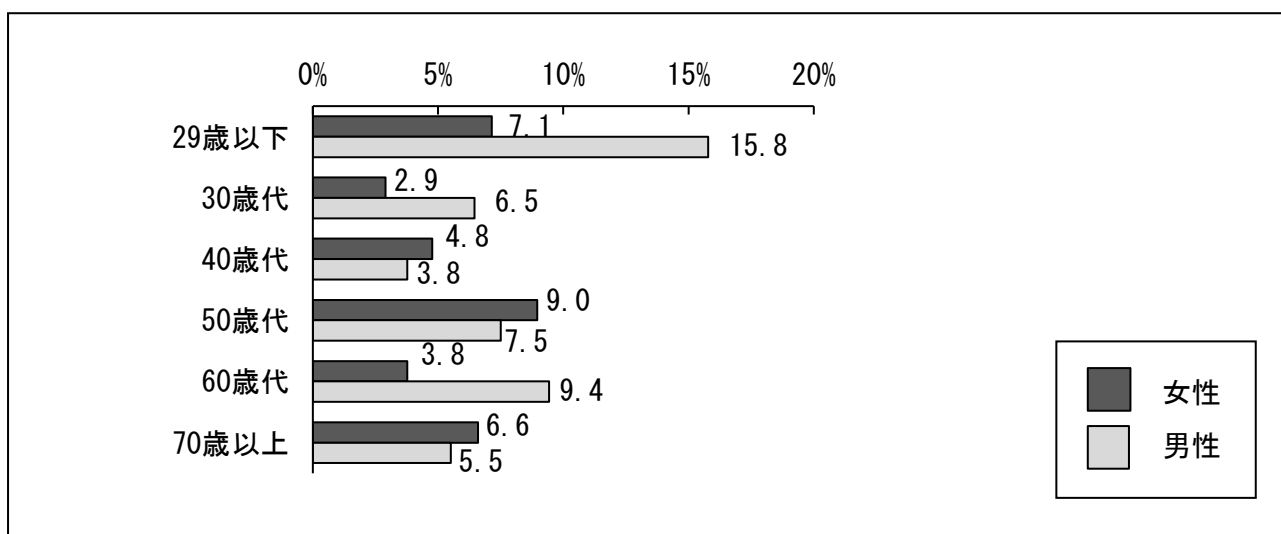


問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。
最も必要だと思うものを選んでください。

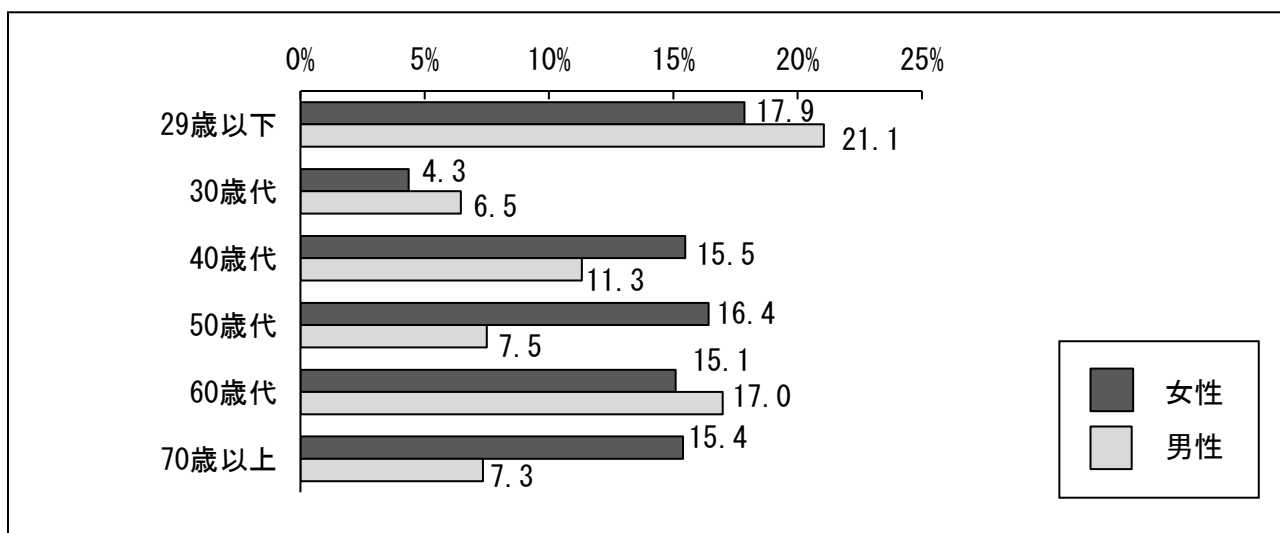
ウ 年代別・男女別

30歳代の男女ともに、他の年代よりも「育児、介護休業制度等の充実」の割合が低く、いずれの年代、男女ともに回答が多かった「フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入」「保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実」の回答が他の年代よりも多くなっている。

①賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消

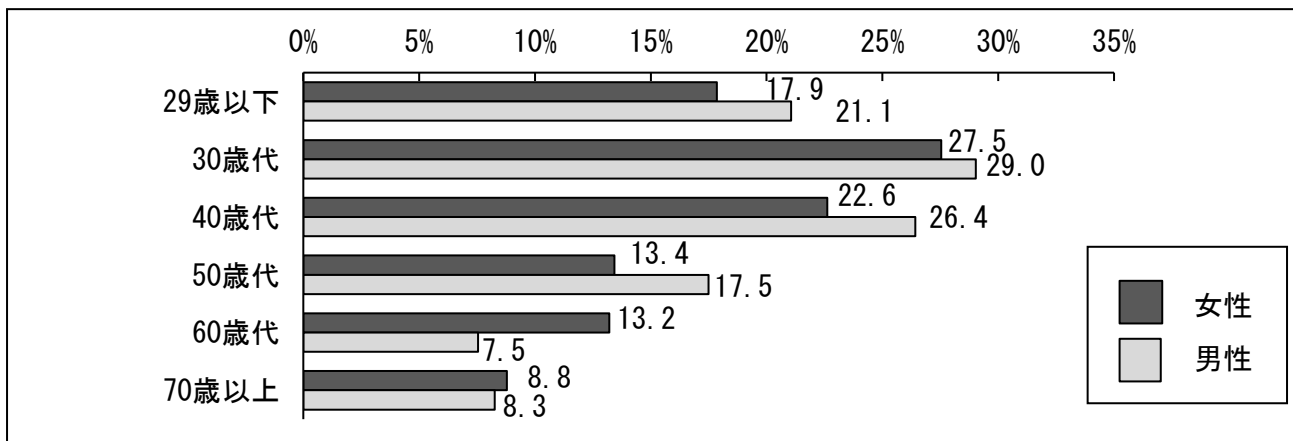


②育児・介護休業制度等の充実

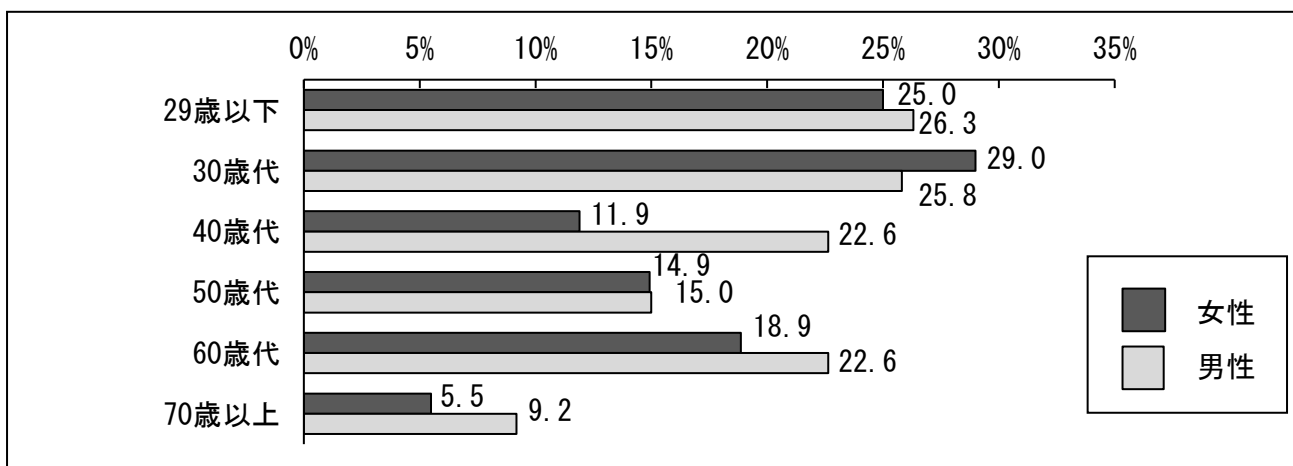


問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。
最も必要だと思うものを選んでください。

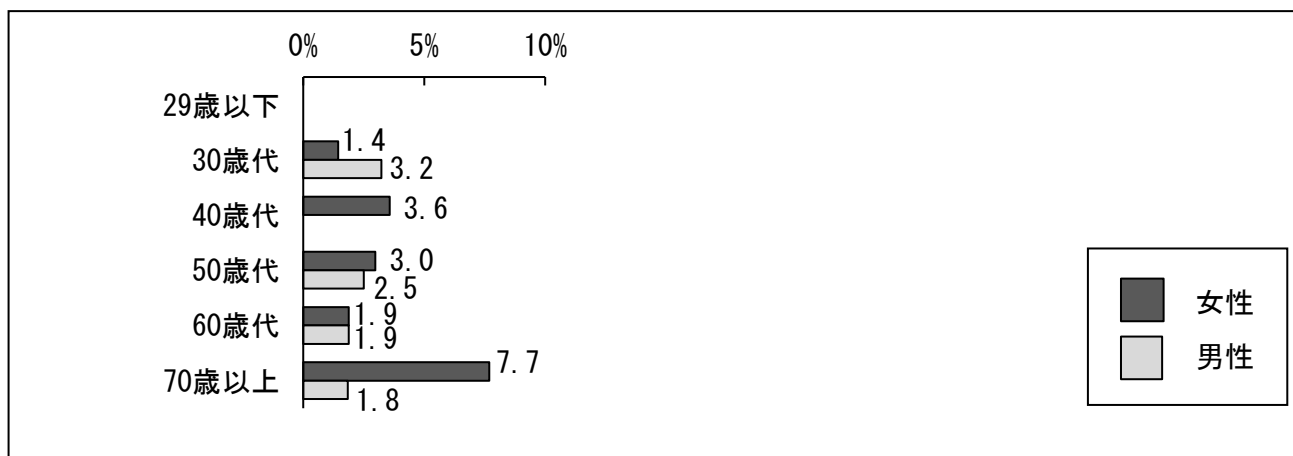
③フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入



④保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実

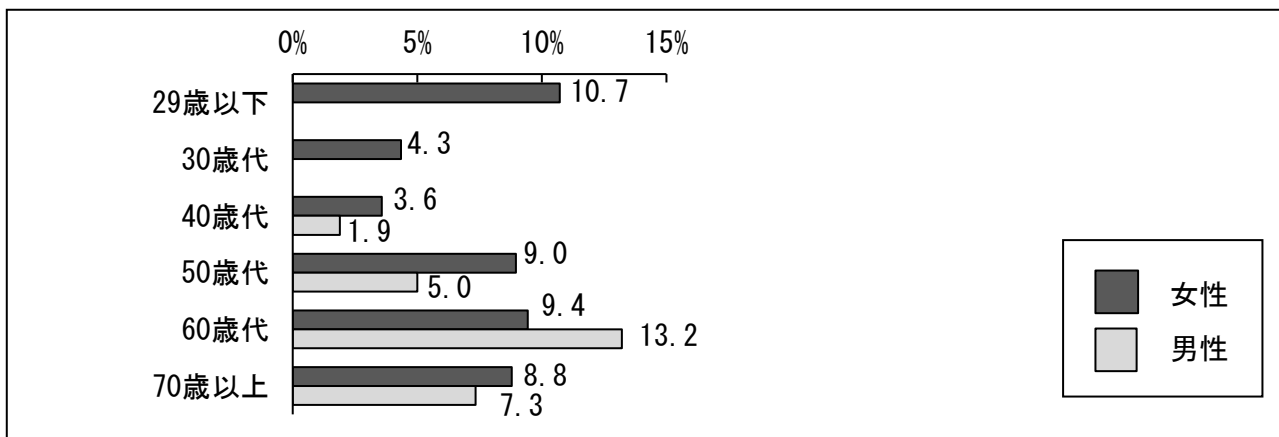


⑤介護サービス・施設等の整備の充実

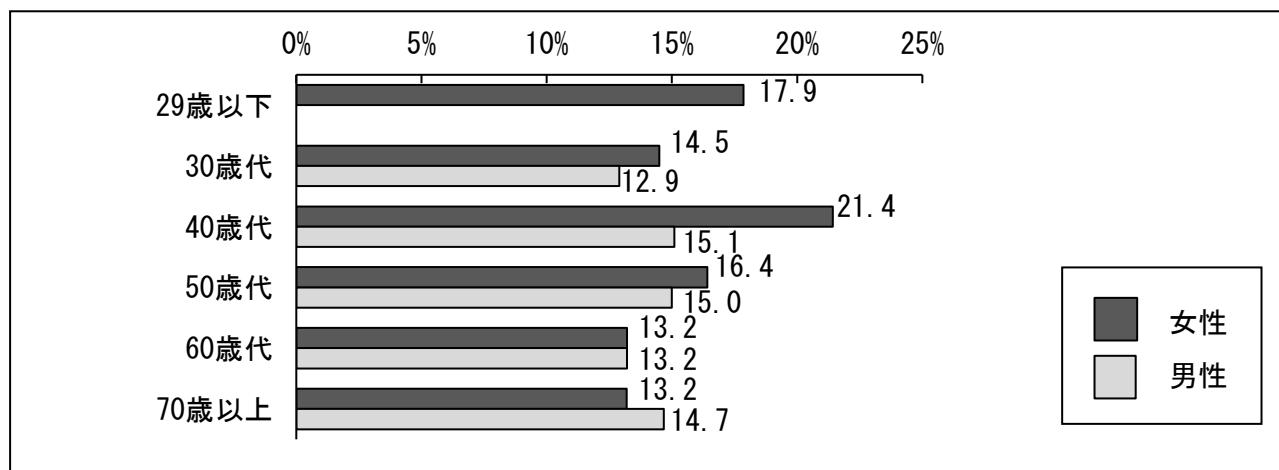


問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。
最も必要だと思うものを選んでください。

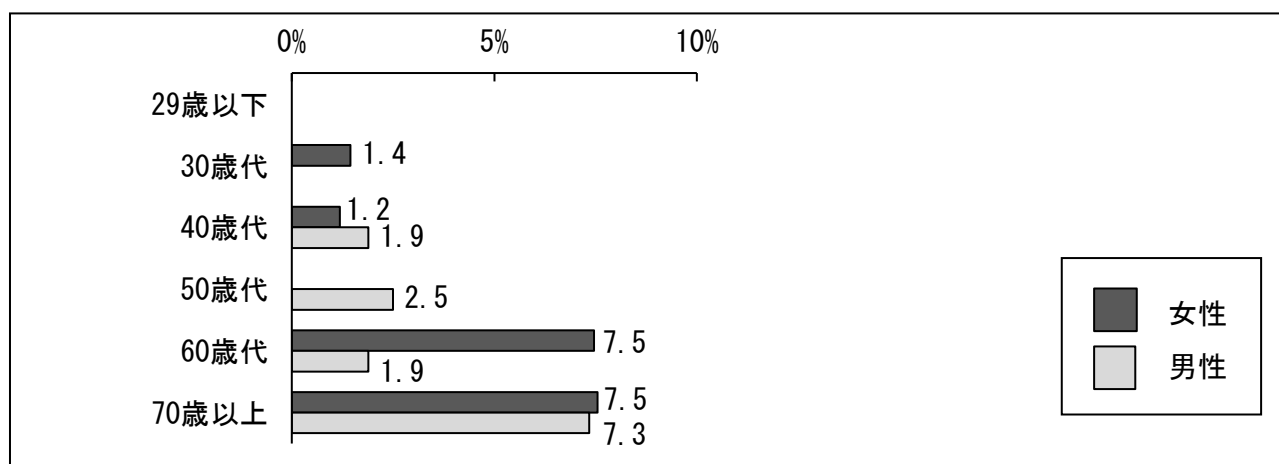
⑥結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実



⑦女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力



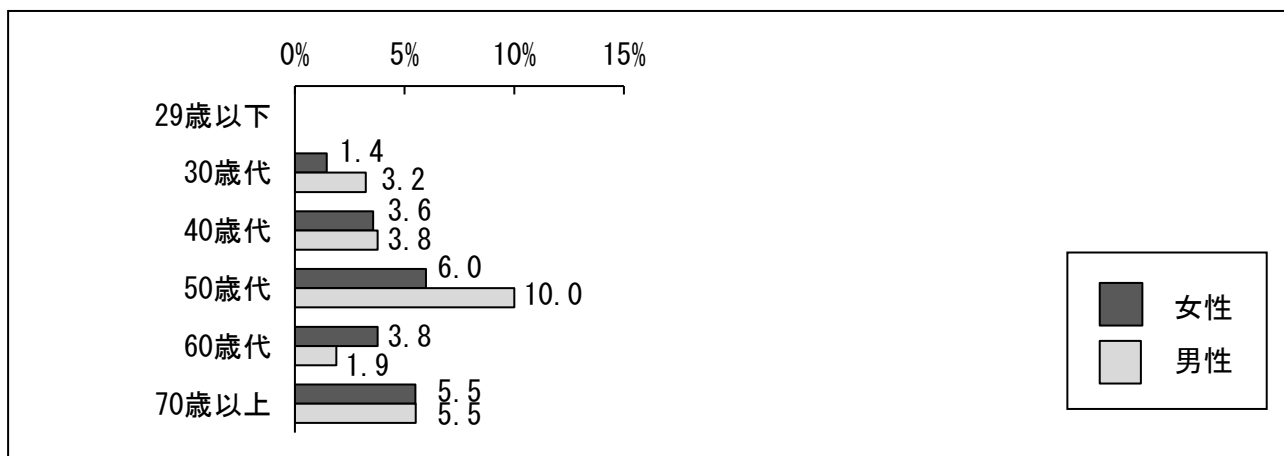
⑧女性自身の自覚、意欲・能力の向上



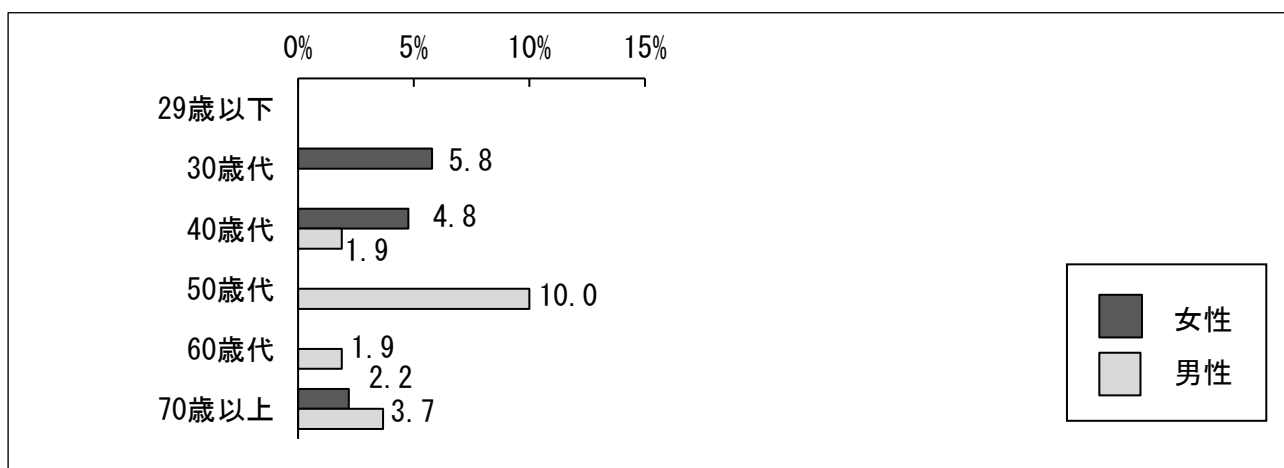
問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。

最も必要だと思うものを選んでください。

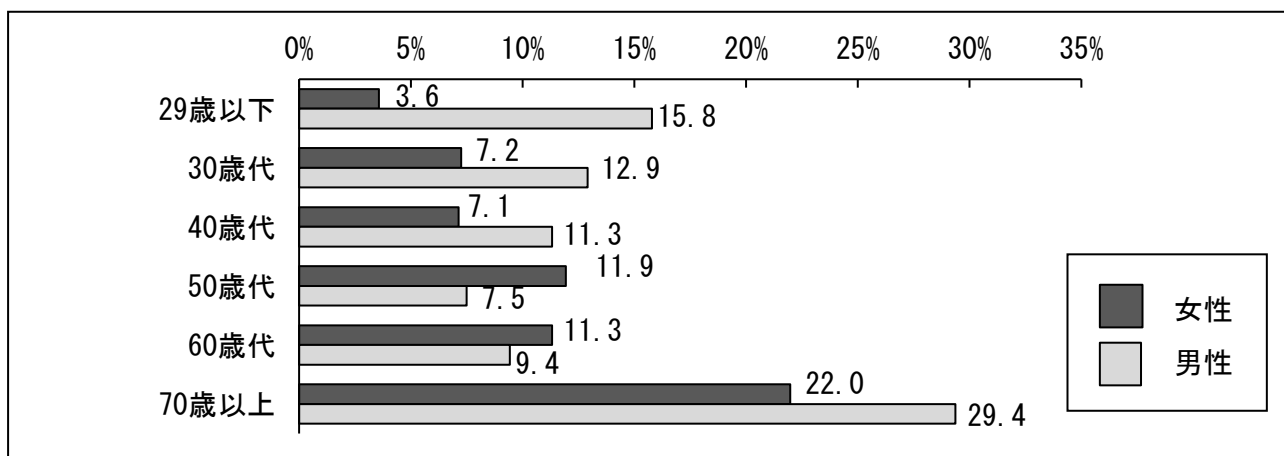
⑨男性の意識の変化



⑩その他



⑪無回答



問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。

最も必要だと思うものを選んでください。

<「その他」の主な意見>

◆学校の用事を減らす。職場に授乳室設置。つわりの際に休めるベッドがある。(女性, 30歳代)

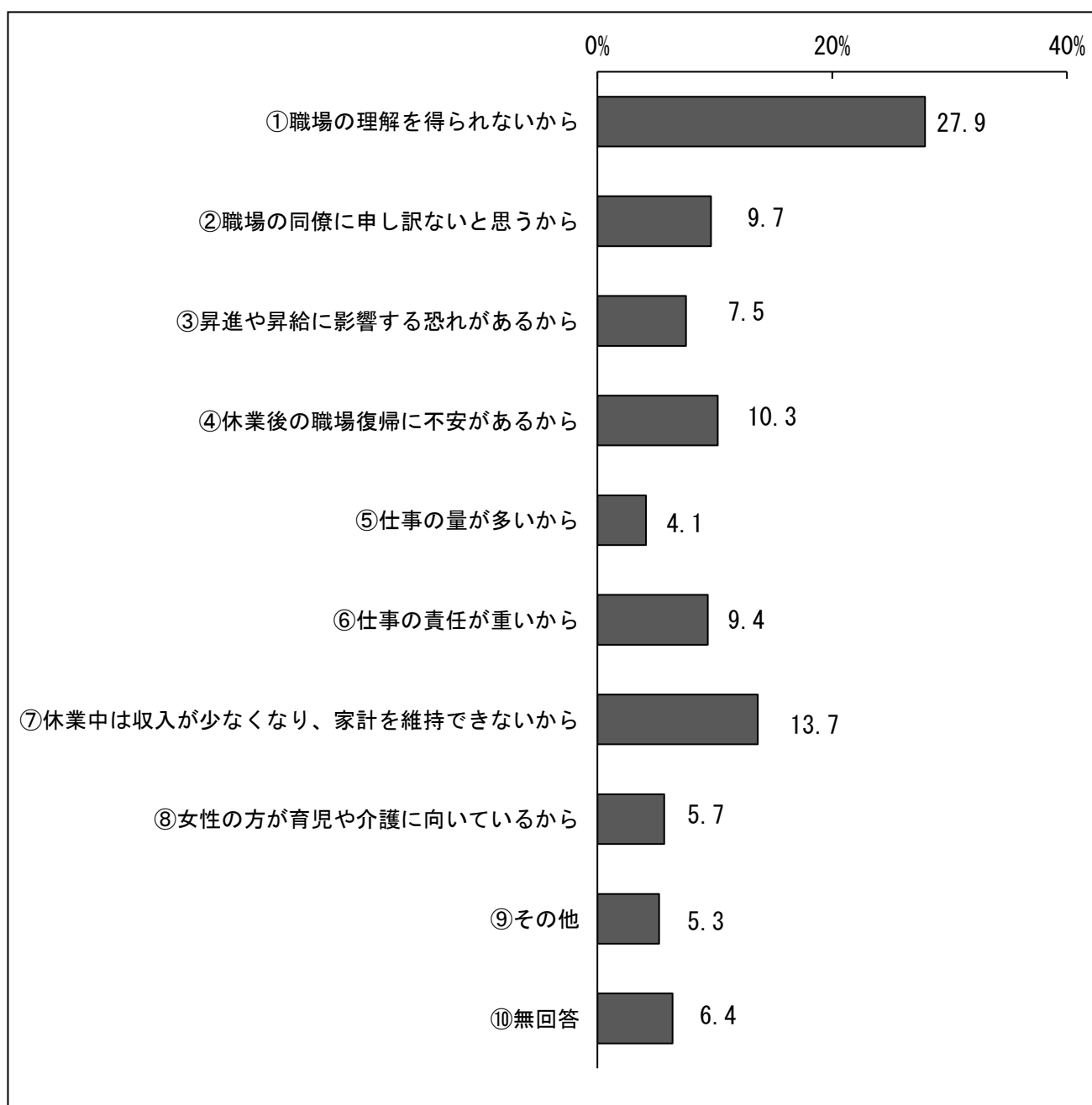
◆家事も育児も仕事も多くのごことに目を配らないといけない状況を減らす。(女性, 40歳代)

(4) 男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。
その理由について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

ア 回答者全体

「職場の理解を得られないから」という回答が最も多く、次いで「休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから」が多くなっている。「女性の方が育児や介護に向いているから」の回答が少数ながらもあり、固定的性別役割分担意識の是正を推進する必要がある。

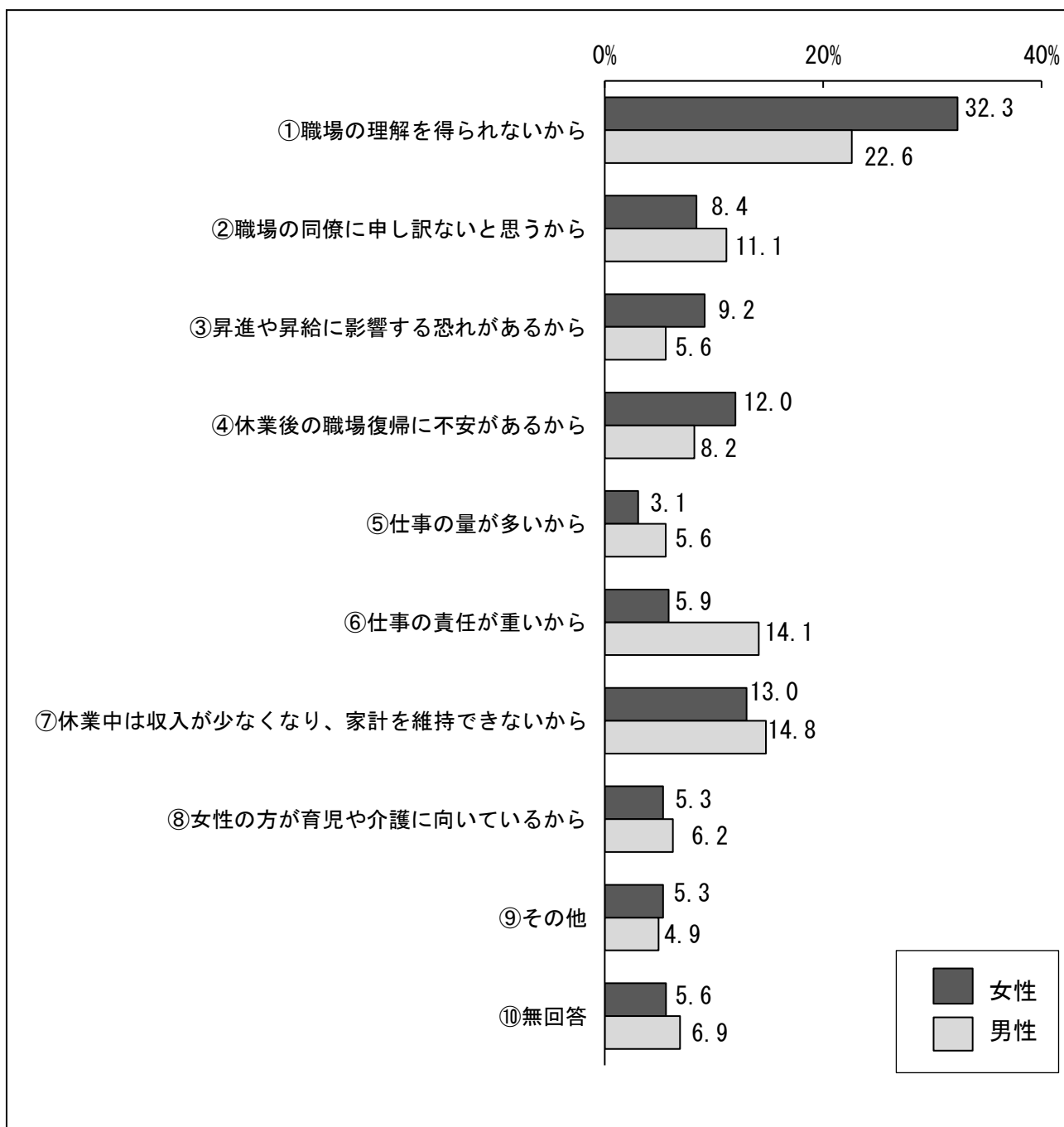


問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。

その理由について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

イ 男女別

男女ともに「職場の理解を得られないから」が最も多い点は共通しているが、男性の「仕事の責任が重いから」の回答が14.1%であるのに対し、女性は5.9%と割合が半分以下となっており、意識に差がある。

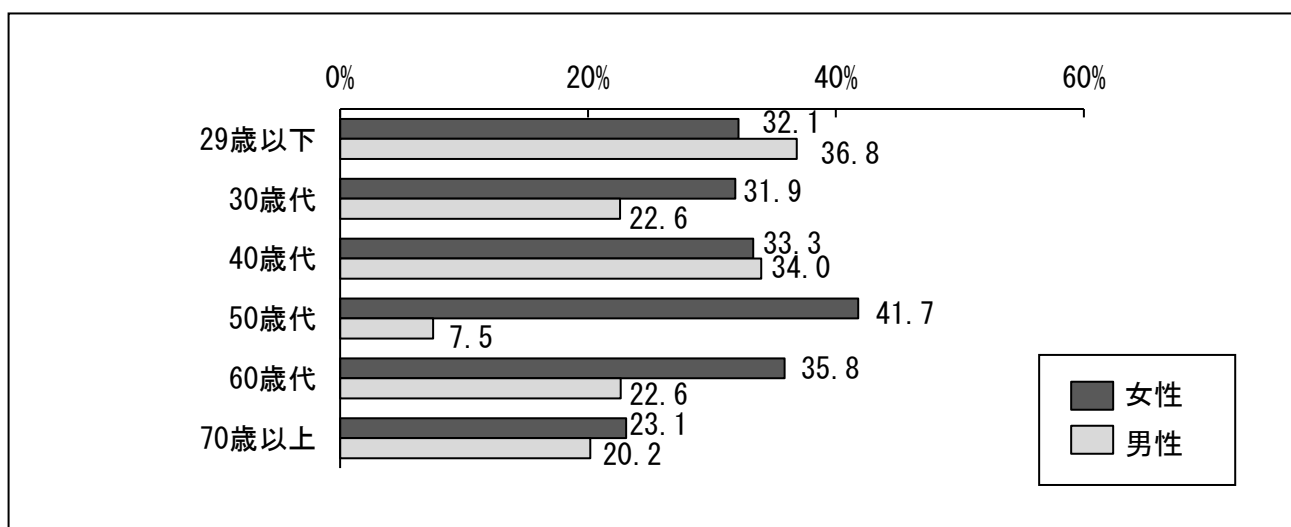


問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。
その理由について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

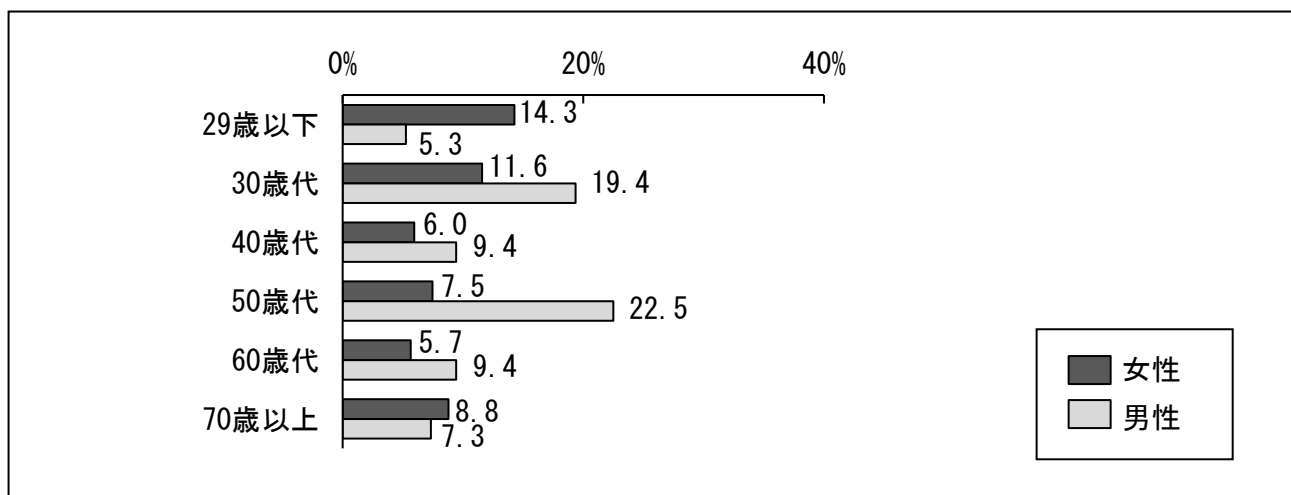
ウ 年代別・男女別

50歳代の男性を除き「職場の理解を得られないから」が2割以上となっている。(50歳代の男性は、「仕事の責任が重いから」が多くなっている) 29歳以下、30歳代の男性では、「休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから」の回答が約3割と多くなっている。。

①職場の理解を得られないから



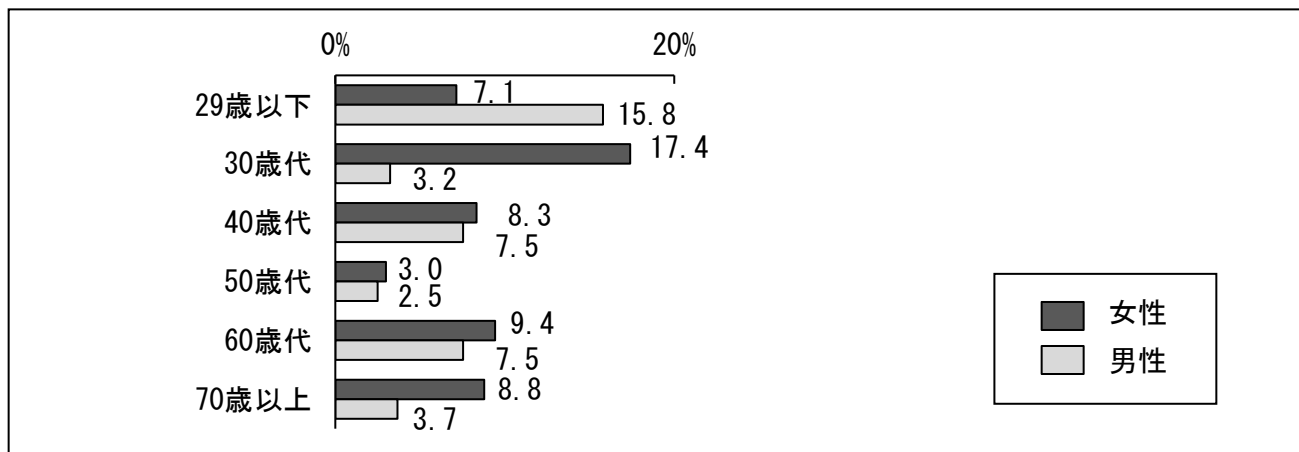
②職場の同僚に申し訳ないと思うから



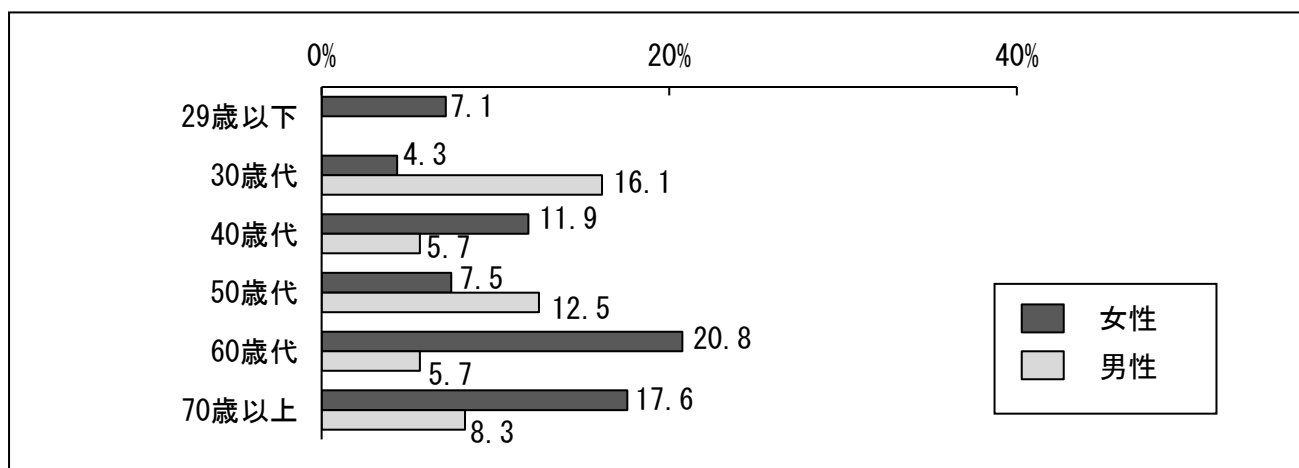
問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。

その理由について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

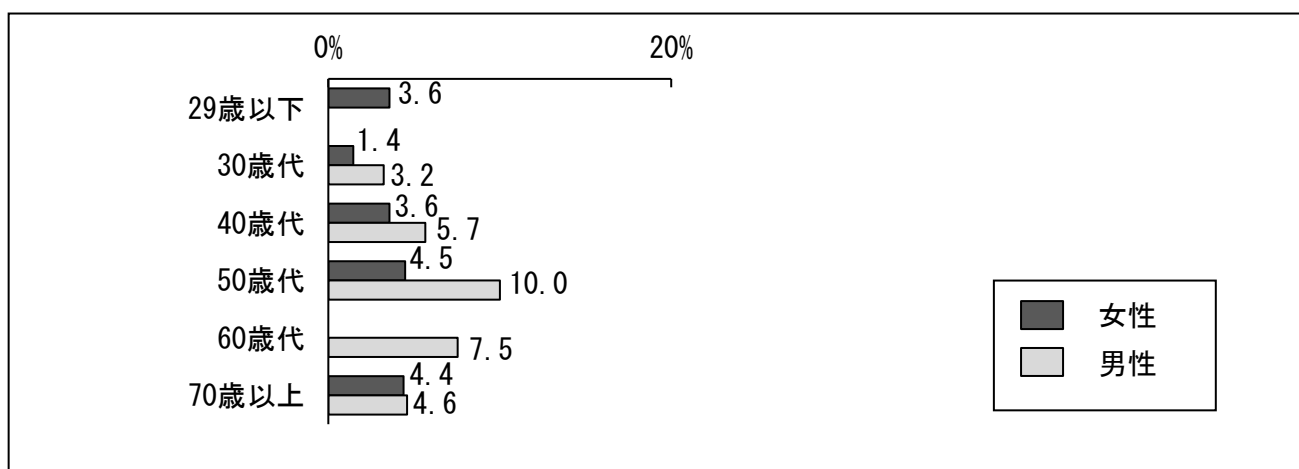
③昇進や昇給に影響する恐れがあるから



④休業後の職場復帰に不安があるから



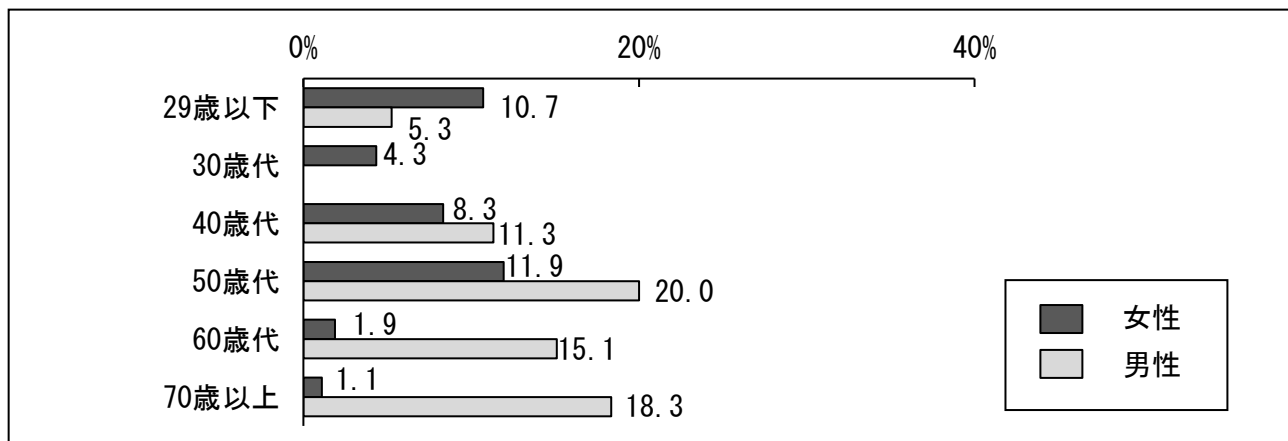
⑤仕事の量が多いから



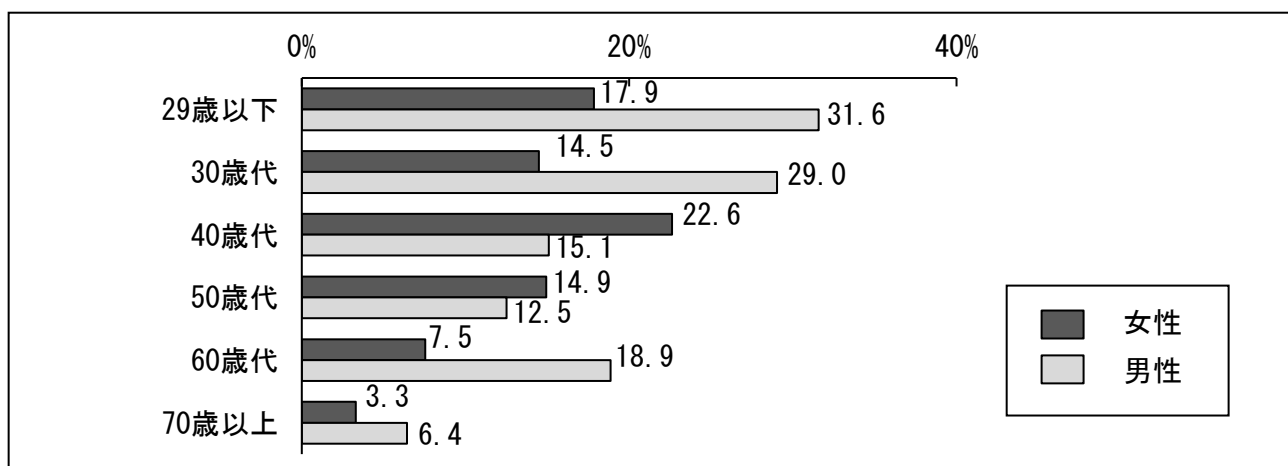
問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。

その理由について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

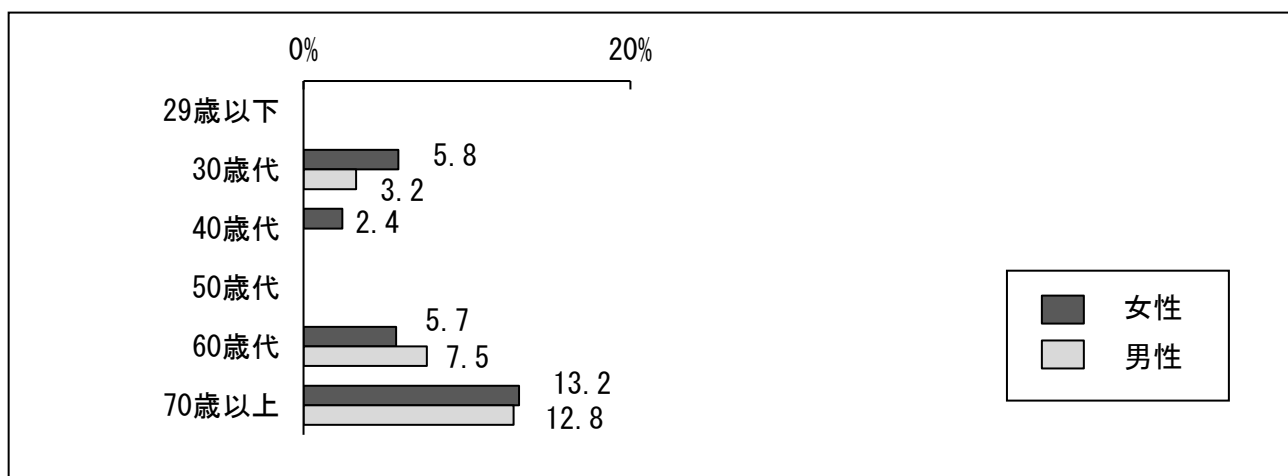
⑥仕事の責任が重いから



⑦休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから



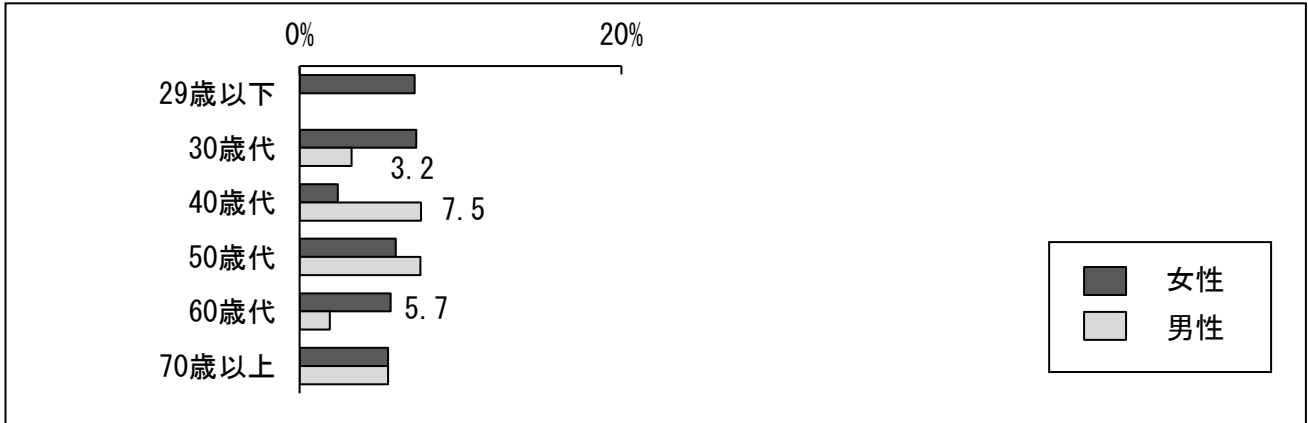
⑧女性の方が育児や介護に向いているから



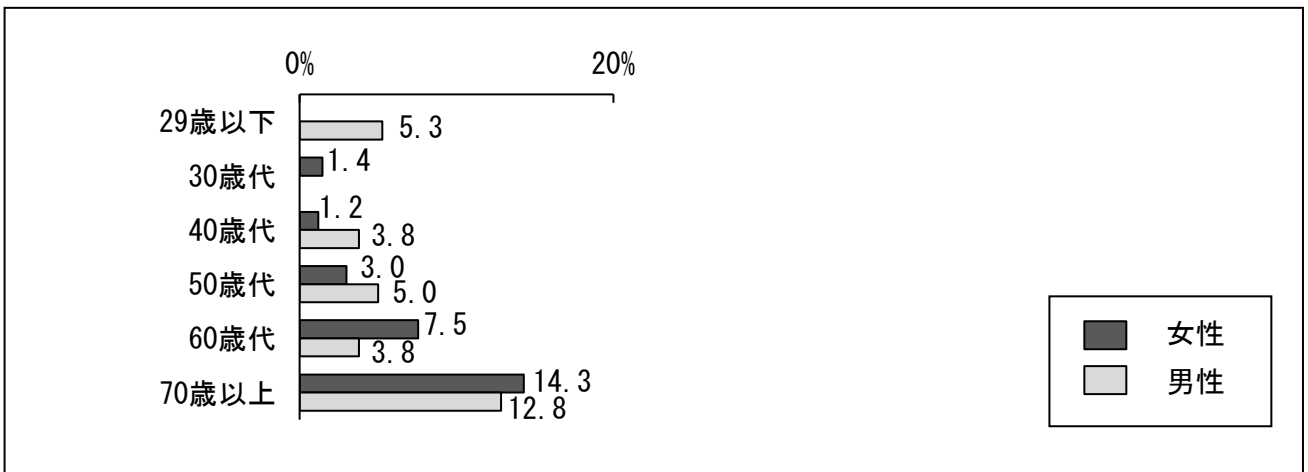
問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。

その理由について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

⑨その他



⑩無回答



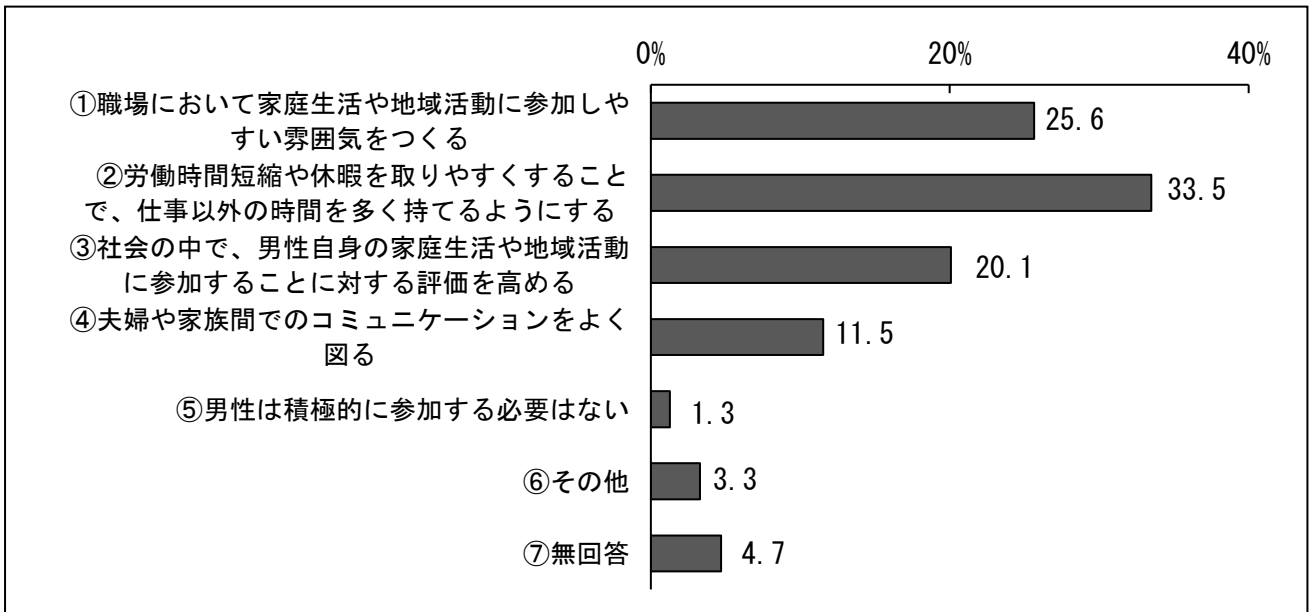
<「その他」の主な意見>

- ◆日本が取るような体制になっていないから。(女性, 30歳代)
- ◆実際、営業している夫は、ノルマがあるため、「育児休業」なんてワードは出せない状況。(女性, 30歳代)
- ◆収入が減り、生活が苦しくなるから。(男性, 40歳代)
- ◆会社側の体制、理解、取得中の収入面での不安。(男性, 40歳代)
- ◆本気で育児をしようと考えていないからでは。(女性, 50歳代)
- ◆個人に顧客があり、代替が不可能である。(男性, 60歳代)

問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを選んでください。

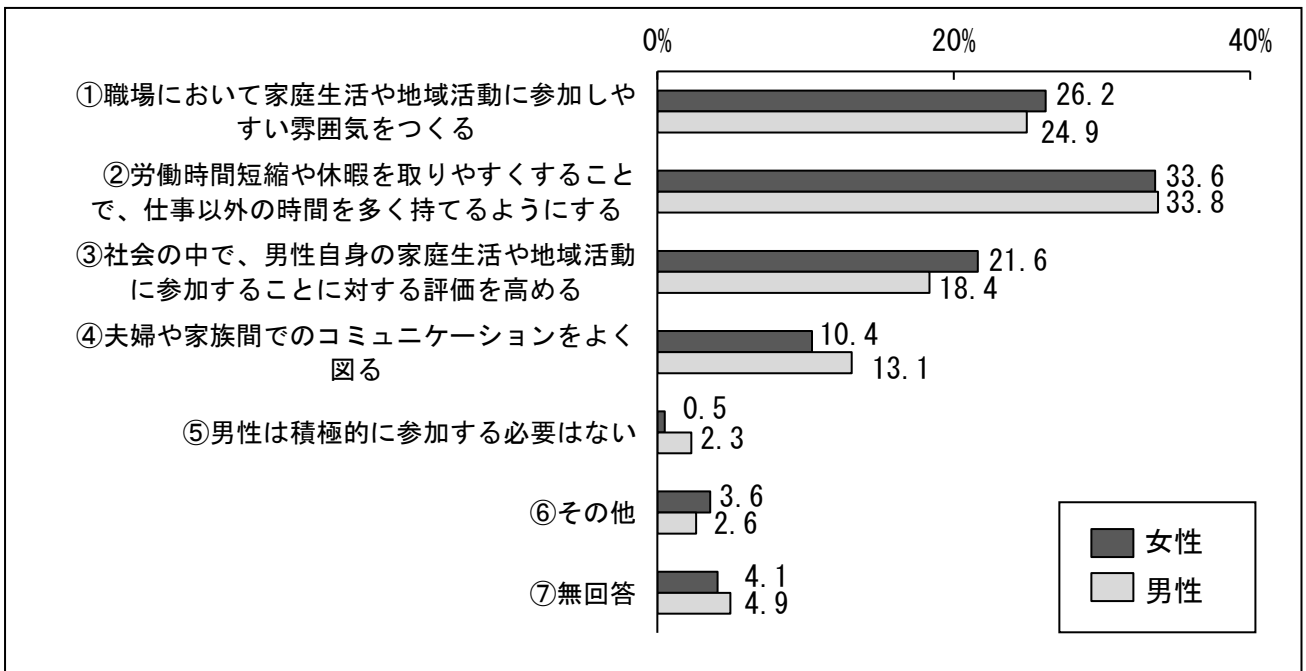
ア 回答者全体

「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようになる」の回答が多くなっている。



イ 男女別

男女ともに、「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようになる」の割合が多くなっている。

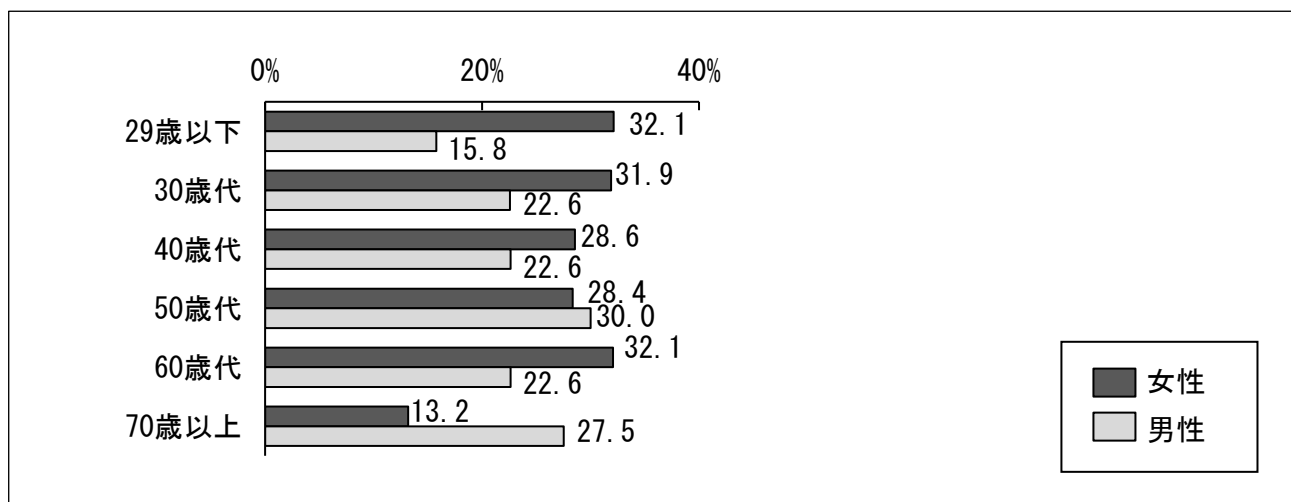


問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを選んでください。

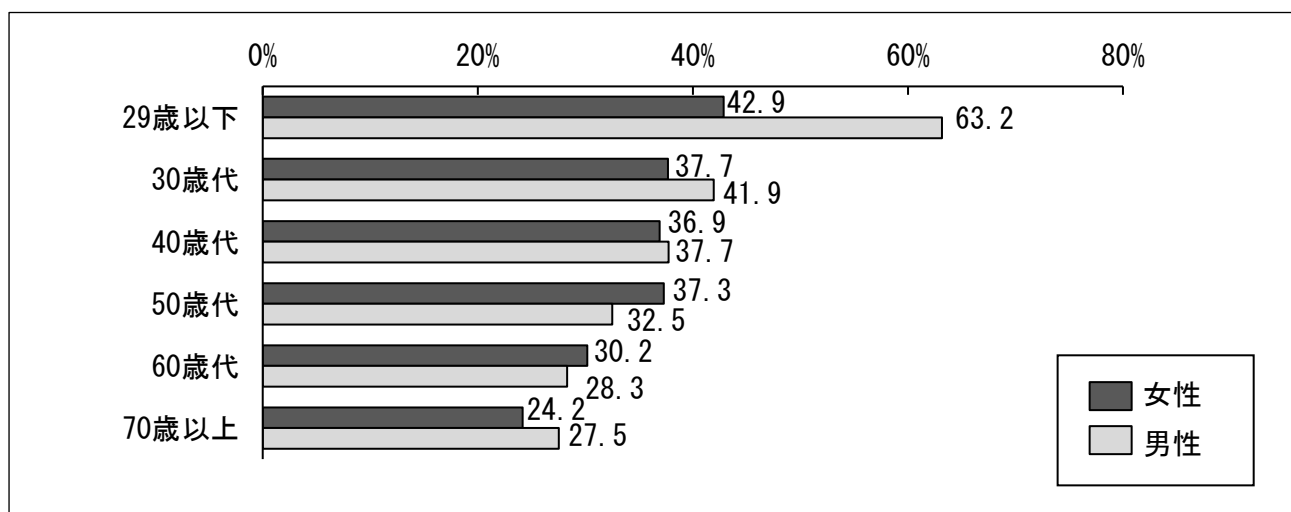
ウ 年代別・男女別

男女ともにいずれの年代でも「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が最も必要だと答えており、29歳以下の男性は特に割合が高くなっている。

①職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる

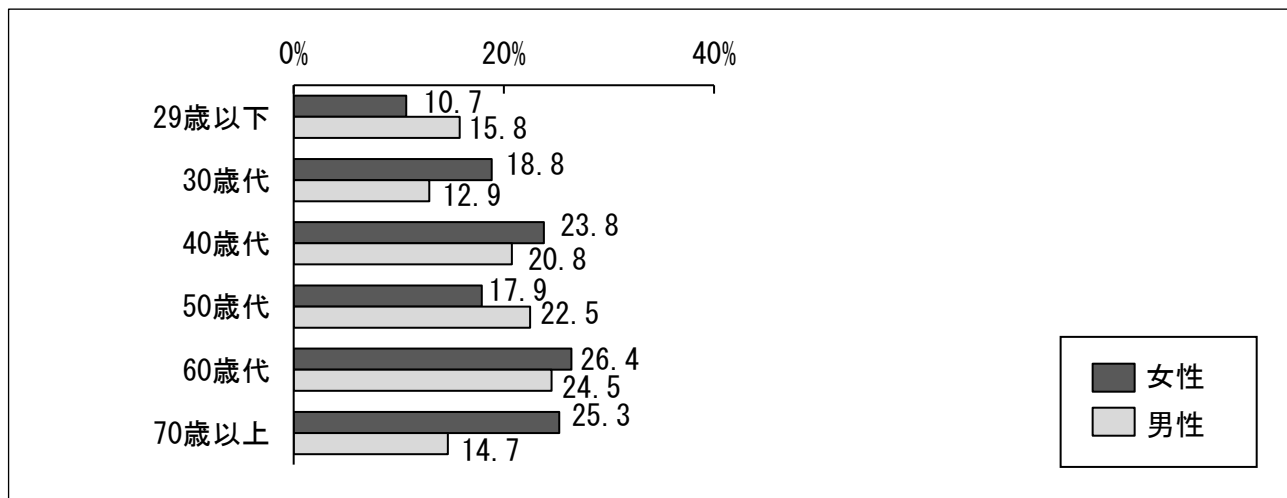


②労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする

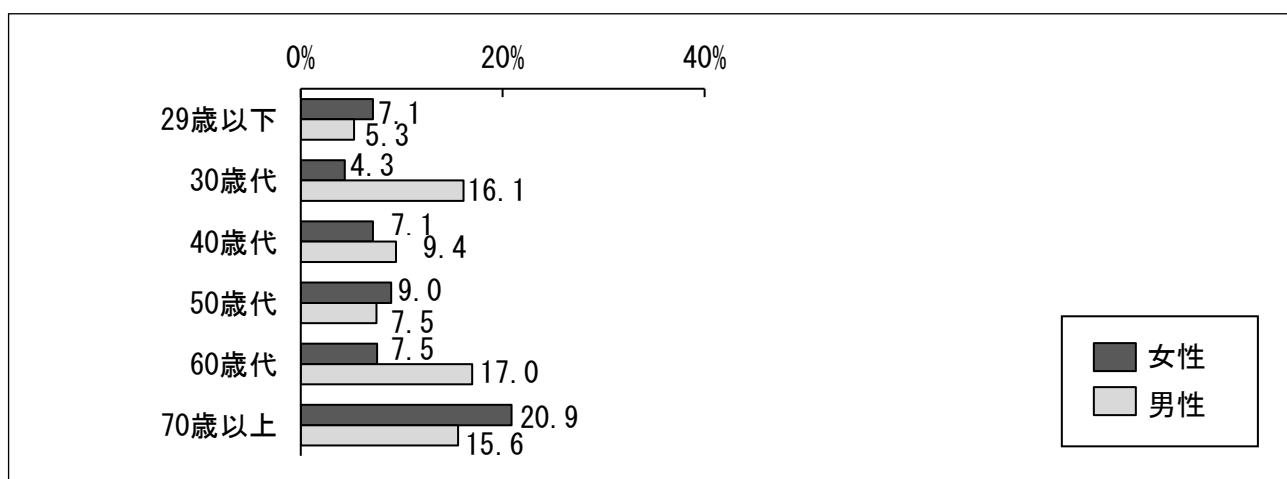


問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください

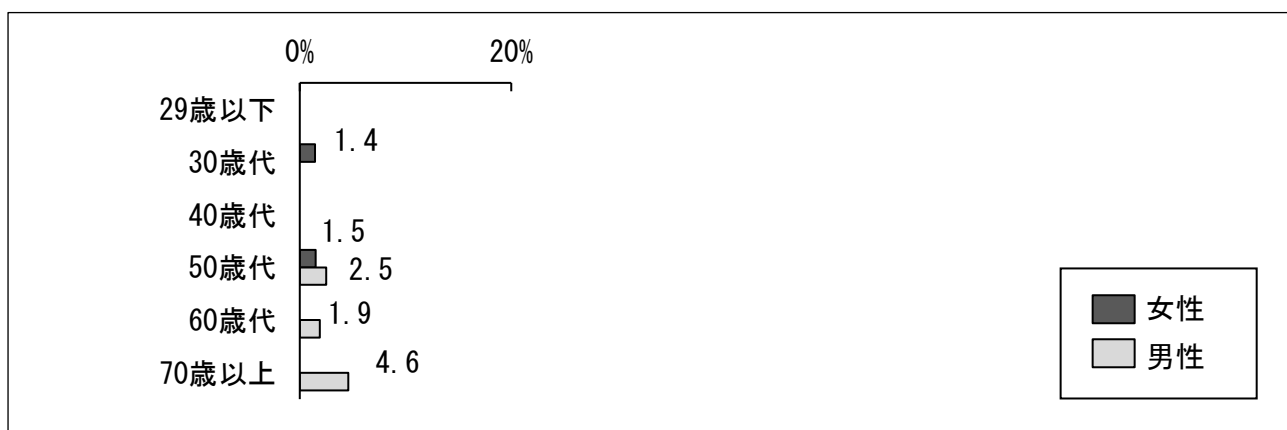
③社会の中で、男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める



④夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る

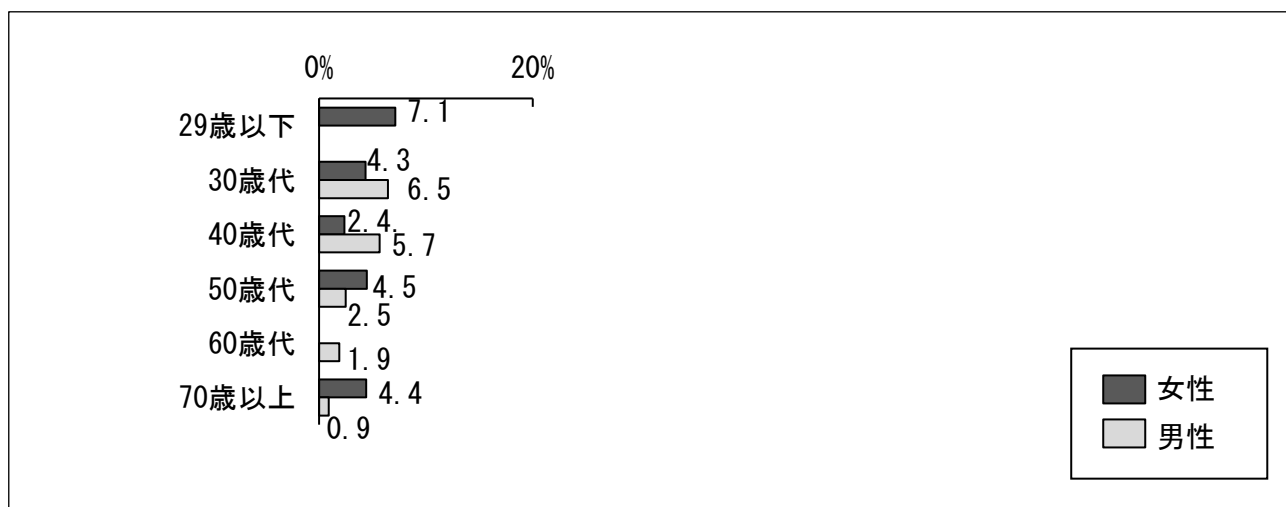


⑤男性は積極的に参加する必要はない

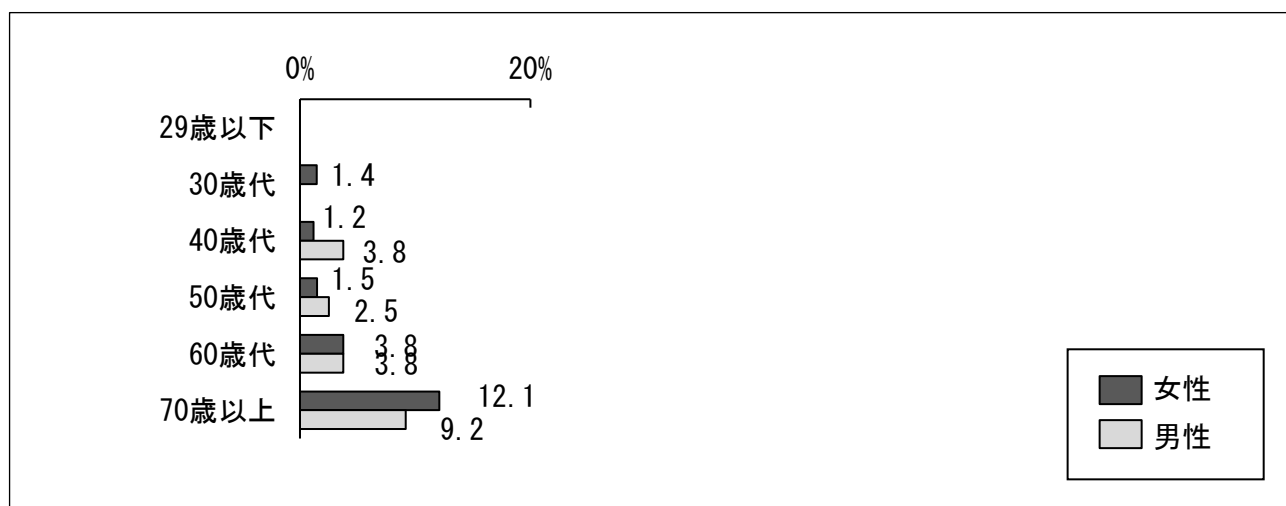


問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを選んでください

⑥その他



⑦無回答



<「その他」の主な意見>

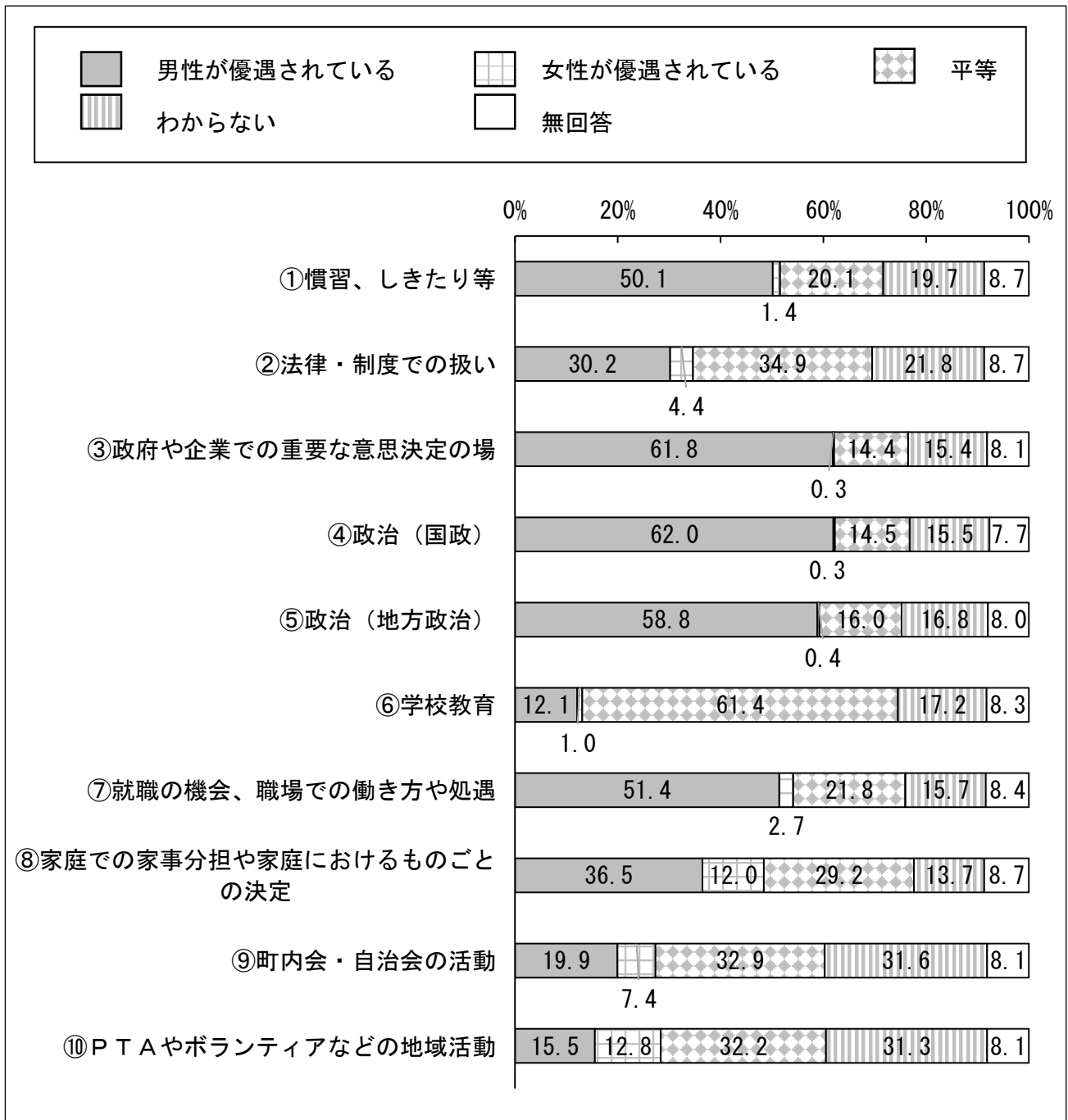
- ◆男性が、女性が、と分ける考えを改める。(女性, 29歳以下)
- ◆仕事の量が多いし、人材も足りない。(男性, 30歳代)
- ◆男性の意識の変化。(男性, 40歳代)
- ◆50年後の自分をイメージすること。(男性, 40歳代)
- ◆国家レベルで法制化(半強制的)⇒即実現。(男性, 60歳代)
- ◆男女関係なく情報が得られること。家事は女性向けの雑誌には載っていても男性向けの雑誌に載っていないなど、そもそも方法を知る術がないので広まらない。(無回答)

(5) 男女平等

問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

ア 回答者全体

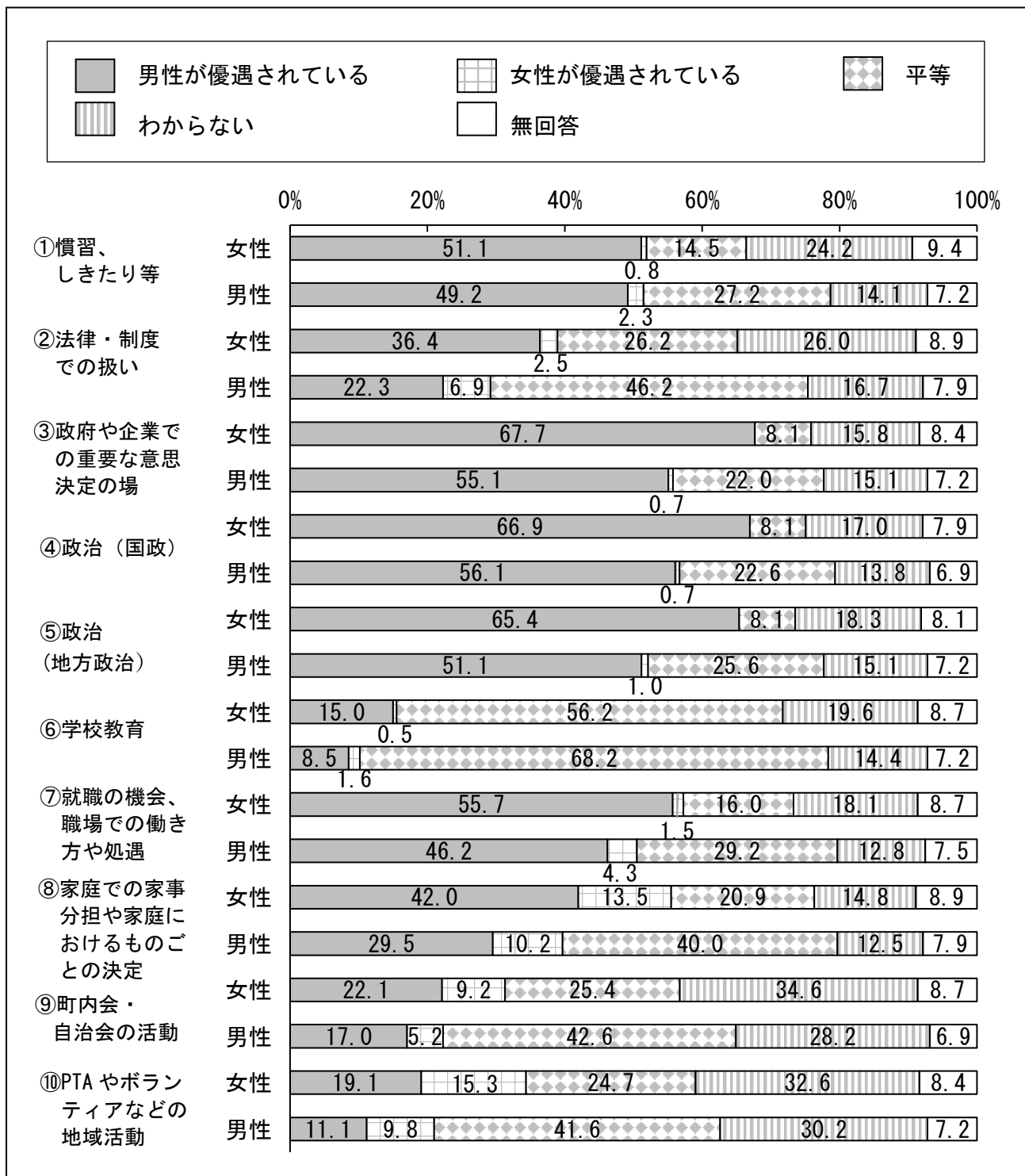
「政府や企業での重要な意思決定の場」や「就職の機会、職場での働き方や処遇」の経済分野、および政治において男性が優遇されているという回答が過半数である。



問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

イ 男女別

いずれの項目でも、女性の方が男性よりも「男性が優遇されている」と回答しており、特に経済、政治分野ではその割合が大きい。逆に男性は、平等という回答の割合が大きい。

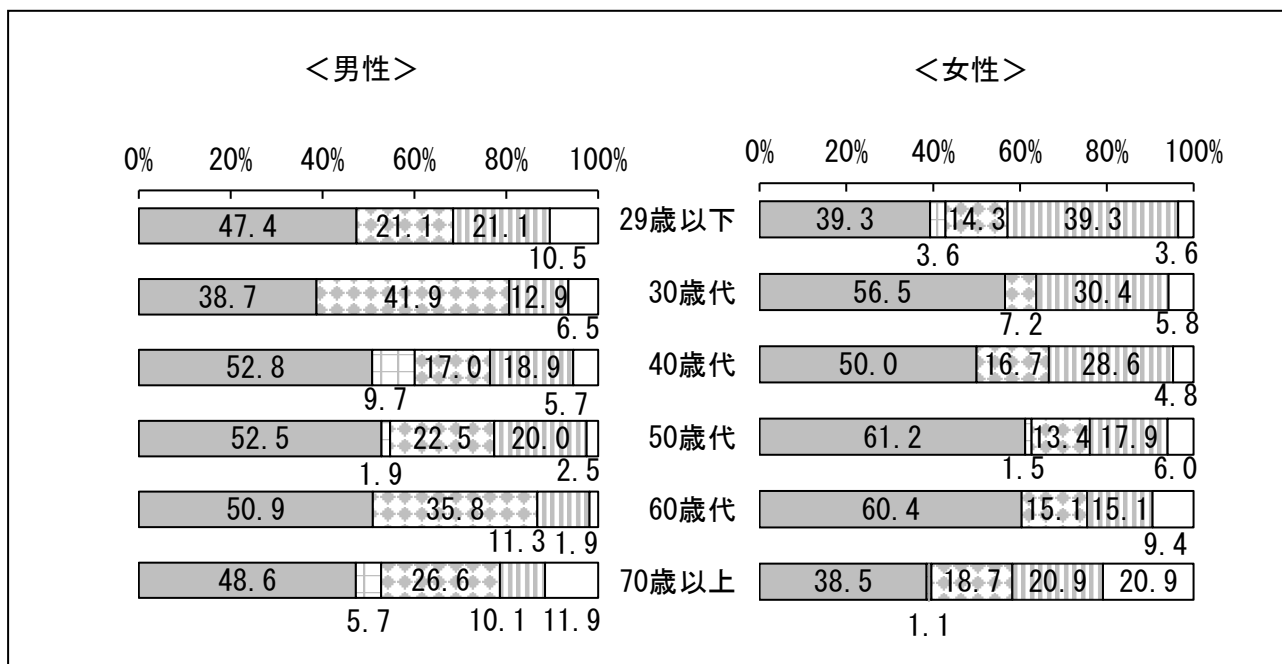


問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

ウ 年代別・男女別

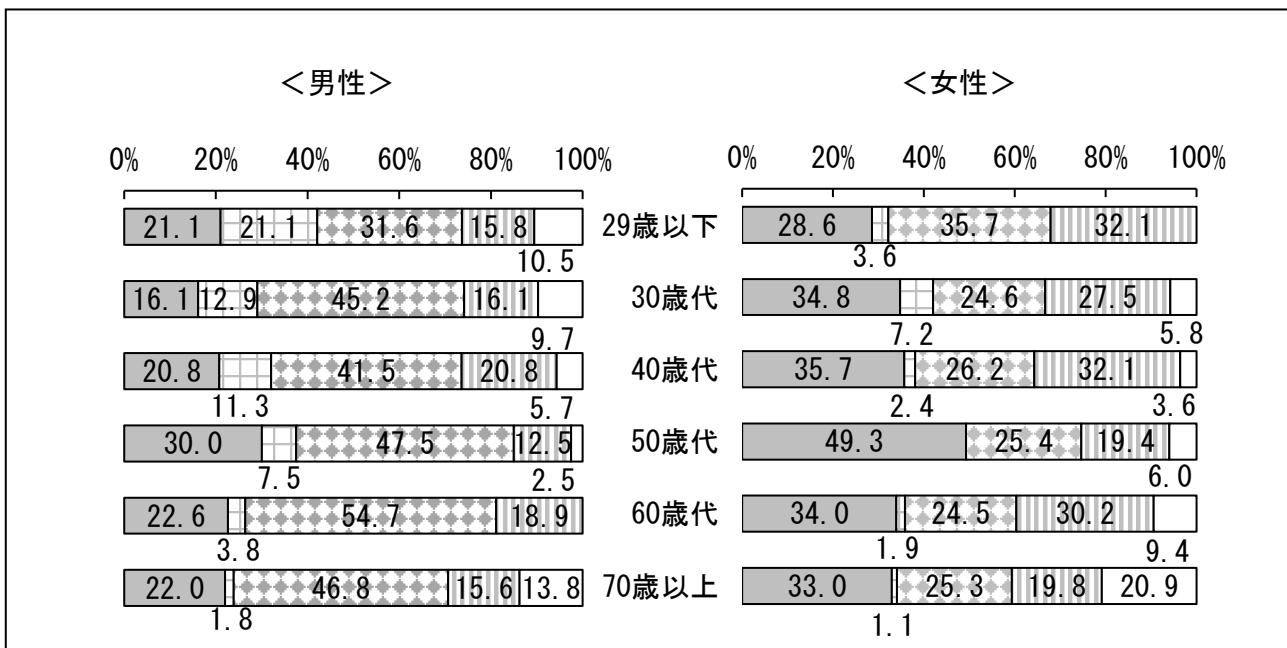
学校教育を除き、いずれの項目でも年代に関わらず、女性の方が「男性が優遇されている」と回答した割合が大きく、男性の方が平等だと感じている。

①慣習、しきたり等

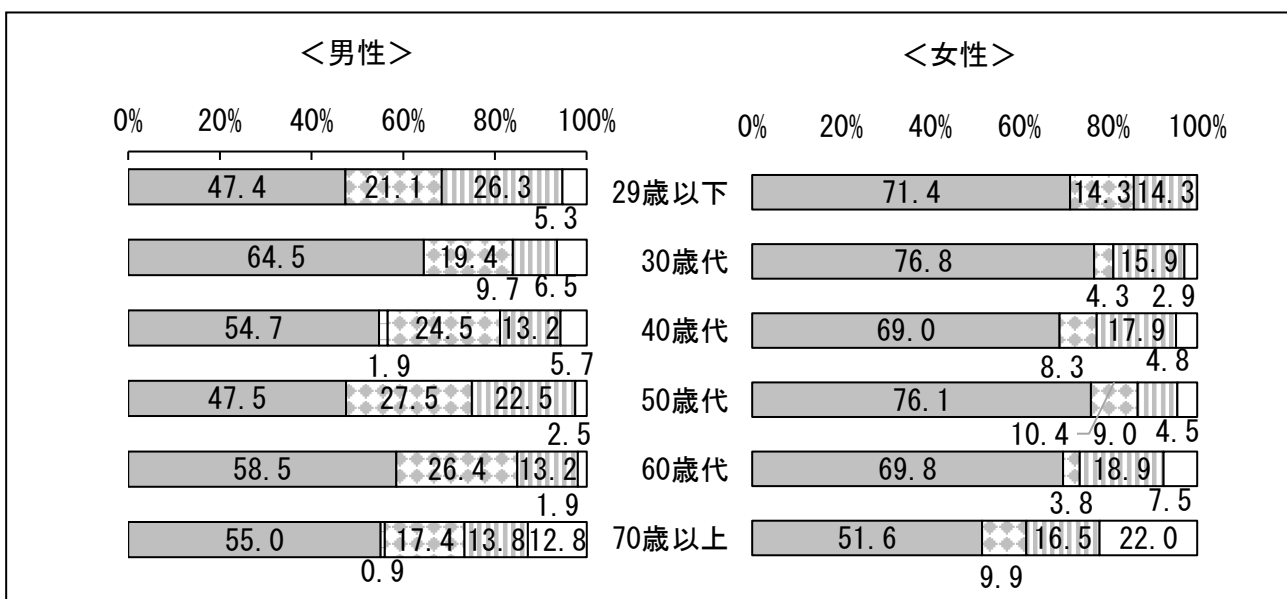


問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

②法律・制度での扱い

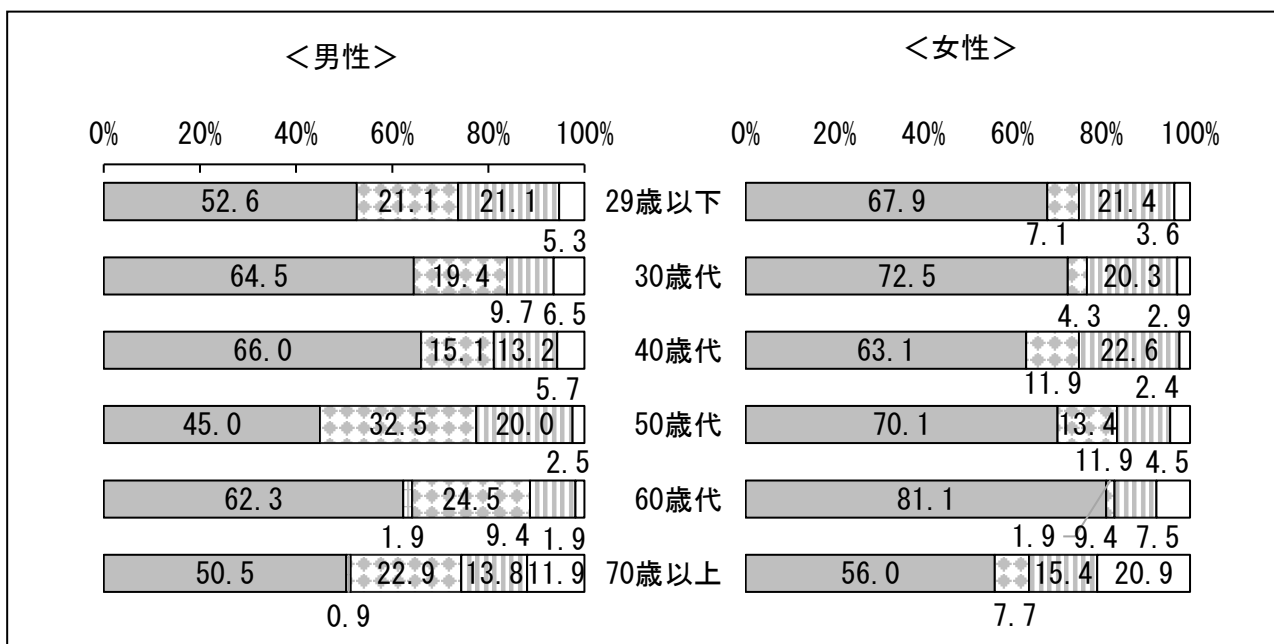


③政府や企業での重要な意思決定の場

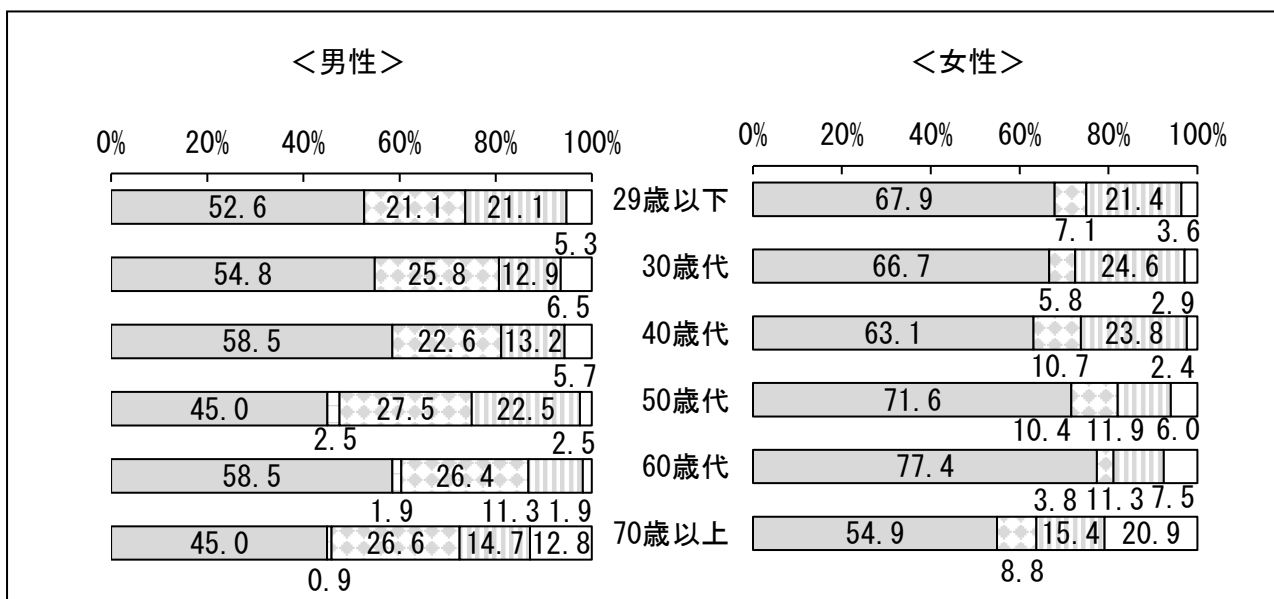


問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

④政治（国政）

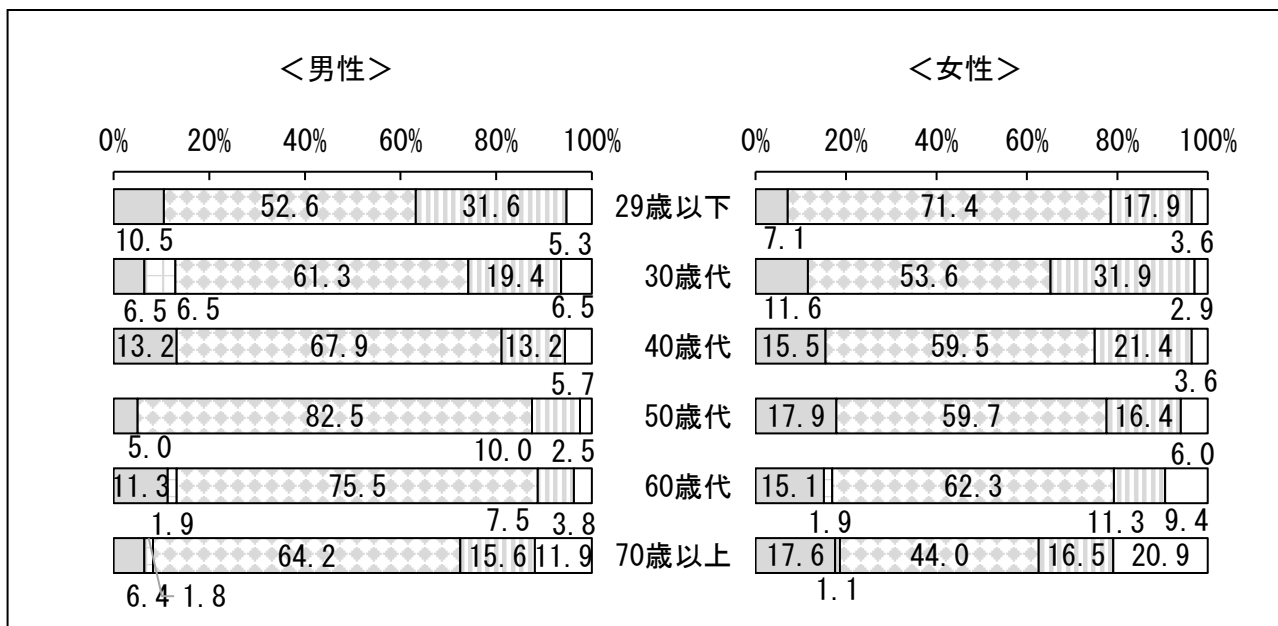


⑤政治（地方政治）

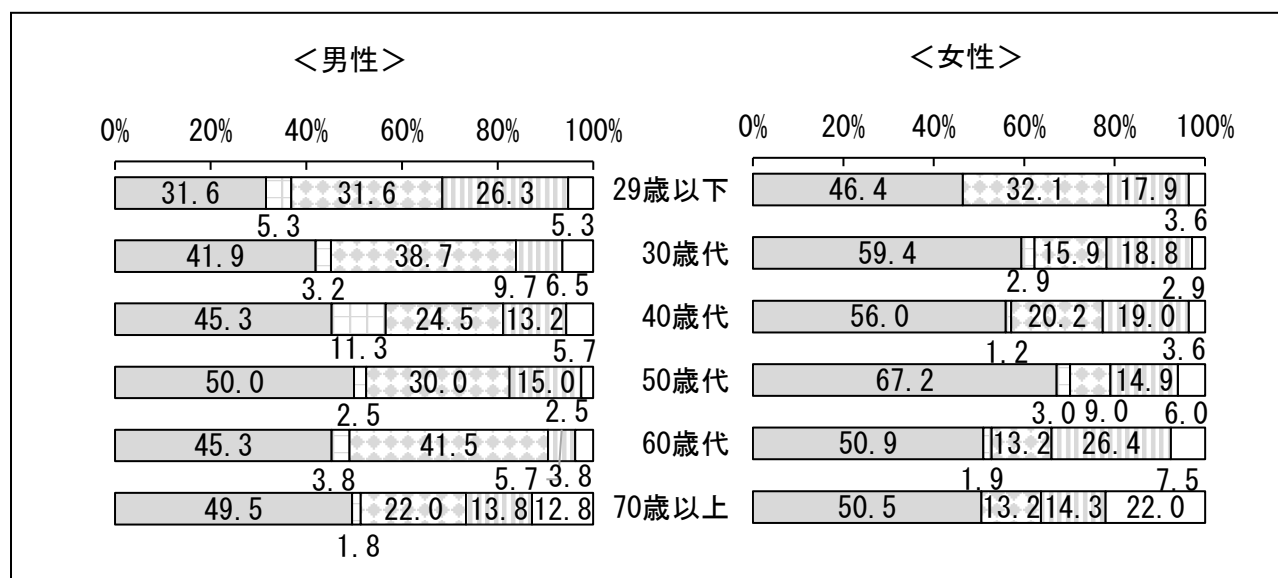


問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

⑥学校教育

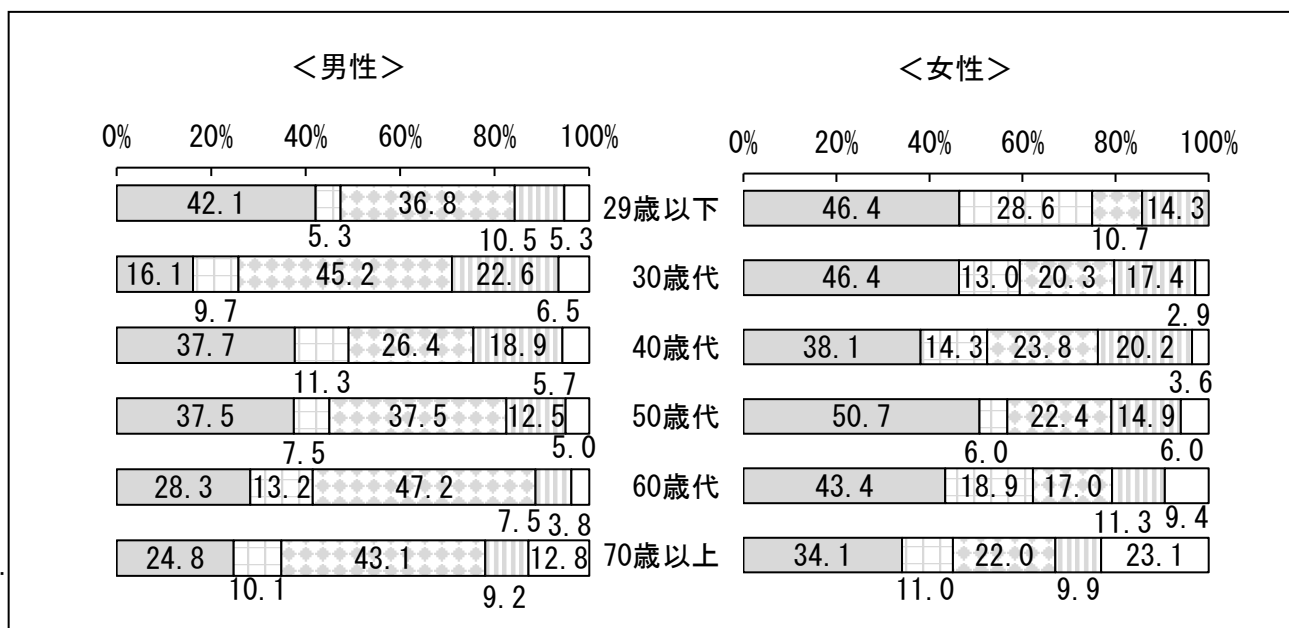


⑦就職の機会、職場での働き方や処遇

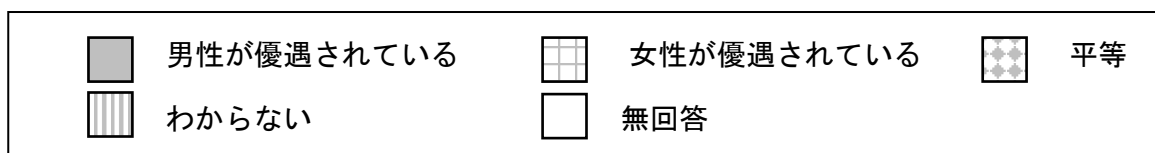
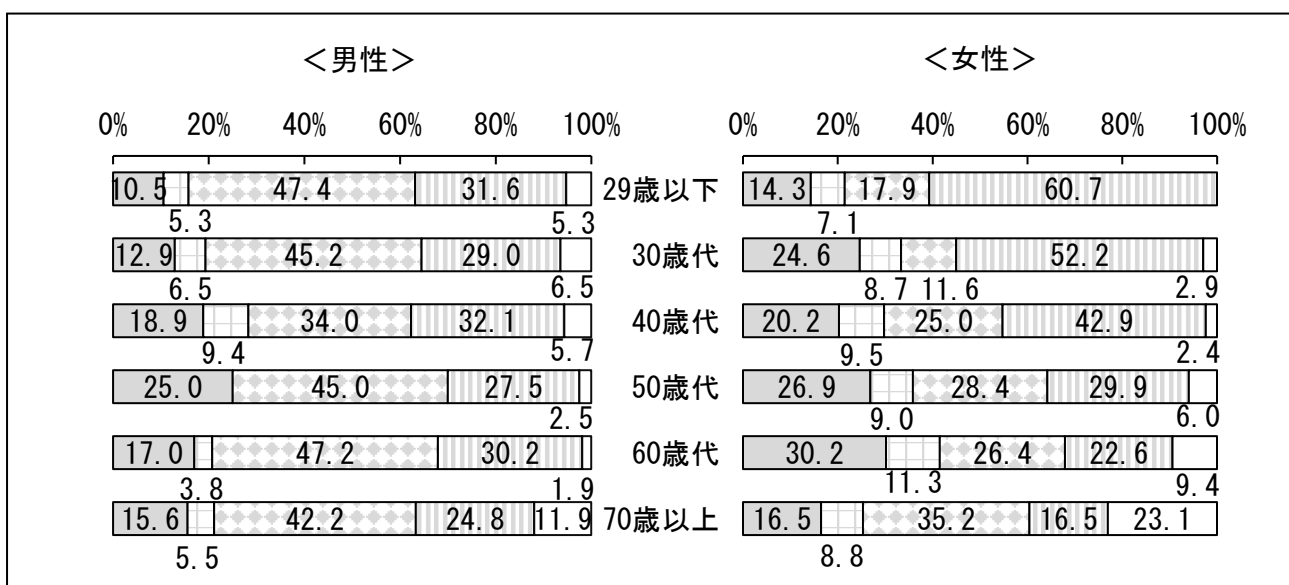


問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

⑧家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定

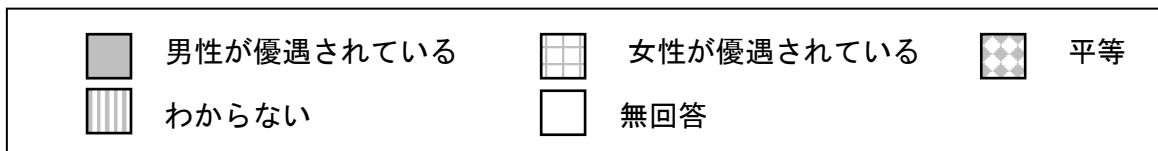
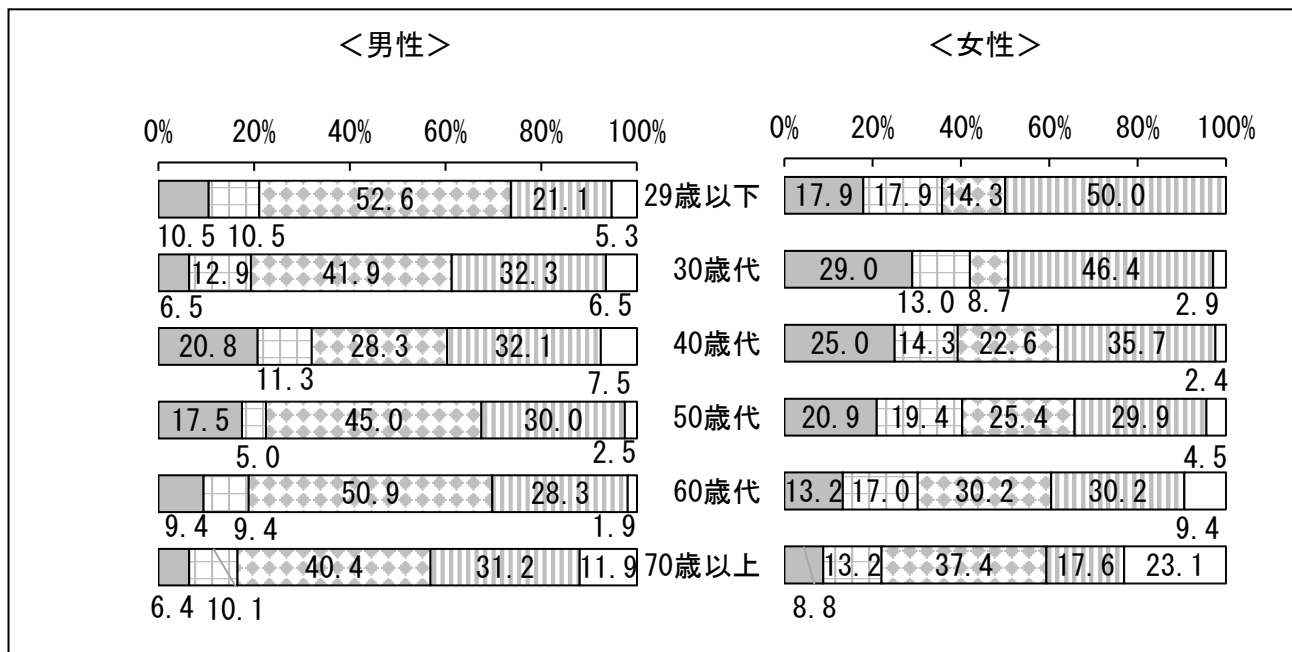


⑨町内会・自治会の活動



問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

⑩PTA やボランティアなどの地域活動

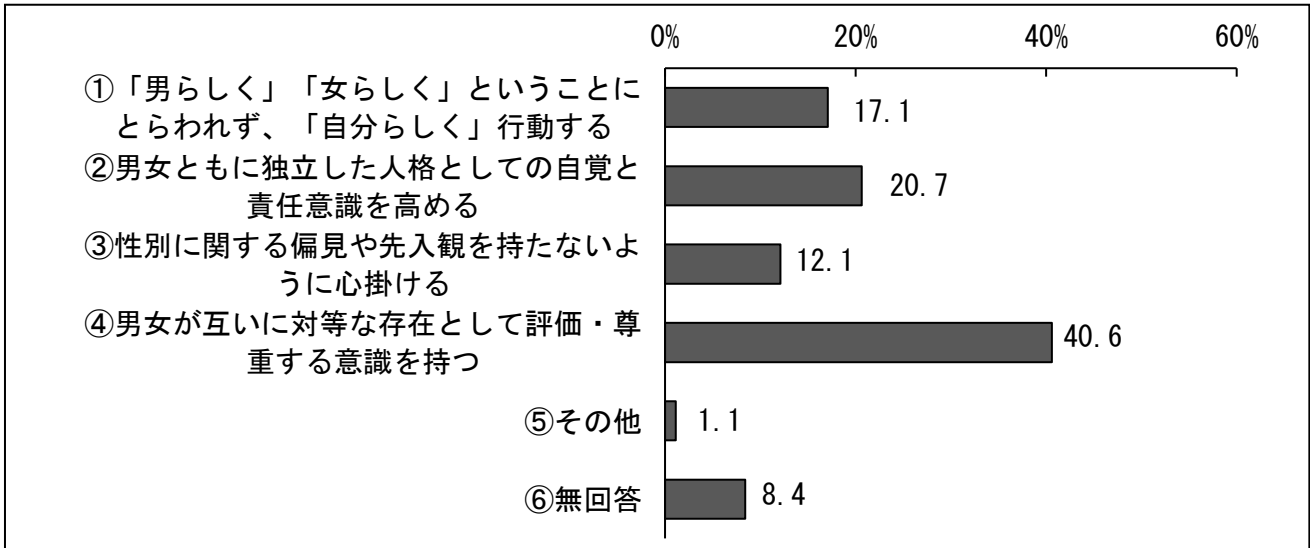


問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<個人で心掛けること>

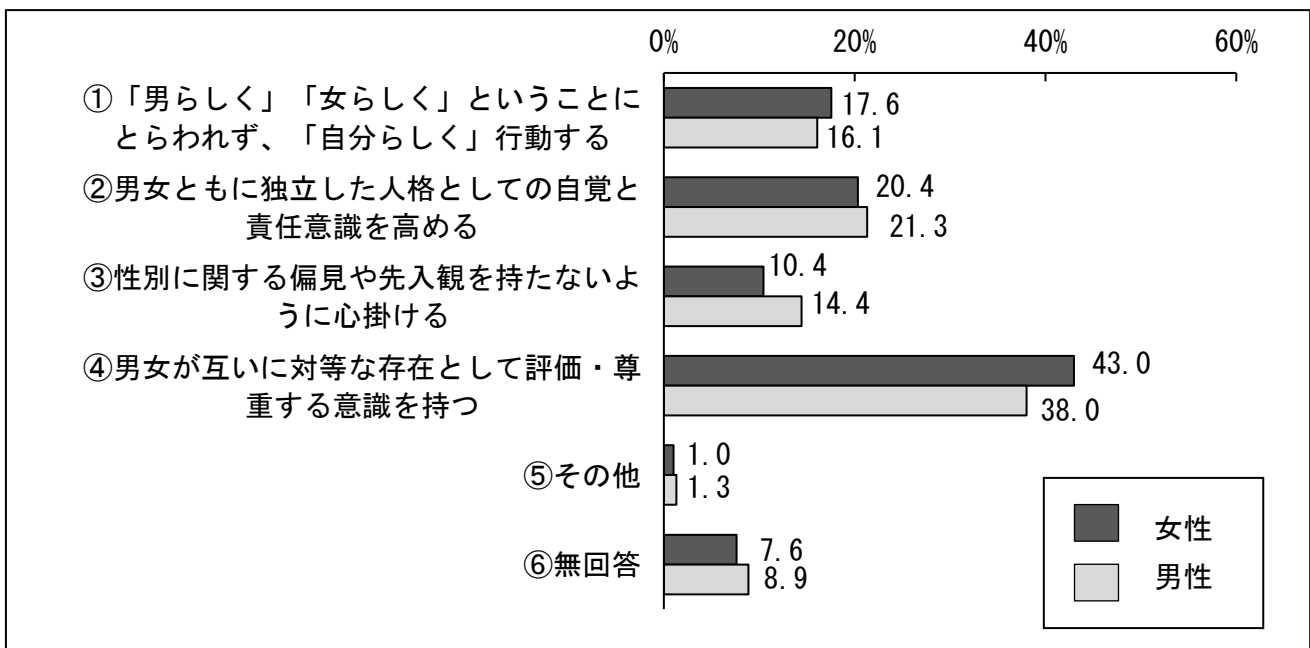
ア 回答者全体

「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」という回答が多かった。



イ 男女別

男女で大きな差はないが、「性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」は男性の方が、「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」は女性の方がやや割合が高い。

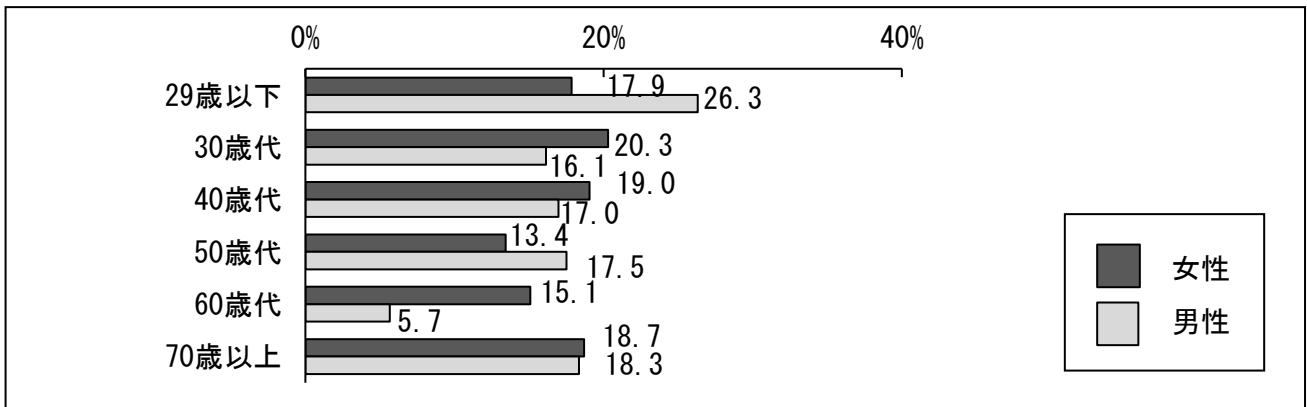


問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。
 <個人で心掛けること>

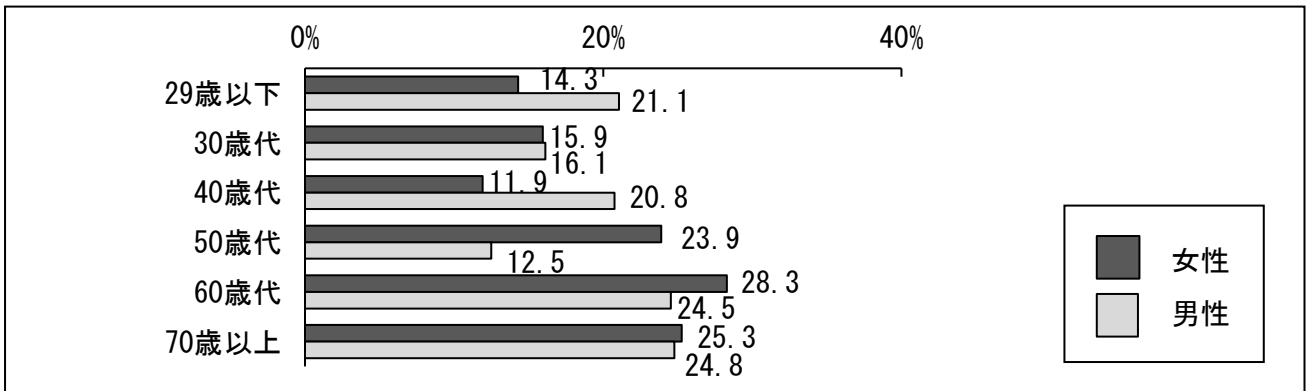
ウ 年代別・男女別

男女ともに、いずれの年代でも「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」の回答が多い。

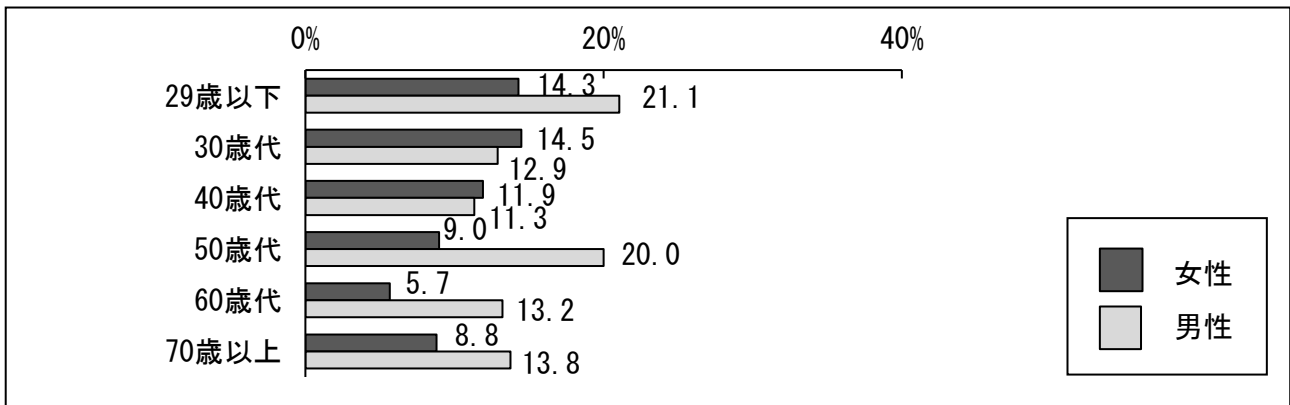
①「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する



②男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める

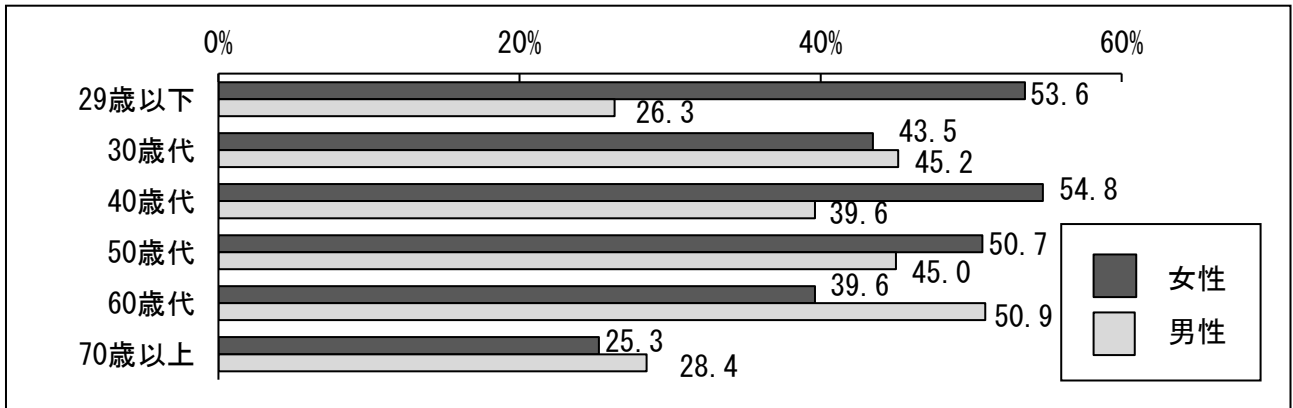


③性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ

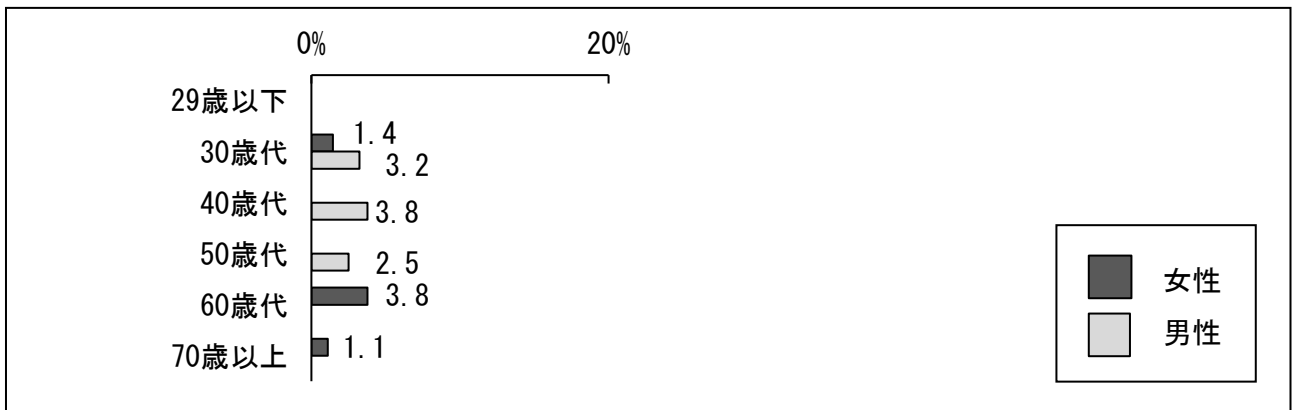


問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。
 <個人で心掛けること>

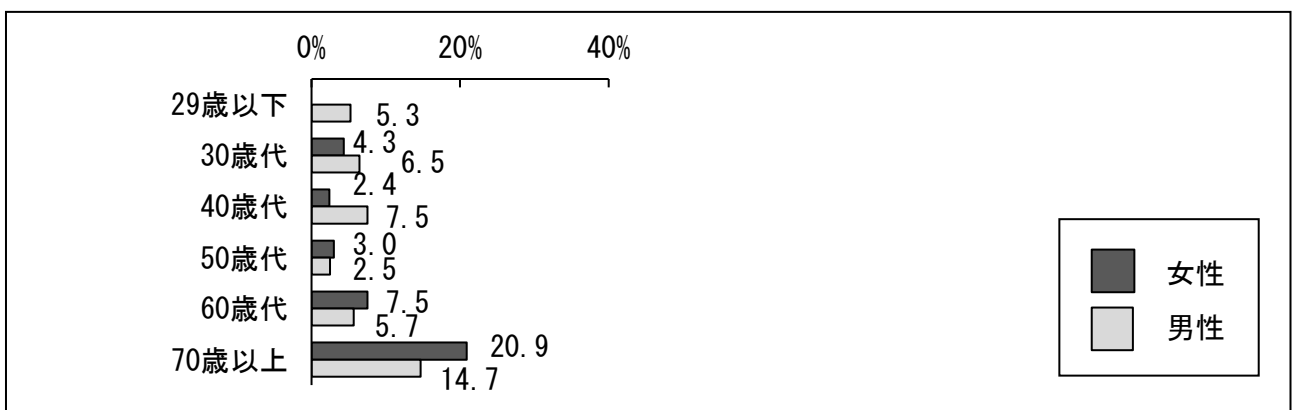
④男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ



⑤その他



⑥無回答



<「その他」の主な意見>

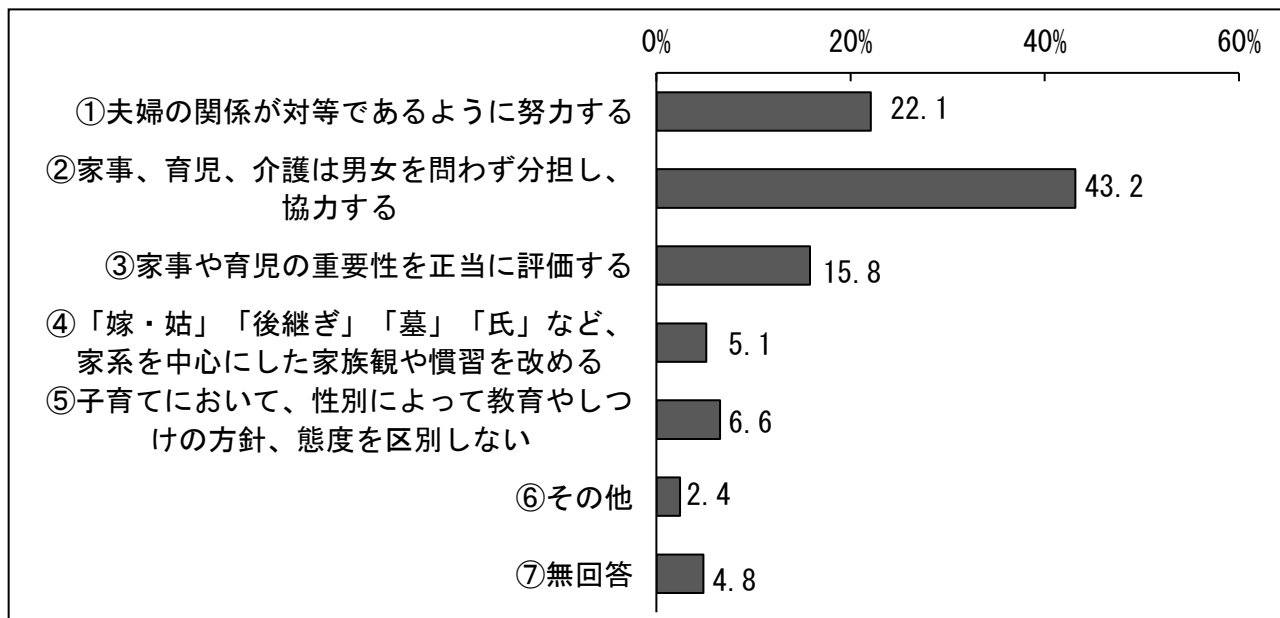
- ◆それぞれを尊重して、お互い得意な事を伸ばす、任せる、足りないところを補いあう。認め合いながら、適材適所をしていく。(女性, 30歳代)
- ◆相手を思いやる気持ちを持つこと(男性, 50歳代)

問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<家庭での取り組み>

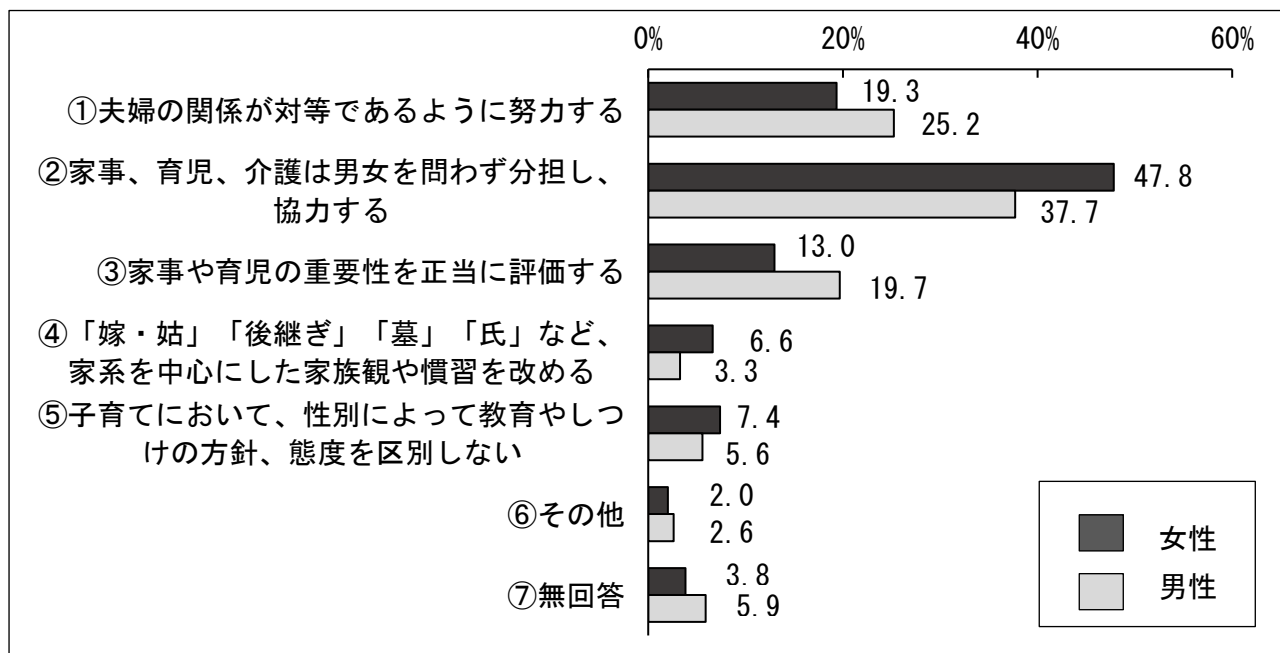
ア 回答者全体

「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」が多くなっている。



イ 男女別

女性は、「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」の割合が半数近くになっており、「夫婦の関係が対等であるように努力する」「家事や育児の重要性を正當に評価する」では男性の方が割合が高くなっている。



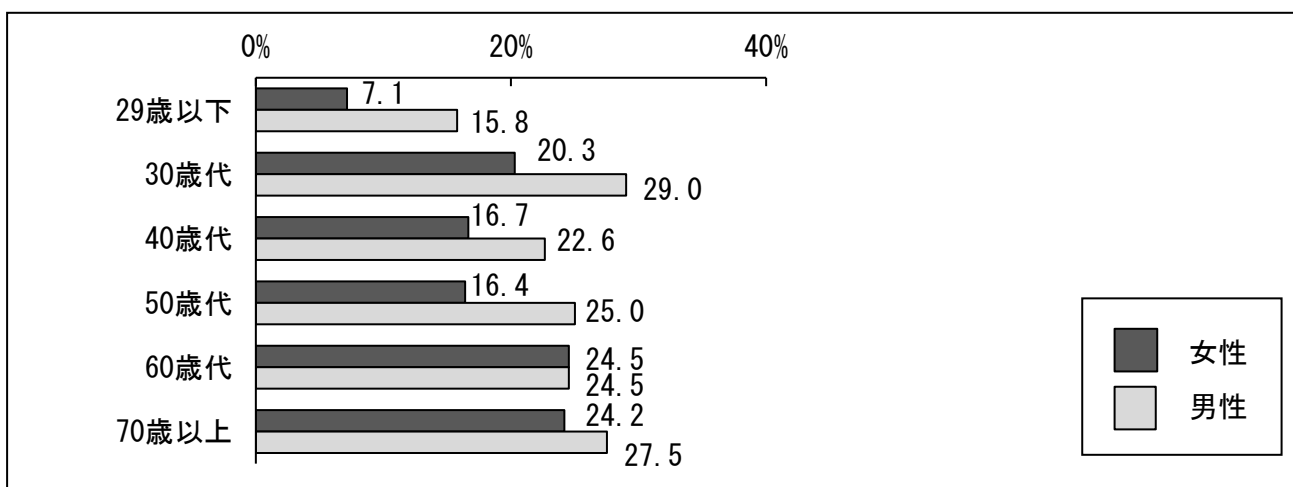
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<家庭での取り組み>

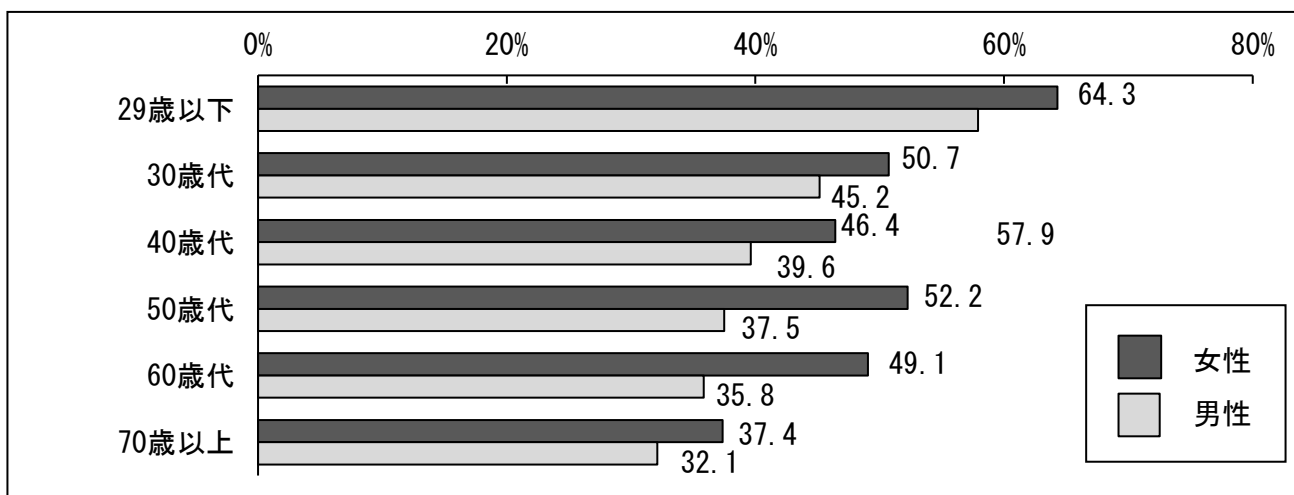
ウ 年代別・男女別

「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」はいずれの年代でも女性の方が割合が高く、男性では年代が上がるにつれ割合が下がっている。29歳以下では約6割だが、20歳以上では約3割である。

①夫婦の関係が対等であるように努力する



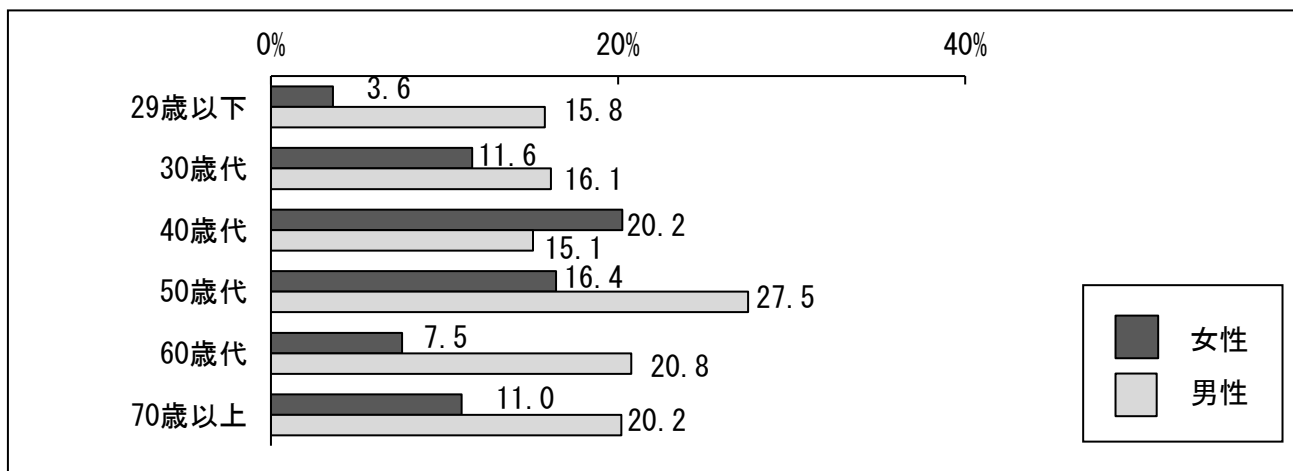
②家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する



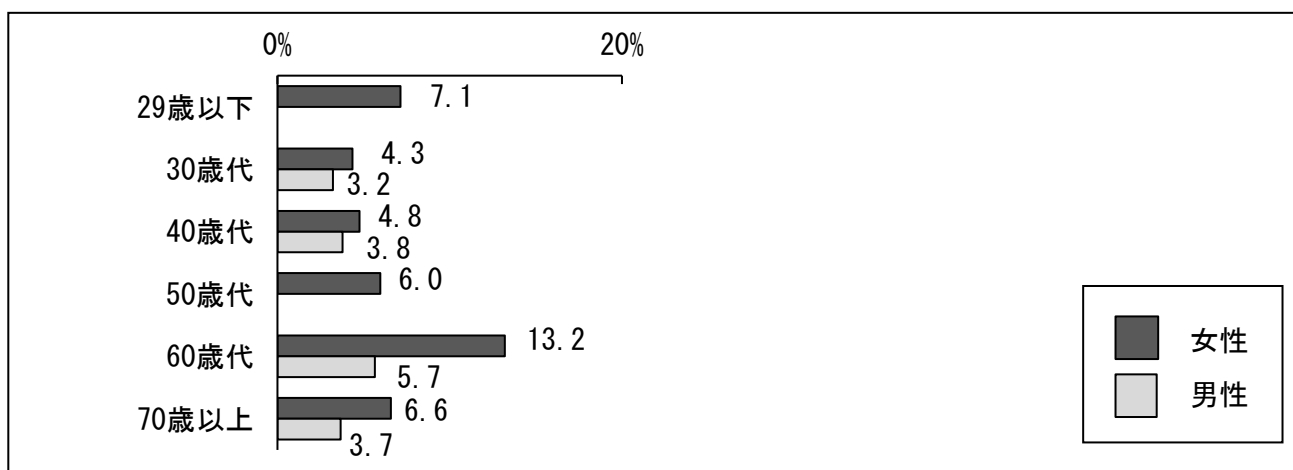
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<家庭での取り組み>

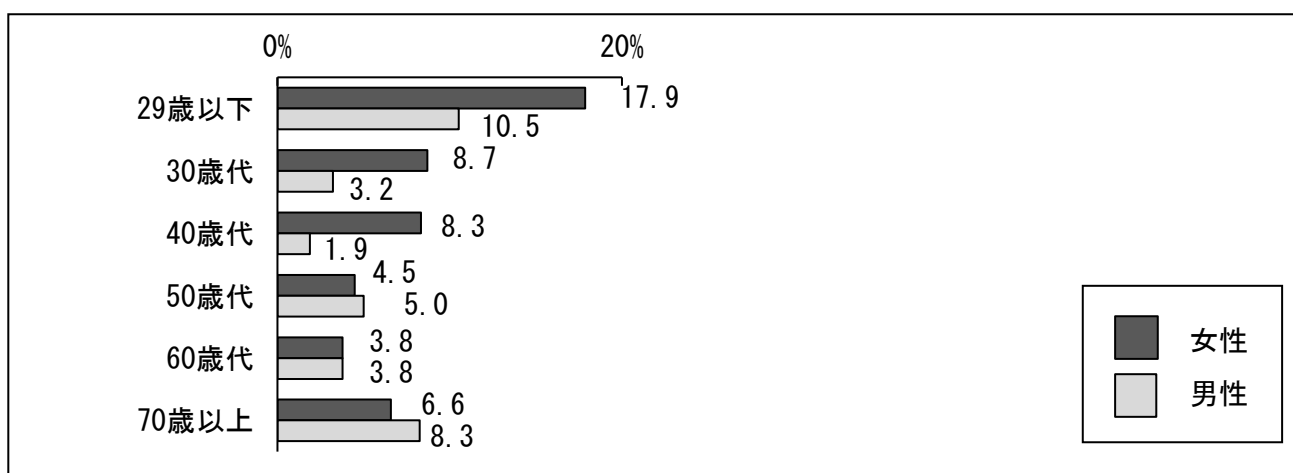
③家事や育児の重要性を正に評価する



④「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める



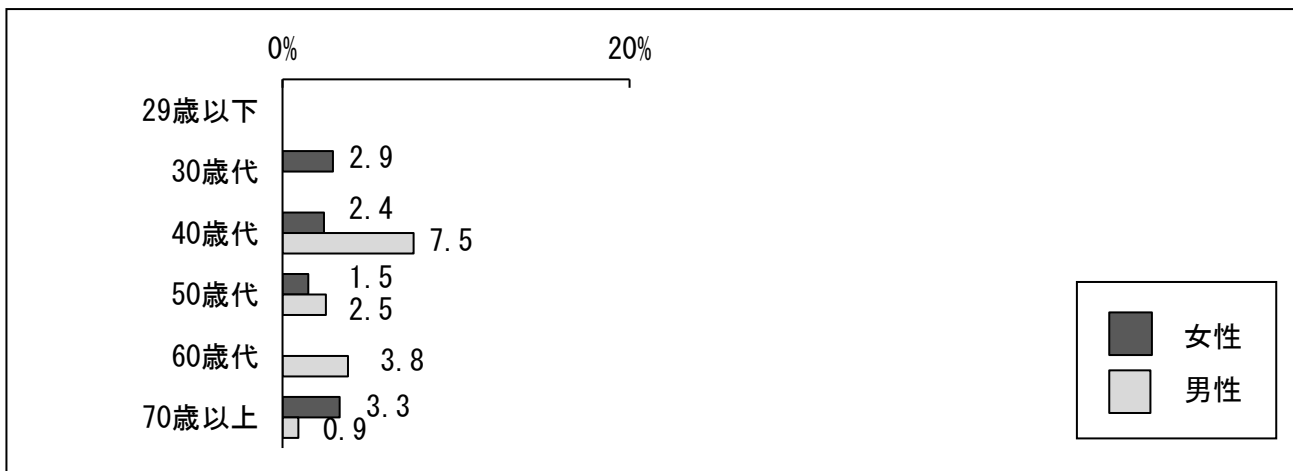
⑤子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない



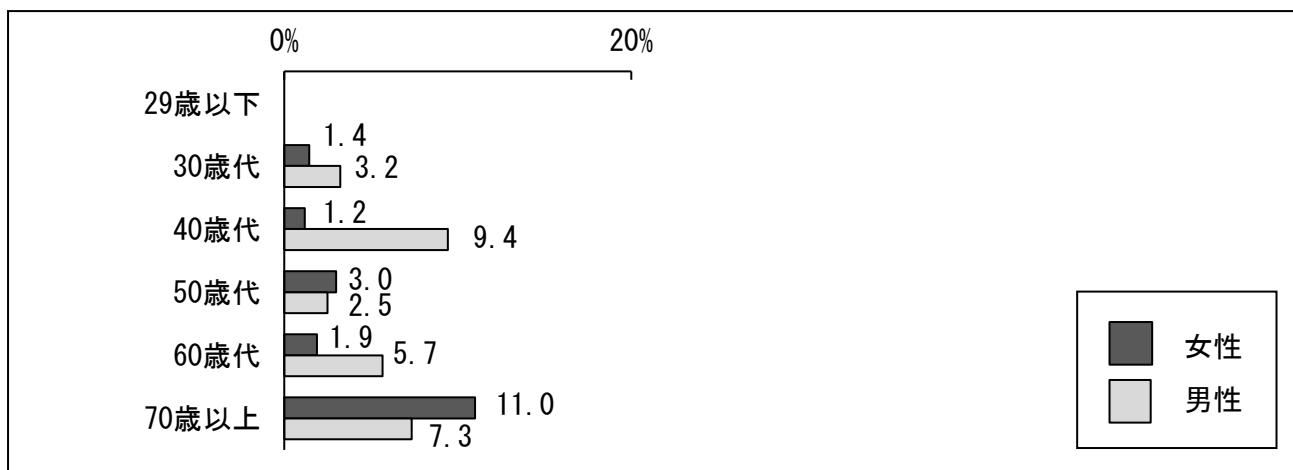
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<家庭での取り組み>

⑥その他



⑦無回答



<「その他」の主な意見>

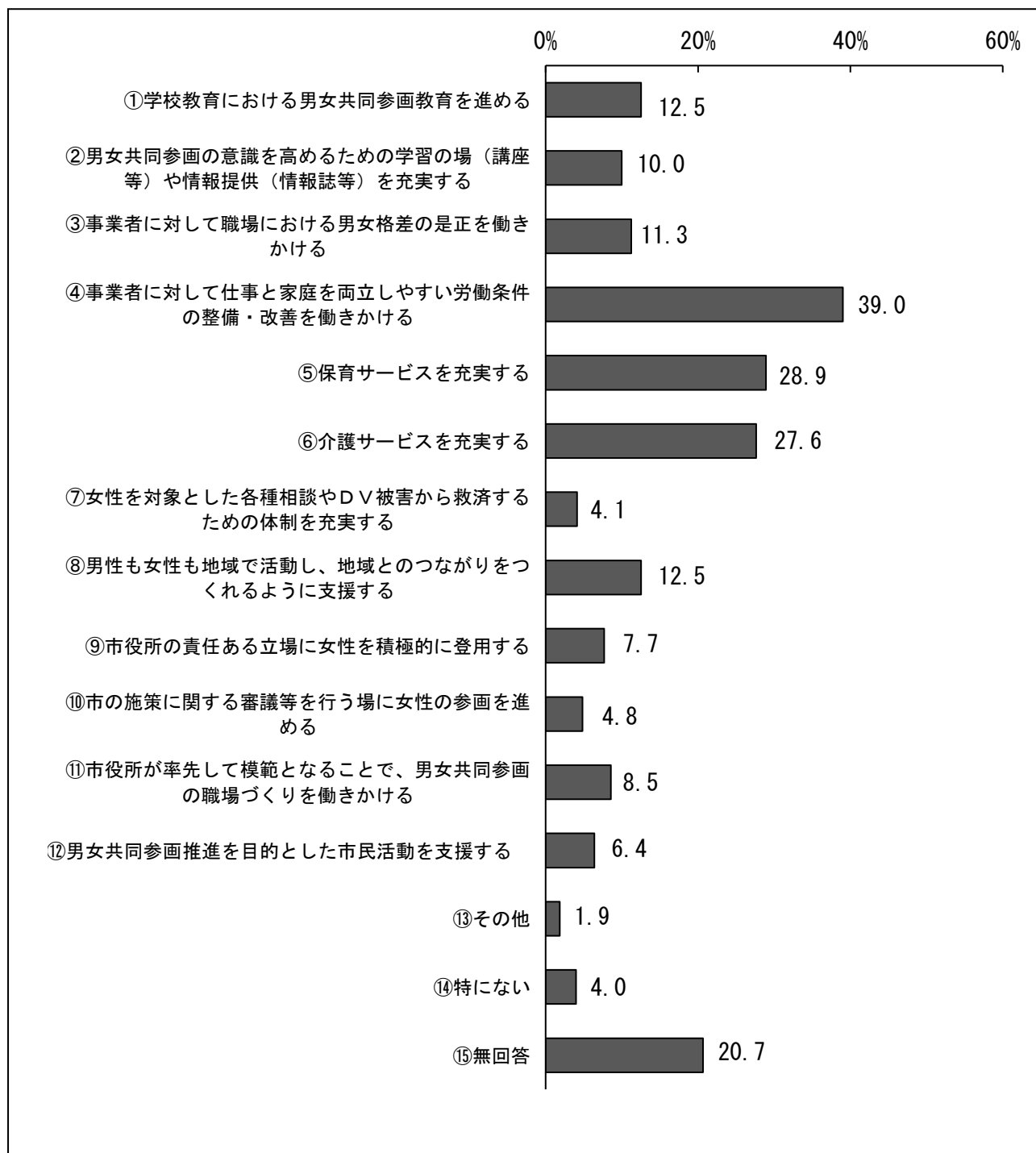
- ◆夫婦間でお互いに感謝の気持ちを忘れないこと。(女性, 40歳代)
- ◆それぞれの事情があるので、モデルケースを目指そうというのが間違い。(男性, 40歳代)
- ◆相互の尊重。(男性, 60歳代)

問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

ア 回答者全体

「事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」という回答が最も多く、次いで保育、介護サービスの充実が多くなっている。

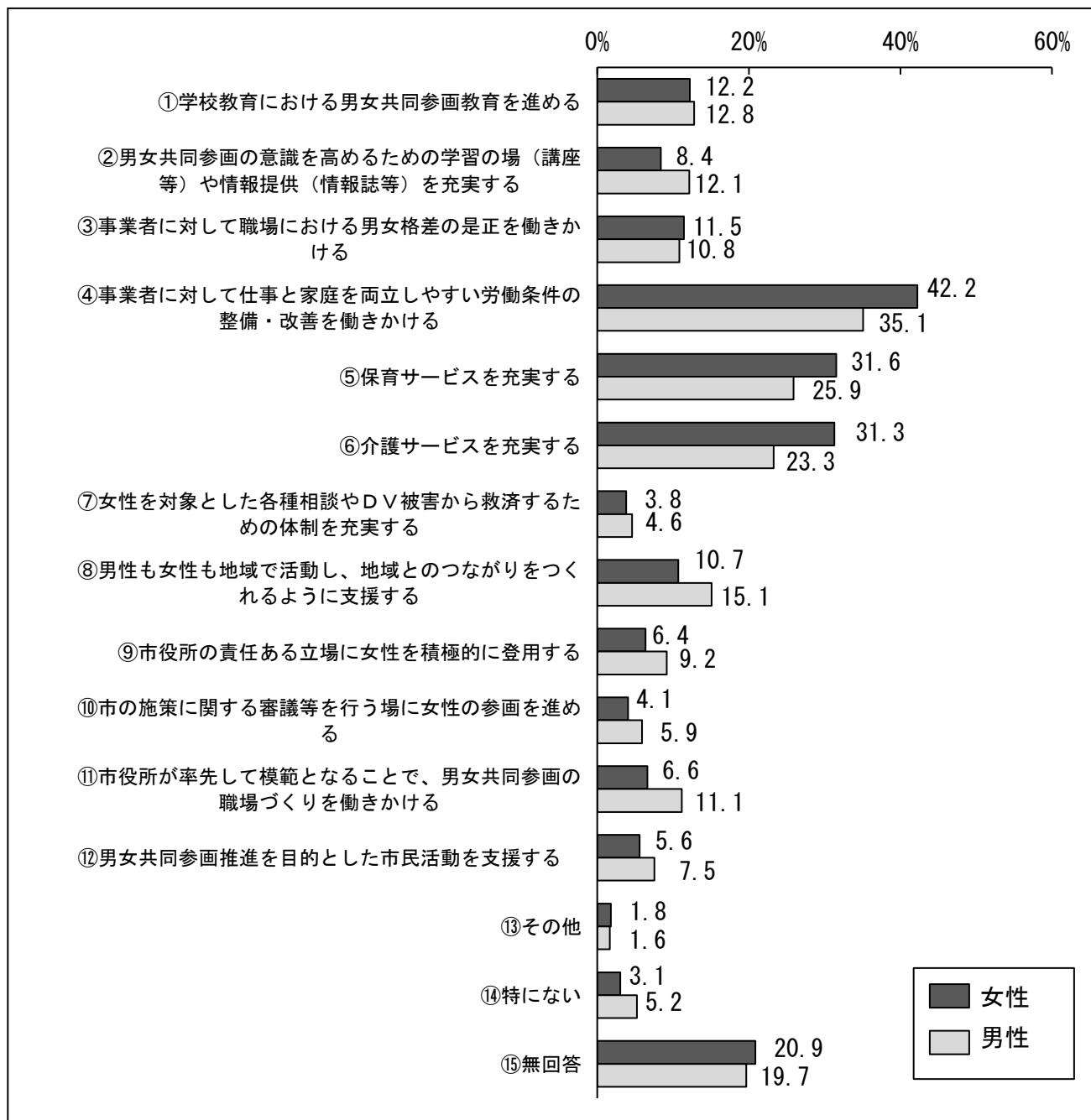


問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

イ 男女別

男女ともに「事業者に対して職場における男女格差の是正を働きかけること」が最も必要だと回答。「保育・介護サービスを充実する」が次いで、女性の方が割合が高い。また、男性の方が「男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する」、「市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する」がやや高くなっている。



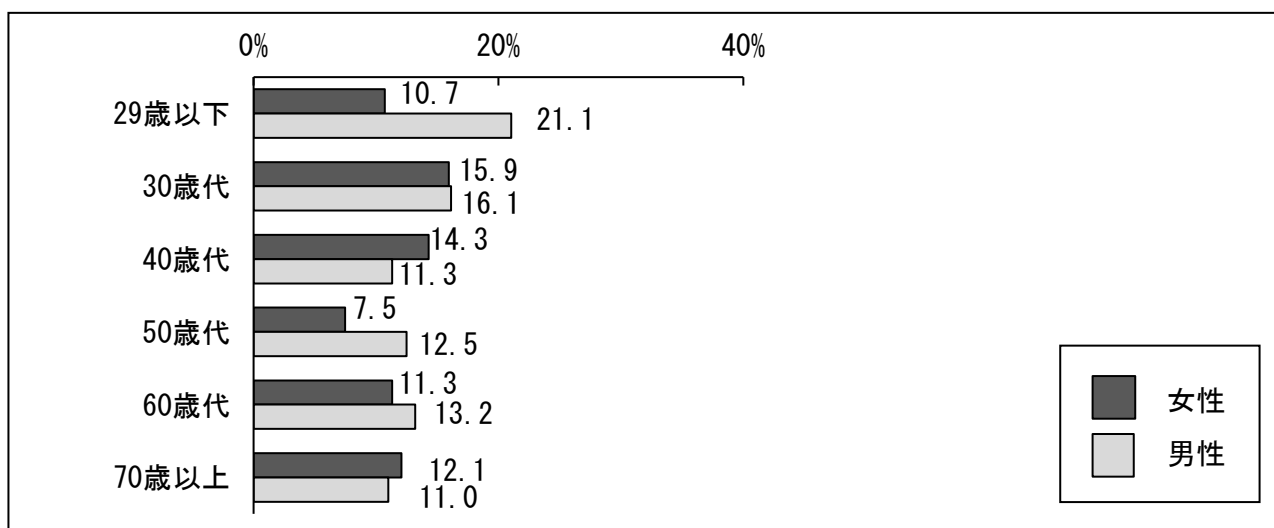
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

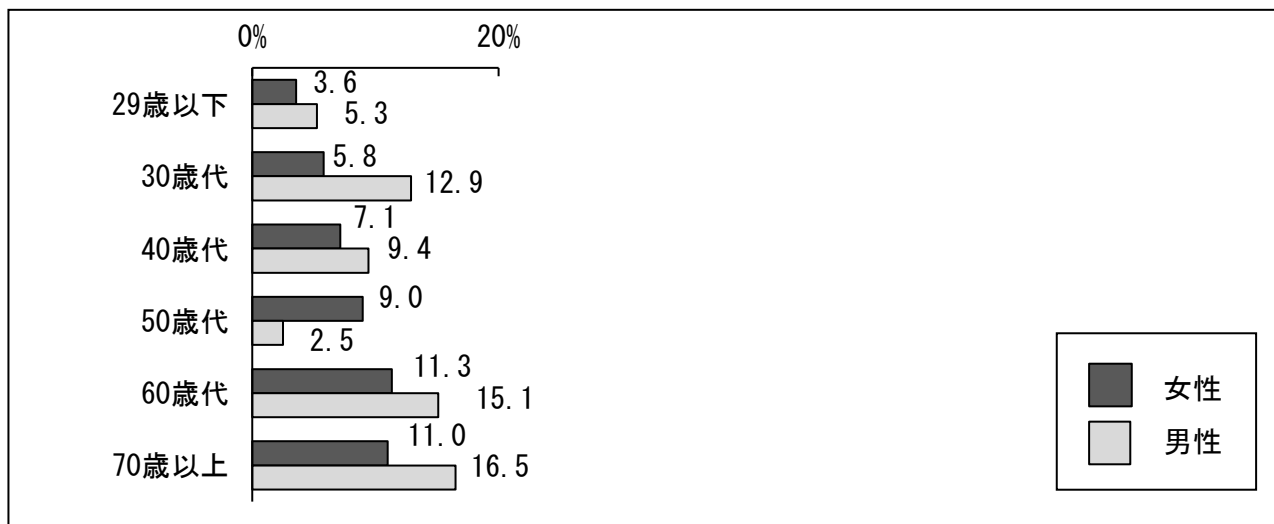
ウ 年代別・男女別

男女ともにいずれの年代でも「事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」の回答が多い。「保育・介護サービスの充実については年代で差が見られる。

①学校教育における男女共同参画教育を進める



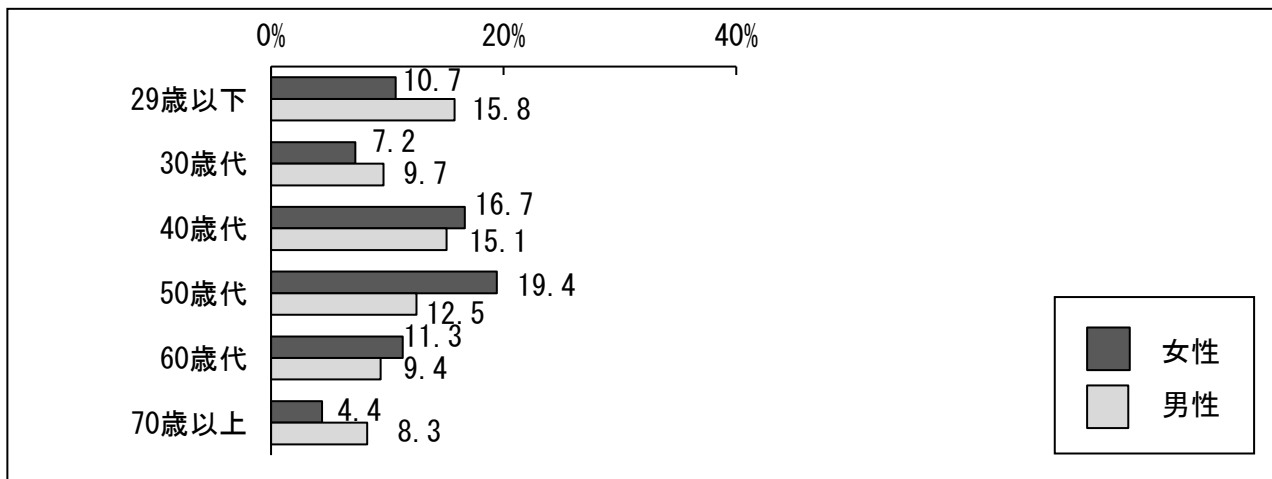
②男女共同参画の意識を高めるための学習の場（講座等）や情報提供（情報誌等）を充実する



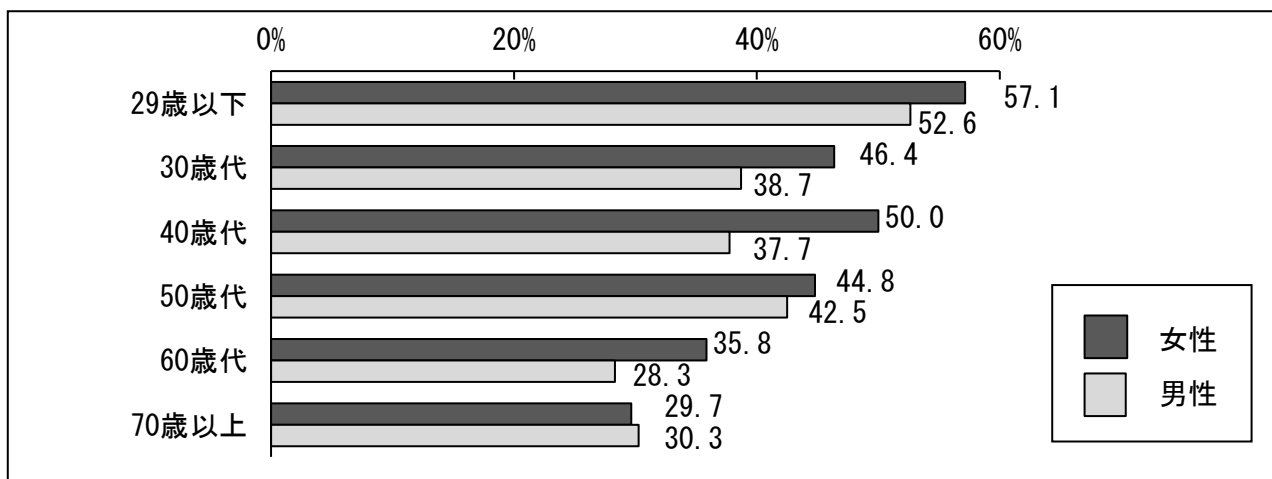
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

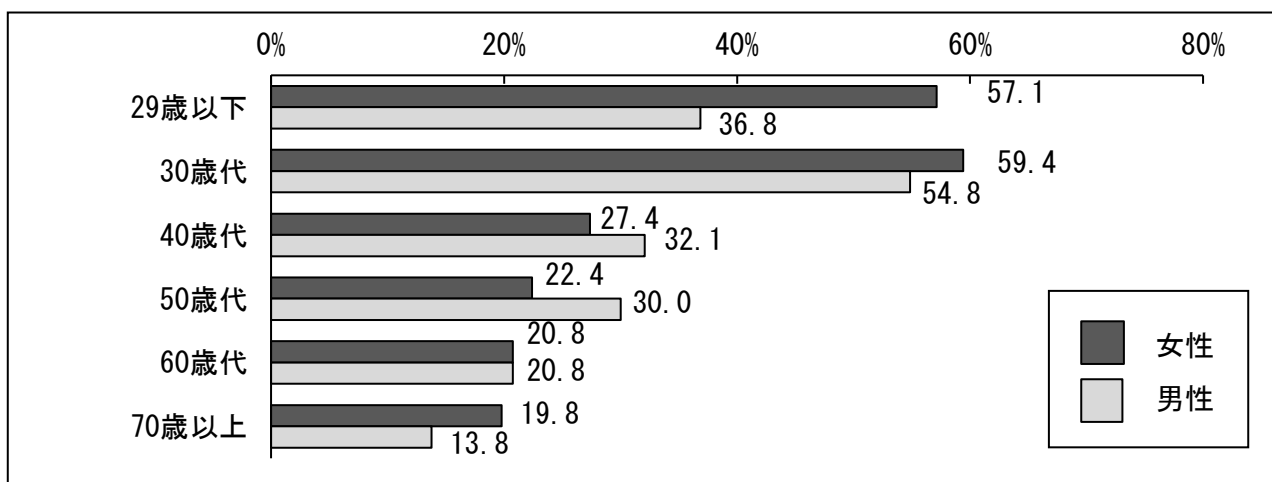
③事業者に対して職場における男女格差の是正を働きかける



④事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける



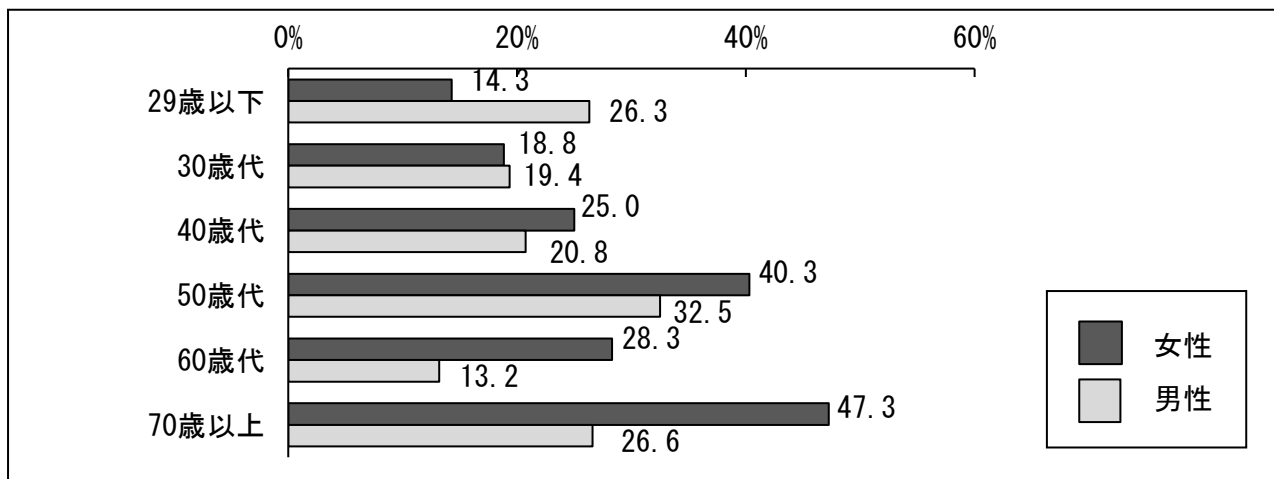
⑤保育サービスを充実する



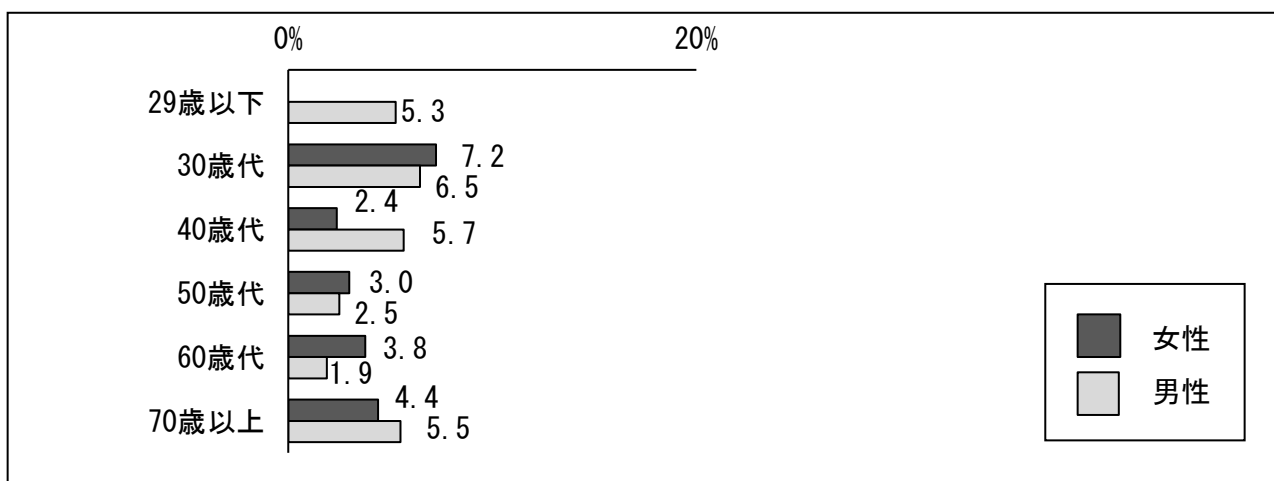
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

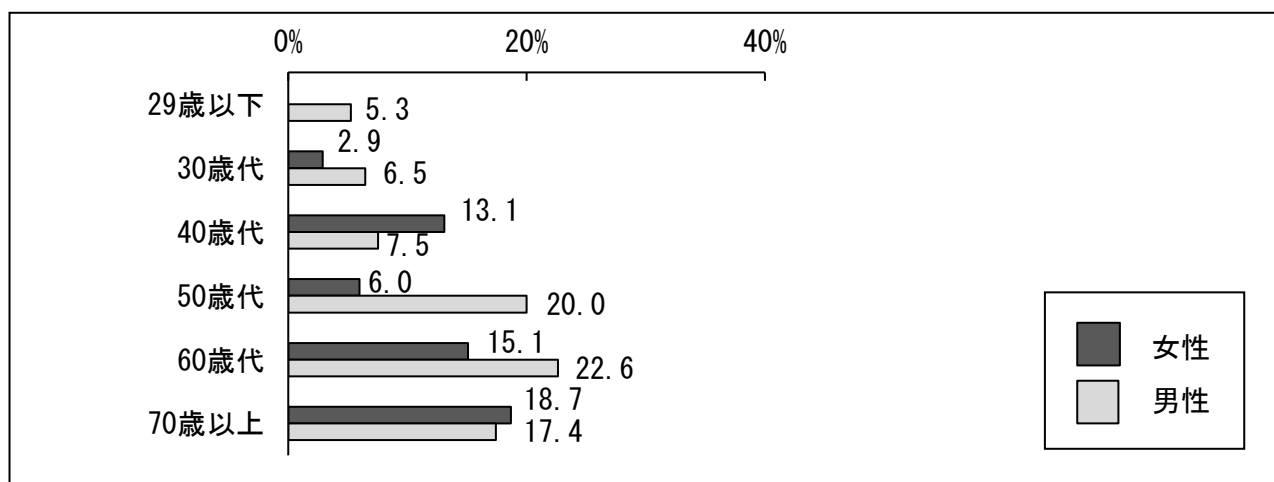
⑥介護サービスを充実する



⑦女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する



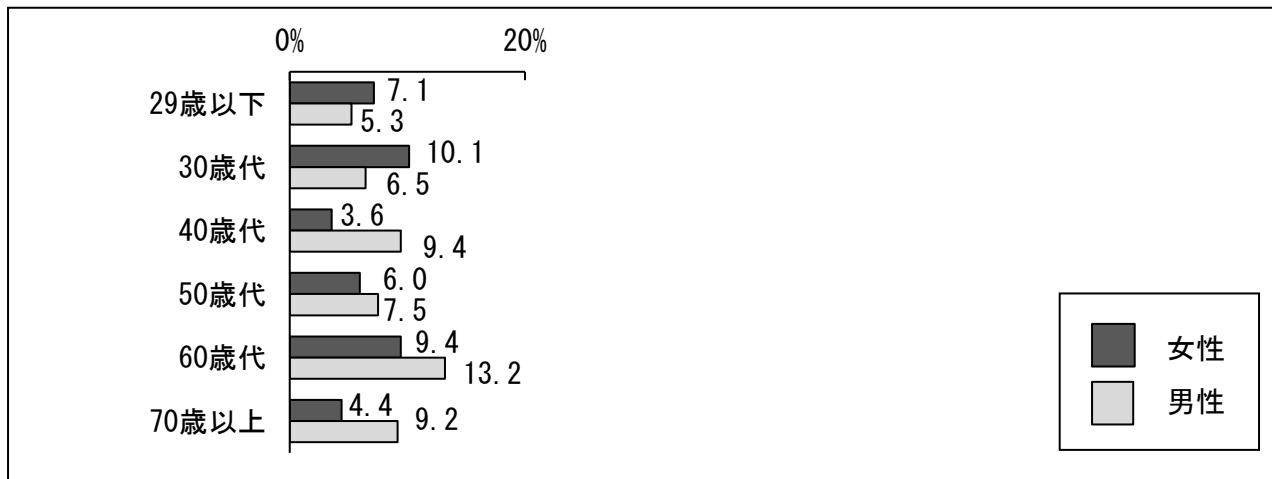
⑧男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する



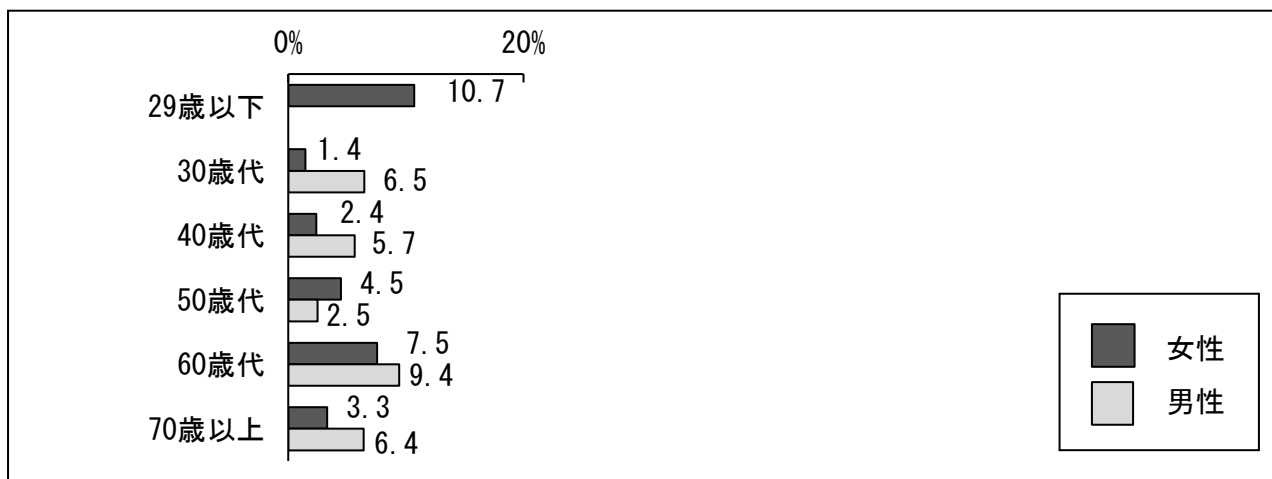
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

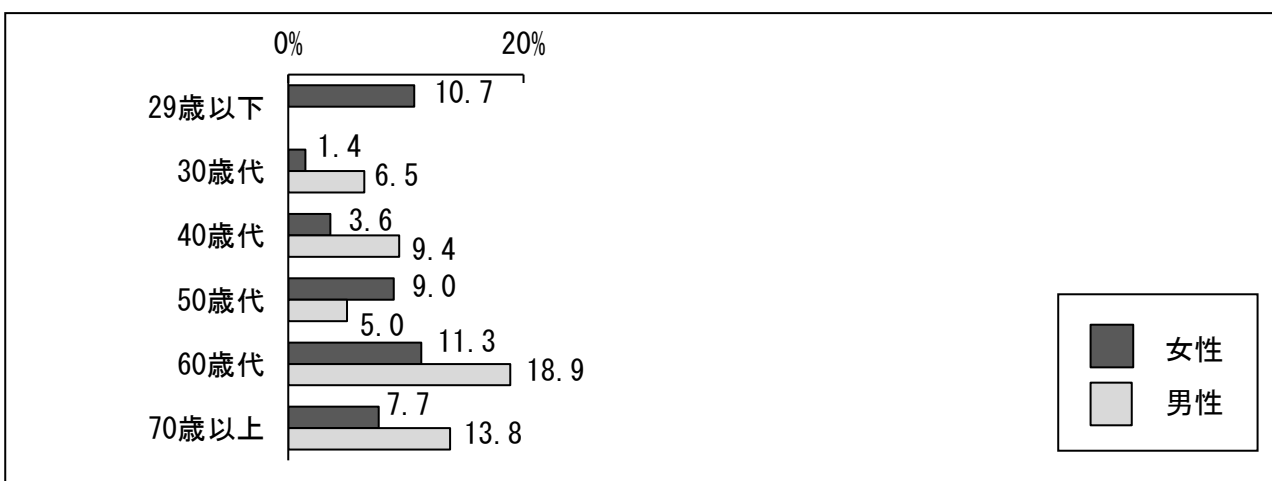
⑨市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する



⑩市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める



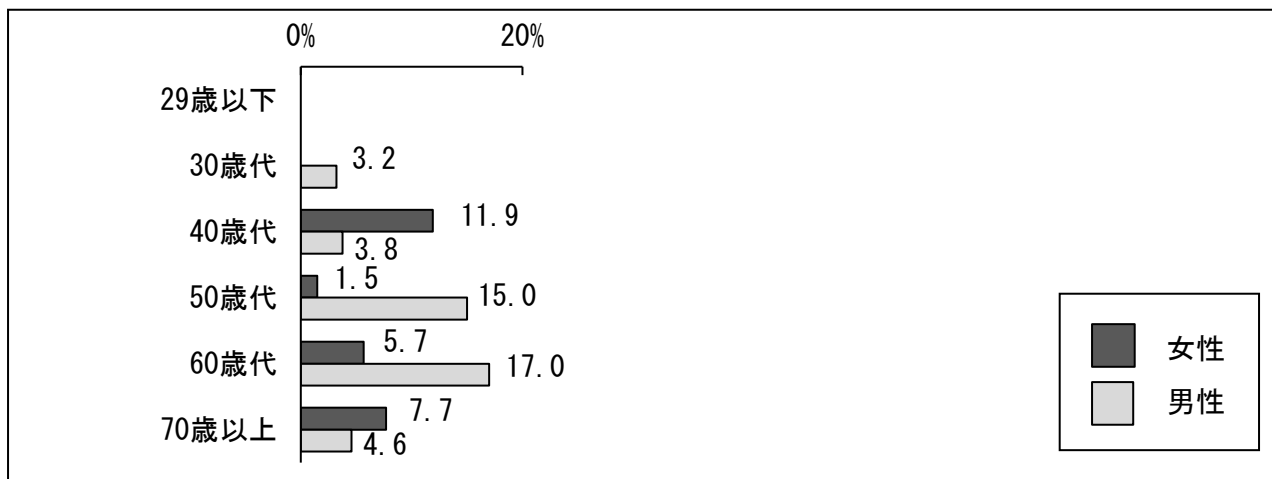
⑪市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける



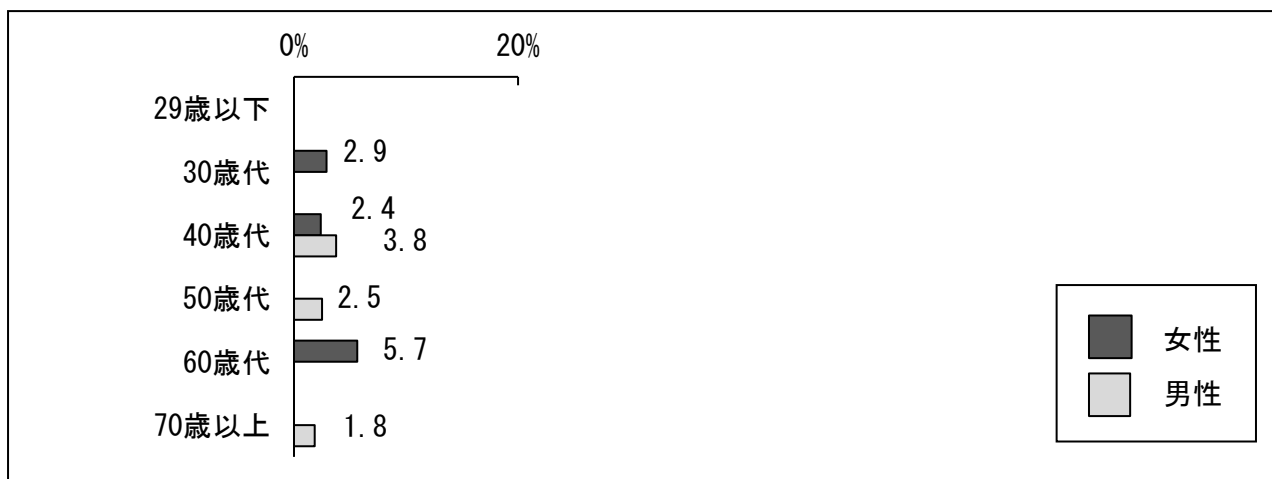
問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

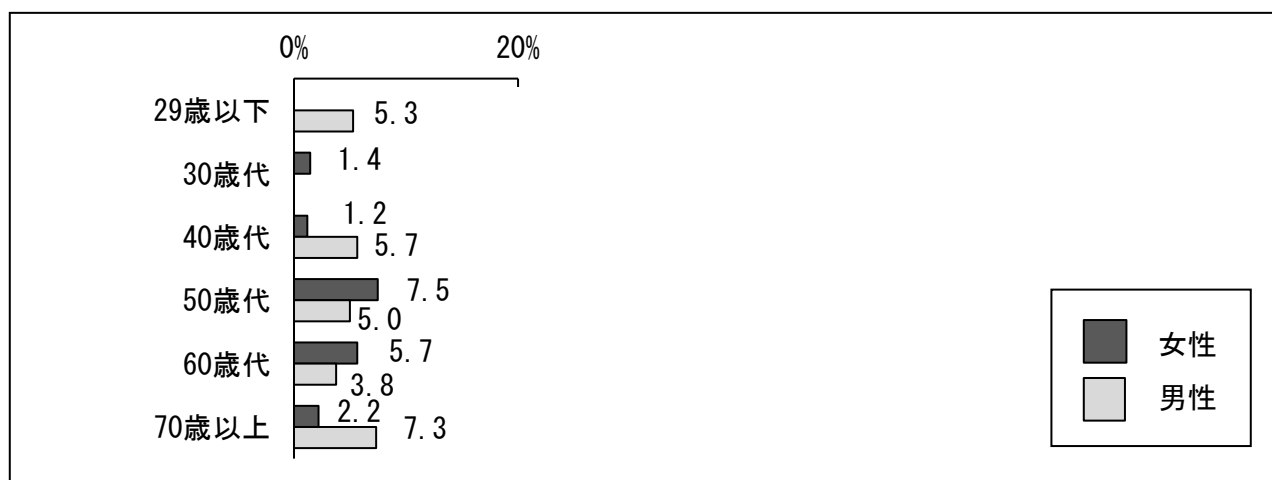
⑫男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する



⑬その他



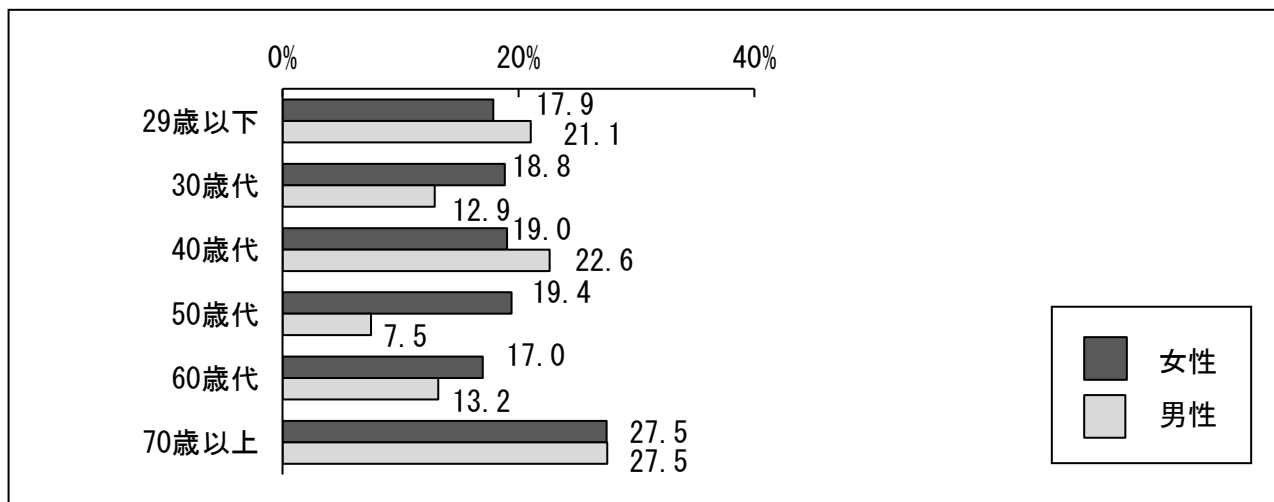
⑭特にない



問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを選んでください。

<八千代市における取り組み（2つ）>

⑮無回答



<「その他」の主な意見>

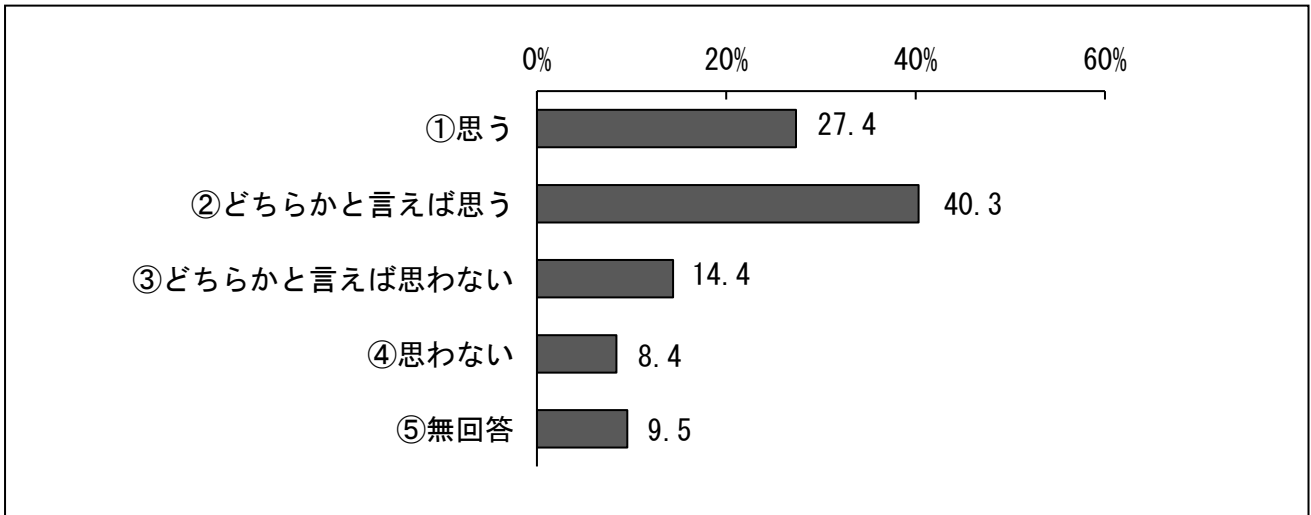
- ◆そもそも日本自体が男社会。市レベルで表向きな事だけでは何も変わらない。変われるのか？
(女性, 40歳代)
- ◆ダイバーシティ、“男女”にとらわれず個人を尊重し、一人ひとりちがうのだからという意識を持って互いを尊重するまちづくり (無回答)

(6) 性的マイノリティ

問 10 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いませんか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

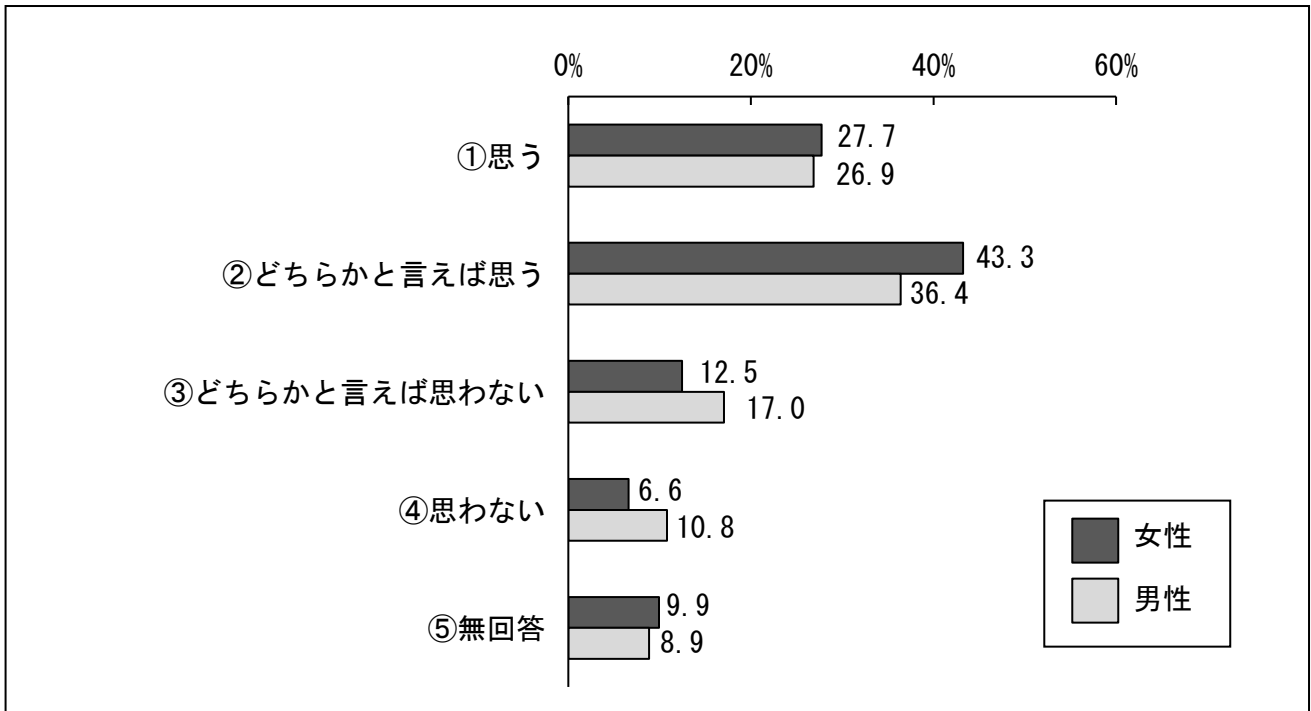
ア 回答者全体

「思う」「どちらかと言えば思う」人が約7割となっている。



イ 男女別

女性のほうが、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと回答している。

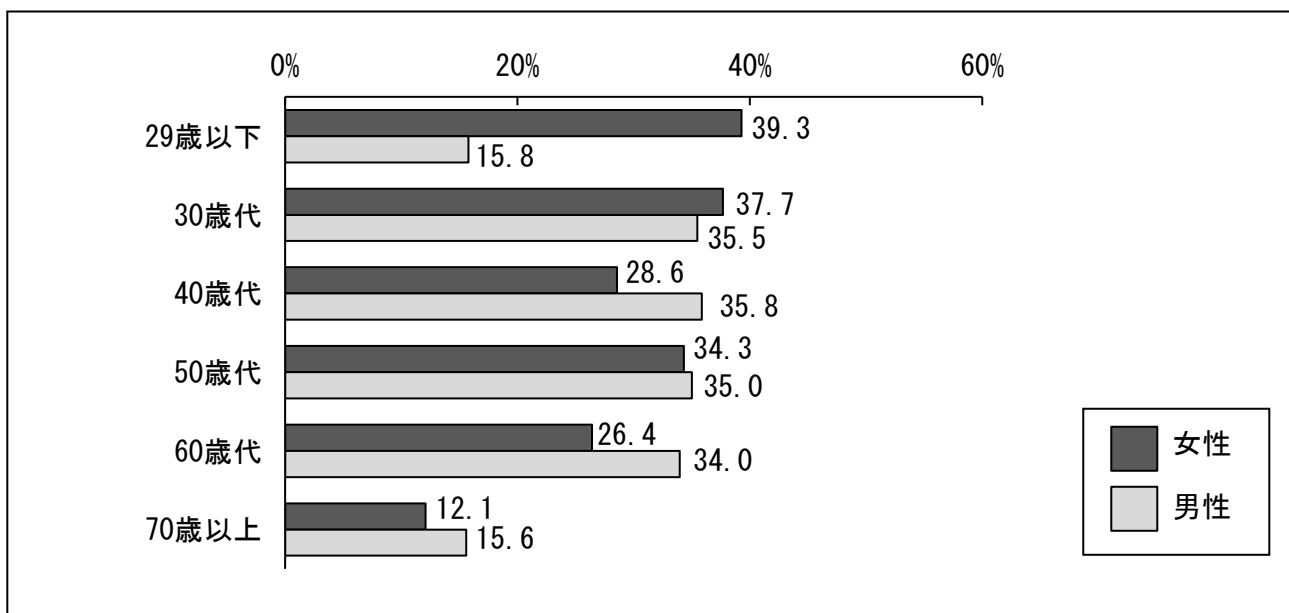


問10 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

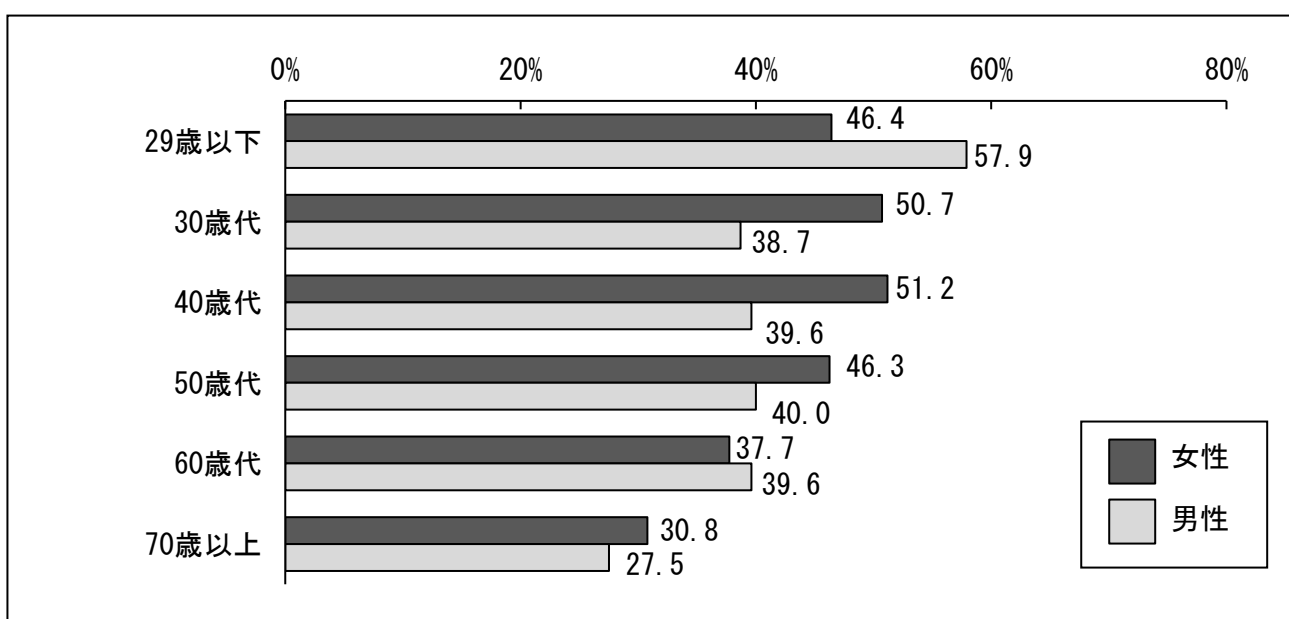
ウ 年代別・男女別

男女ともに、20歳代と女性の60歳代を除く全ての年代で「思う」「どちらかと言えば思う」人が7割以上となっている。

①思う

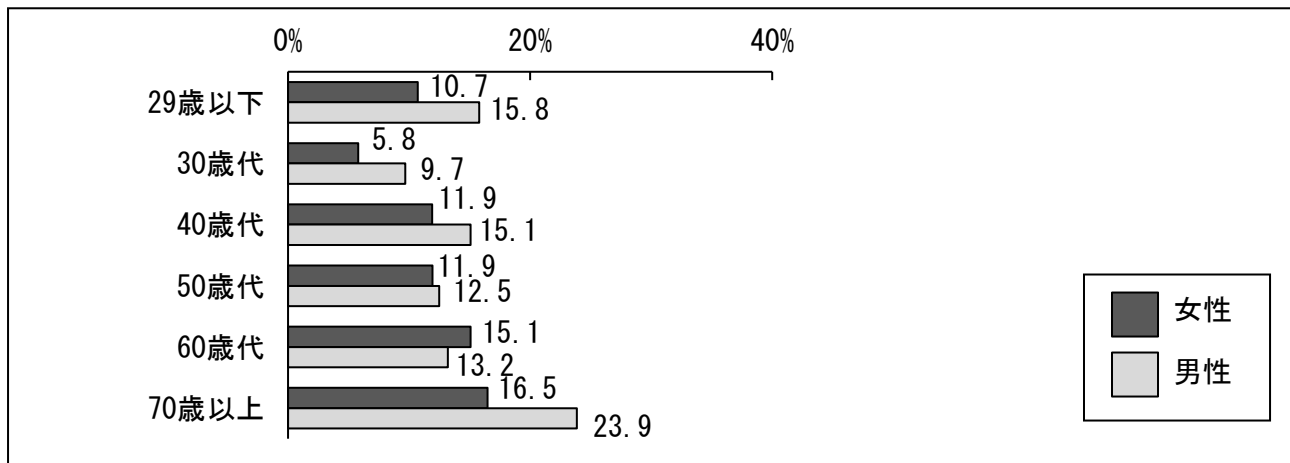


②どちらかと言えば思う

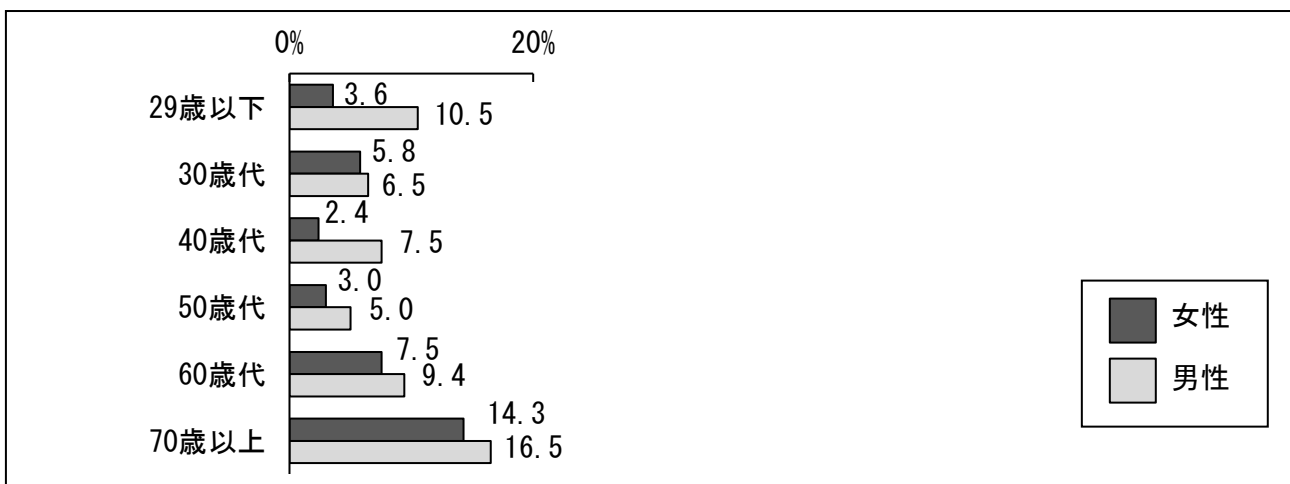


問10 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

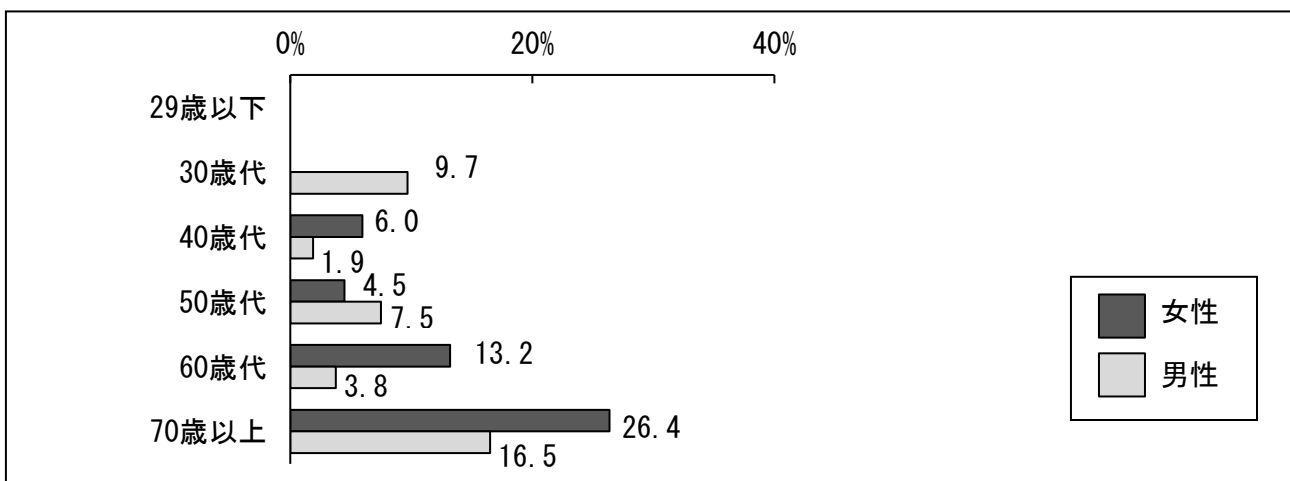
③どちらかと言えば思わない



④思わない



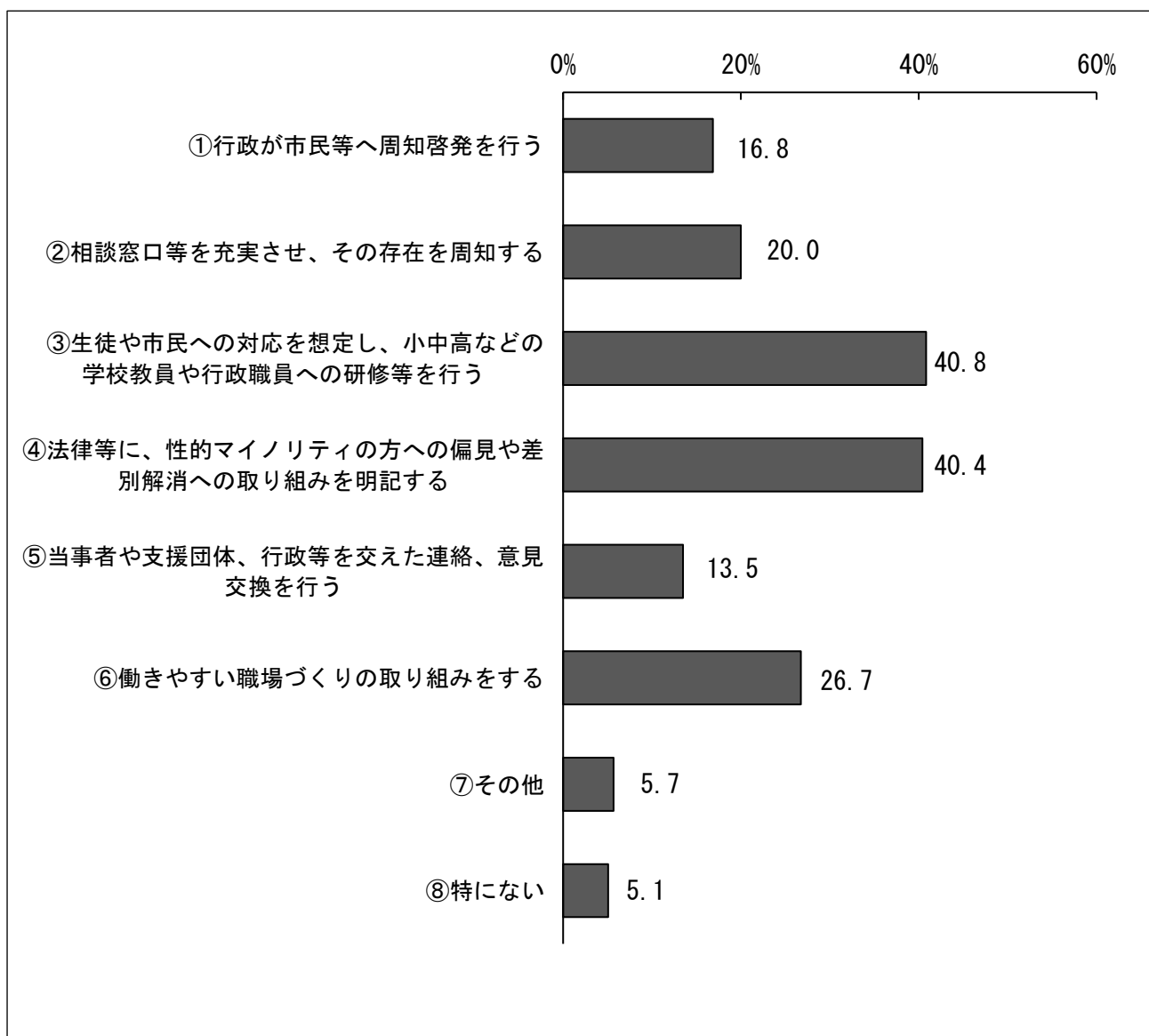
⑤無回答



問 11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
 (2つまで、問10で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した方のみ)

ア 回答者全体

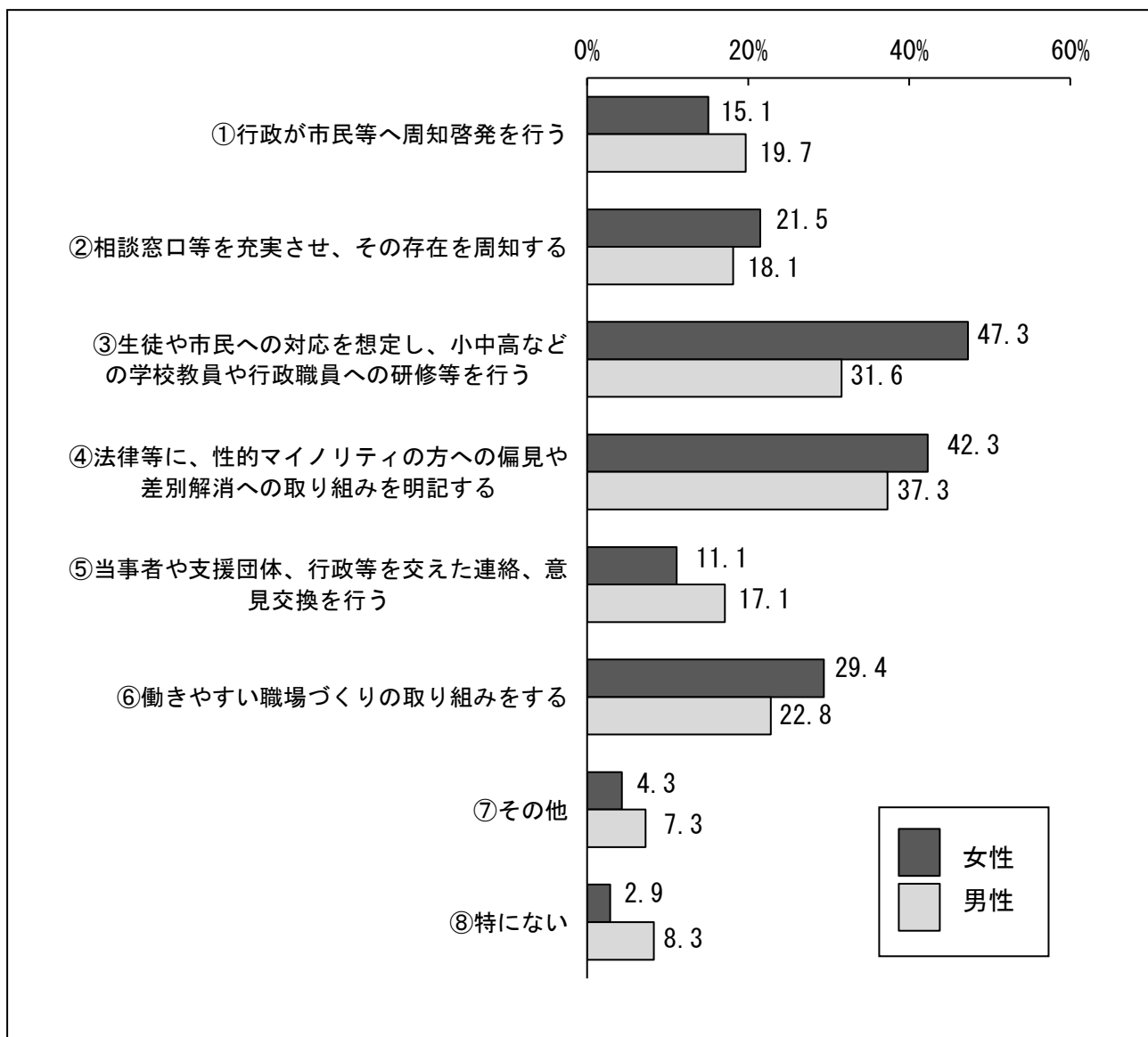
「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」、
 「法律等に、性的マイノリティの方への偏見や差別解消への取り組みを明記する」という
 回答が多く、「働きやすい職場づくりの取り組みをする」が次いで多くなっている。



問 11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思えますか。
 (2つまで、問 10 で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した方のみ)

イ 男女別

男女ともに、「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」「法律等に、性的マイノリティの方への偏見や差別解消への取り組みを明記する」次いで「働きやすい職場づくりの取り組みをする」が多くなっている。

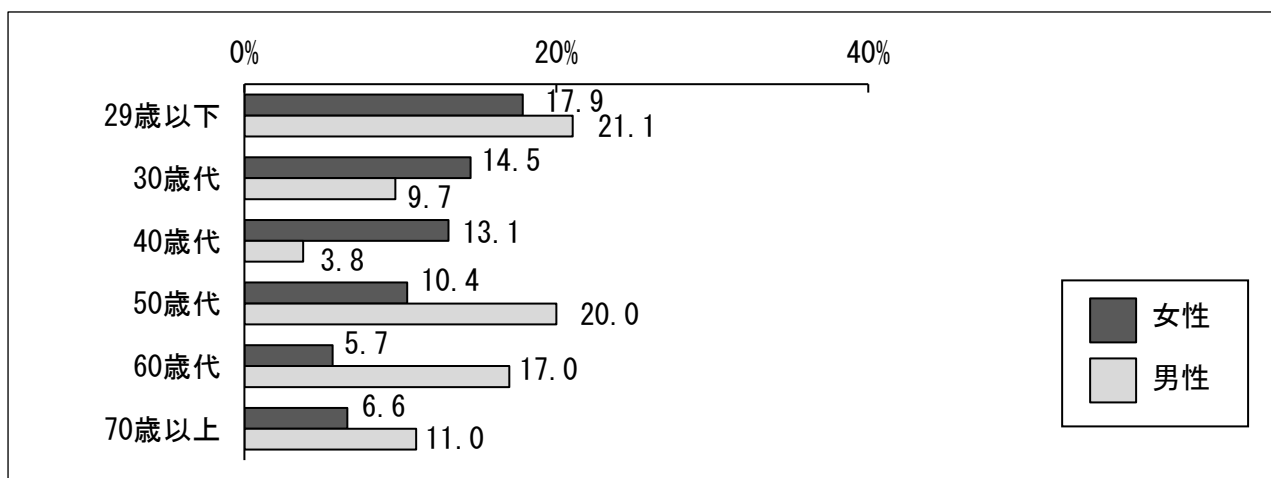


問 11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
 (2つまで、問10で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した方のみ)

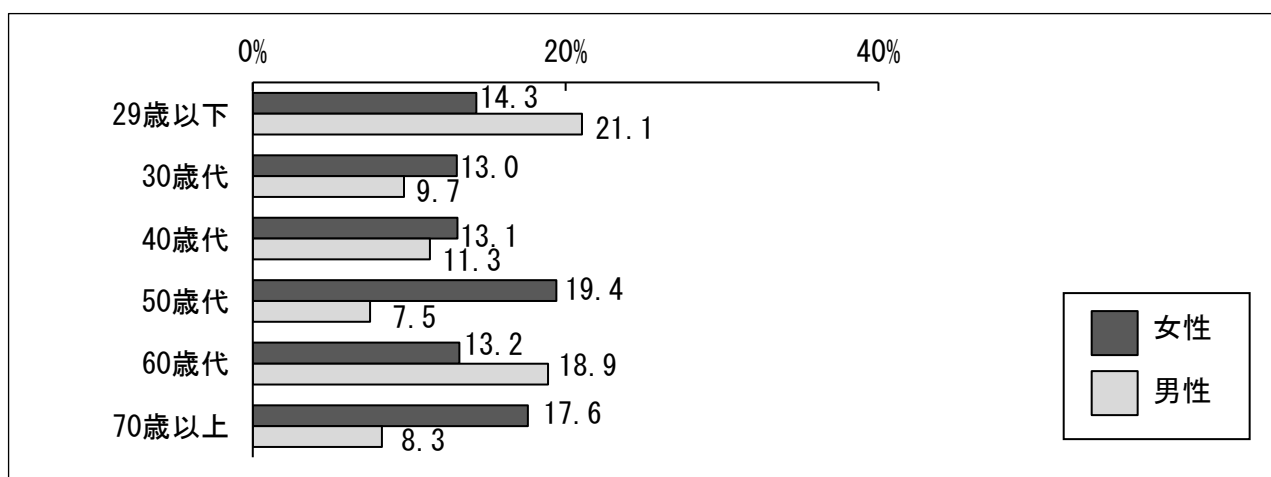
ウ 年代別・男女別

男女ともにいずれの年代でも「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」の回答が多いが、全ての年代で女性の方が割合が高く、29歳以下～30歳代の女性では約半数となっている。男性の方がやや回答が分かれている。

①行政が市民等へ周知啓発を行う



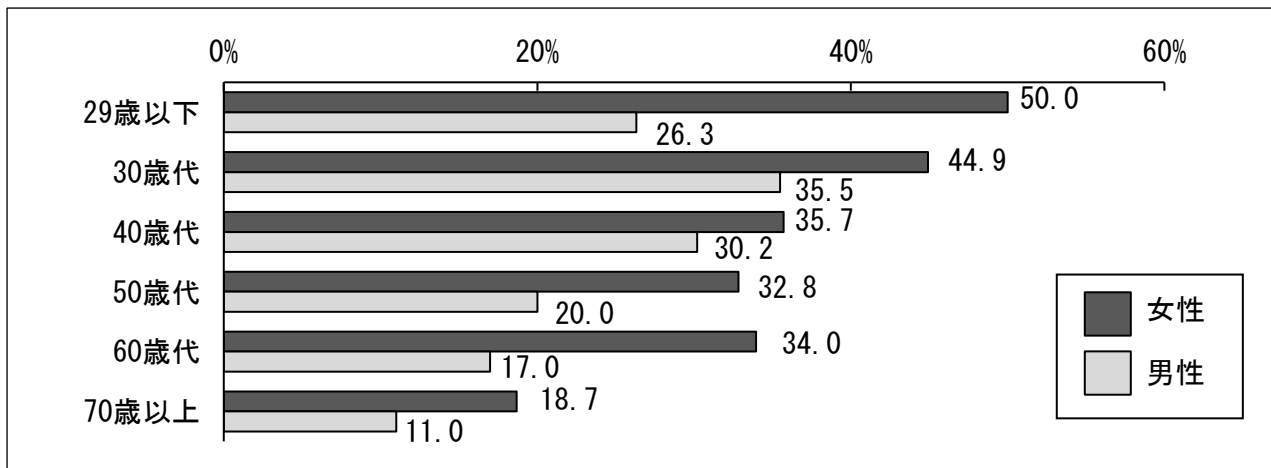
②相談窓口等を充実させ、その存在を周知する



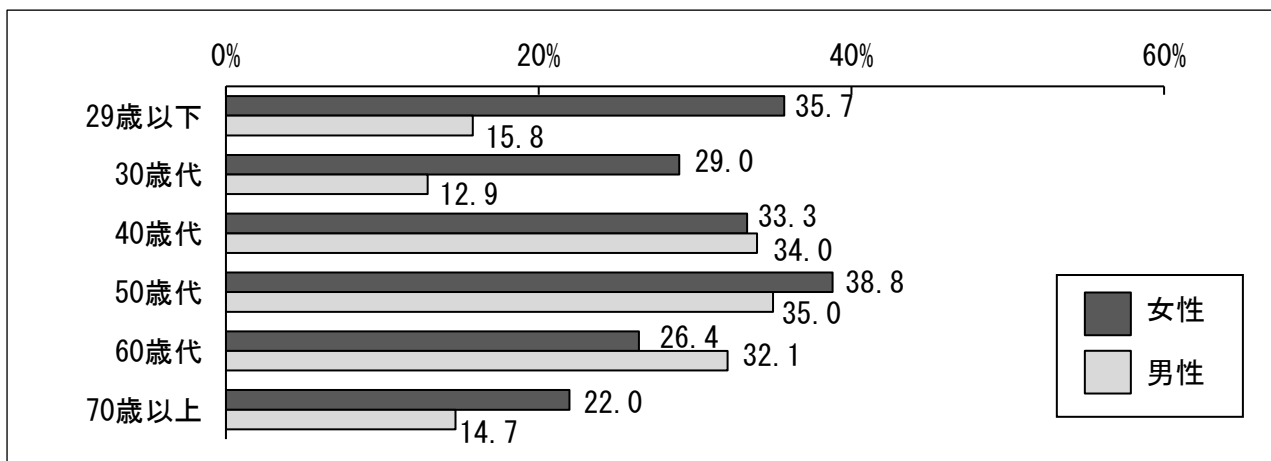
問 11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

(2つまで、問10で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した方のみ)

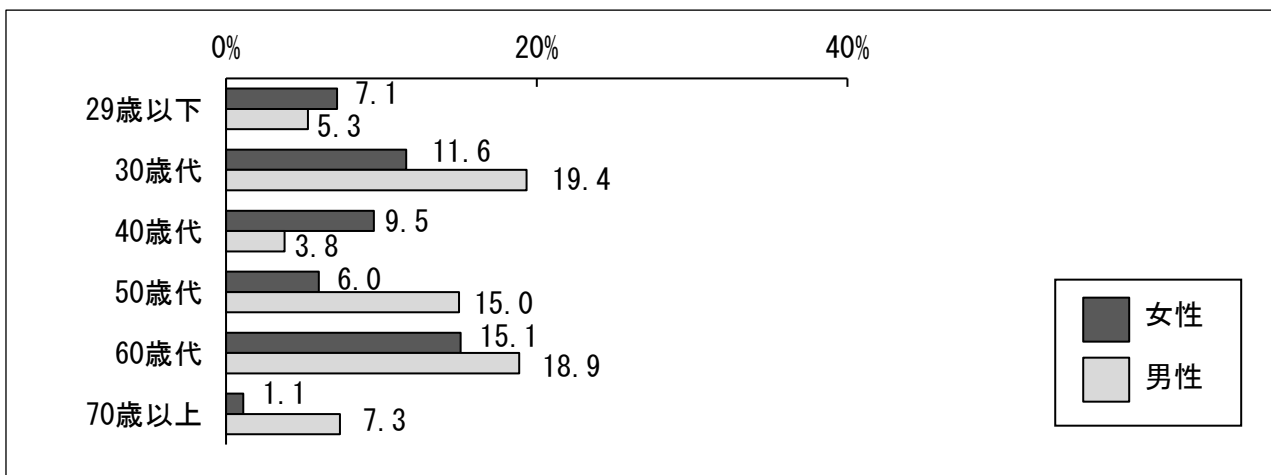
③生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う



④法律等に、性的マイノリティの方への偏見や差別解消への取り組みを明記する

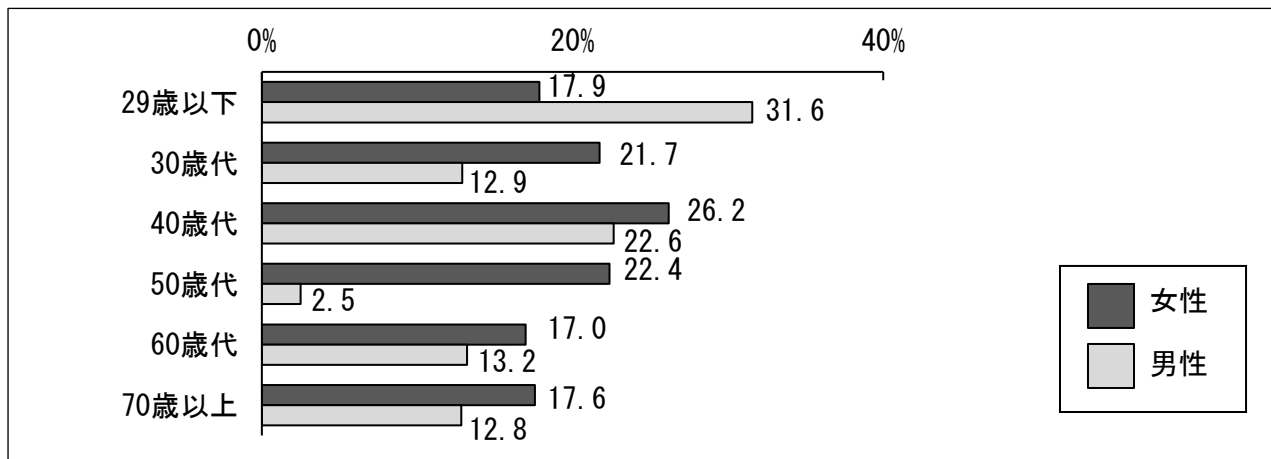


⑤当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う

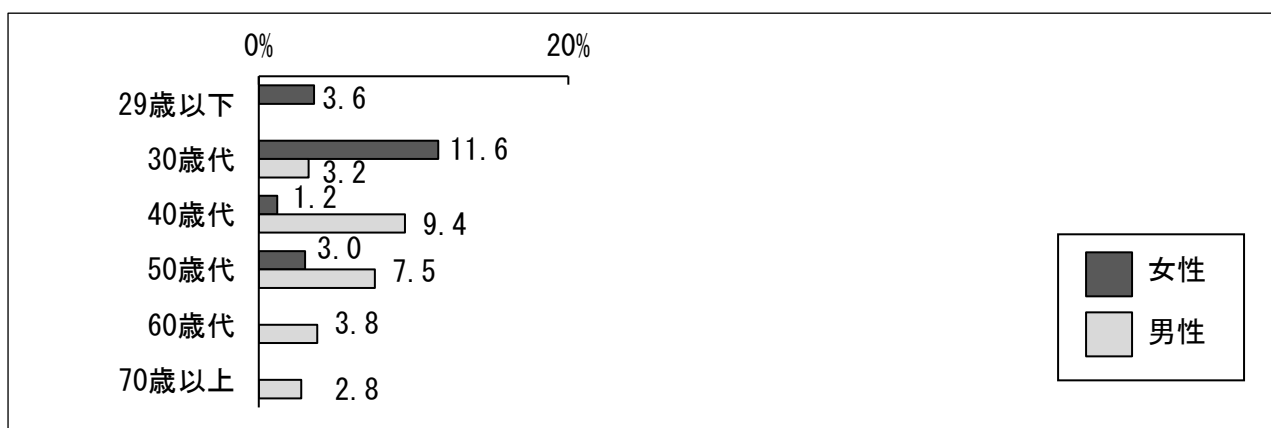


問 11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
 (2つまで、問10で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した方のみ)

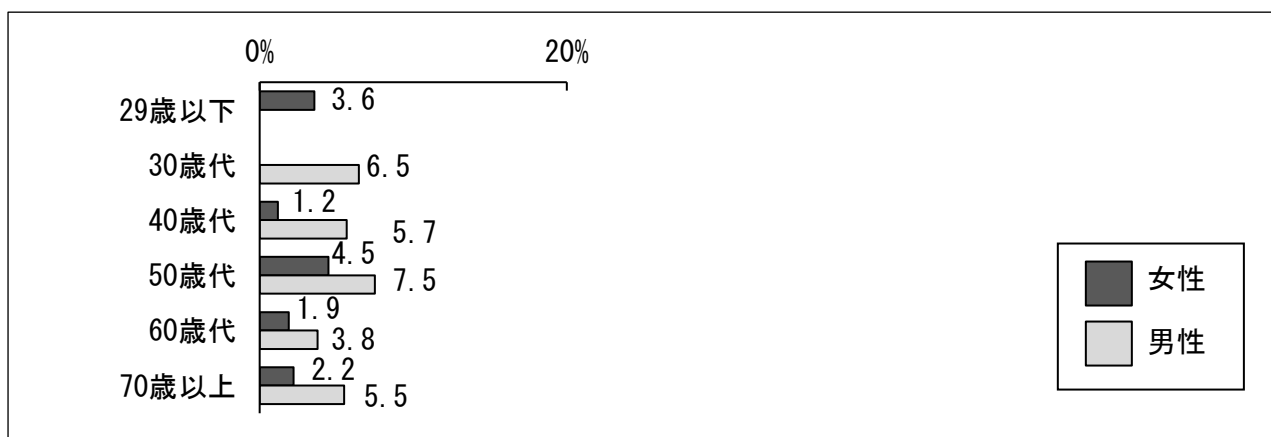
⑥働きやすい職場づくりの取り組みをする



⑦その他



⑧特にない



問 11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
(2つまで、問 10 で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した方のみ)

<「その他」の主な意見>

- ◆教育の場においても偏見、差別により苦しんでいる人を知らせて、いじめなどがなくなるようにする(女性, 29 歳以下)
- ◆法改正・病院などの署名や社会保険など、LGBT ではない人たちと同等の扱い待遇することが必要。(女性, 30 歳代)
- ◆LGBT の方々の言葉を実際に聞くことが大事(何を考え、思い、感じているのか)。(女性, 30 歳代)
- ◆周囲の人の理解。(男性, 40 歳代)
- ◆LGBT を特別扱いすること自体が差別につながると思う。(男性, 40 歳代)
- ◆まだ現役時代 LGBT の若者を預かったが結局退社してしまった。同期社員の偏見等々本人は辛かったのだと思う・・・社会的な教育が大事に思う。(男性, 60 歳代)

(7) 自由記述における主な意見

- ◆幼児の頃から教育・家庭の場で男女平等を常識として見せていけば、世の中が世代とともに変わっていくと思う。小学校のPTAなど、仕事に影響が出るものは結局女性の役割になっていて、仕事に影響が出るので責任ある役職につきにくい。家事も女性がほぼやっているのが現実。家事代行や子どもをあずけやすいシステム、PTAなどの外部委託など各家庭がすべてを負担しなくてもよい環境になったら、人々に少し余裕が出て、男女平等に向かいやすいと思う。平等意識が高まると共同参画に結びつくと思う。(女性, 30歳代)
- ◆実際、仕事と家庭の両立は難しいです。仕事を辞めても再就職は難しいので、そういった選択もできないと思う。(女性, 30歳代)
- ◆昔のことはよくわかりませんが、今の時代、目に見える所では男女差別は減ってきているのかなと感じます。このアンケートからも読みとれますが、おそらく老若男女問わず、個々人持ち味が受け止められて生かされていくことが、今後の社会に大事なことであるのかなと思いました。(必要とされていない人は誰もいない。命が与えられた以上、その人は生まれるべきして生まれた人。互いの弱み強みを出し合って支えていく幸せな社会になりますように。)(女性, 30歳代)
- ◆このようなアンケート結果を活かし、様々な活動や施策に繋げていただききたい。(アンケートを行ったことで目的が完了したことにはしていただきたくないです。市民の時間を使ってアンケートを実施しているので) よろしく願いいたします。(男性, 30歳代)
- ◆「男女」という言葉自体の使用を控え、人として、社会人としての言葉を使っていくようにすることが望まれる。「男女」のレッテルを行政において、なくしていく方向を検討する必要がある。(男性, 40歳代)
- ◆現状が男女ともにいきいきと暮らしていないのであれば、課題を広報誌等を通じ、もっと知らせていく必要があると思う。一般企業より、むしろ役所関係に、男女共同でない風潮が残っているのではないかと思う。(男性, 40歳代)
- ◆家庭では、男女関係なくできる人ができることを協力してやっていた方がよいと思う。若い時からやっていたら、老後お互いに楽だと思える。(女性, 50歳代)
- ◆男女共同参画は地方に行くほど消極的であると思う。八千代市も然りである。慣習を重んじる傾向が強く、新しい道を開くことに偏見や中傷は付きもので、その覚悟を持つことから始めなければならない。個人の考えや意識、行動は周囲や長年の慣習によっての制限があり、それらに添ったものでなければ受け入れてもらえない。(女性, 60歳代)
- ◆企業でも、賃金昇進等の男女差別は改善されていない。国・県・市をあげて、テストケースとして積極的に男女差別をなくしてほしい。(女性, 60歳代)
- ◆女性の参画による産業界でのケーススタディを公表して、意識改革できる説得力のある方法や内容を考える教育や支援の体制を構築する必要があります。(男性, 60歳代)
- ◆人間社会は男女がおおよそ半数で成り立っているため、社会生活を行う上では性差なく共同参画で行うことを基本と考えることが重要。(男性, 70歳以上)

3 前回調査との比較【参考】

調査項目が異なるため単純な比較はできないが、参考として前回の平成 21 年度調査の同内容の設問と結果を比較した。

■男女平等

慣習・しきたり等について、「男性が優遇されている」の割合が減少している。

項目	調査年	男性が優遇 されている	女性が優遇 されている	平等	わからない	無回答
①慣習、しきたり等	H21	71.6%	7.3%	36.0%	6.7%	0.3%
	R1	50.1%	1.4%	20.1%	19.7%	8.7%
②法律・制度での扱い	H21	38.8%	7.3%	37.7%	16.0%	0.2%
	R1	30.2%	4.4%	34.9%	21.8%	8.7%
③政治（国政）	H21	65.3%	1.6%	19.1%	13.6%	0.2%
	R1	62.0%	0.3%	14.5%	15.5%	7.7%
④学校教育	H21	14.0%	3.7%	57.9%	23.8%	0.4%
	R1	12.1%	1.0%	61.4%	17.2%	8.3%
⑤就職の機会、職場での 働き方や処遇	H21	59.4%	4.1%	20.0%	16.0%	0.4%
	R1	51.4%	2.7%	21.8%	15.7%	8.4%
⑥家庭での家事分担や家庭 におけるものごとの決定	H21	49.7%	7.3%	20.0%	16.0%	0.4%
	R1	36.5%	12.0%	29.2%	13.7%	8.7%
⑦PTA やボランティア などの地域活動	H21	27.1%	8.6%	36.0%	6.7%	0.3%
	R1	15.5%	12.8%	32.2%	31.3%	8.1%

※H21 調査では、各項目が「①社会通念・意識慣習・しきたり等②法律や制度上③政治の場④学校教育の場⑤職場⑥家庭生活⑦地域活動」となっている。

※H21 調査での「男性（女性）の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」回答を合計し、本表の「男性（女性）が優遇されている」に記載している。

■家事・育児分担

家事については、やや「主に女性」の割合が減少しているが、依然として女性が担っているという回答が多数となっている。

育児のうち「子どもの身の回りの世話」については、女性が担っている割合が前回は上回っているが、今回の調査で項目を分けたことによるものかと推察される。

項目	調査年	項目詳細 (R1のみ)	主に男性	主に女性	適宜分担	その他(該当 しない等)	無回答
①家事	H21	(家事全般)	1.5%	80.9%	9.0%	1.3%	7.3%
	R1	食事のしたく	1.9%	72.8%	11.7%	8.4%	5.3%
		洗濯	3.7%	69.1%	14.0%	8.1%	5.1%
		掃除	5.0%	58.4%	22.6%	8.6%	5.4%
②育児	H21	(育児全般)	0.2%	35.1%	5.3%	50.7%	8.8%
	R1	子どもの身の回りの世話	0.4%	46.2%	9.4%	35.8%	8.3%
		子どものしつけ	0.6%	29.8%	23.8%	37.5%	8.4%
		子どもと遊ぶ、勉強などを教える	2.6%	23.4%	24.2%	40.7%	9.1%
③介護	H21	(介護全般)	0.9%	11.2%	3.1%	76.0%	8.7%
	R1	高齢者や障がい者、病人の介護・看護	1.1%	18.1%	11.5%	60.2%	9.0%
④地域 活動	H21	(地域活動全般)	0.9%	11.2%	3.1%	76.0%	8.7%
	R1	町内会・自治会の活動	17.5%	28.3%	19.2%	29.0%	5.8%
		PTAやボランティアなどの地域活動	6.6%	36.0%	13.8%	36.9%	6.7%

※「その他(該当しない等)」の区分の内訳は、H21は「その他(家族以外の人)」「該当しない・わからない」を、R1は「ひとり暮らし」「該当しない」の回答数。

※H21は、「主に男性(女性)」の選択肢が「家族の中の男性(女性)」、「適宜分担」が「家族の中の男女同程度」となっている。

4 資料（調査票）

男女共同参画に関する市民アンケート【調査票】

最初に、あなたのことについて伺います

①から⑥の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。※④はあてはまるものすべてに○

①性別	1 男性 2 女性 3 その他※
②年齢	1 29歳以下 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代 6 70歳以上
③働き方	1 正社員・正職員 2 契約・派遣社員 3 パート・アルバイト 4 自営業（自由業・サービス業・農業等） 5 家事専業・無職 6 その他
④現在同居されている <u>すべての方に○</u> をつけてください	1 配偶者・パートナー 2 子ども 3 親（実親・義親） 4 兄弟・姉妹 5 祖父母 6 孫 7 その他（ ） 8 一人暮らし
⑤④で「2 子ども」を選んだ方へ、一番下のお子さんは次のどの年代にあてはまりますか	1 乳幼児（小学校入学前） 2 小学 1～3年生 3 小学 4～6年生 4 中学生 5 高校生以上
⑥現在あなたは介護を行っていますか	1 はい 2 いいえ

※①性別の「3 その他」とは、性的マイノリティを考慮した選択肢です。戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりご記入ください。

1 生活の中での男女共同参画について伺います

問1 家事や育児などは誰が日常的に担っていますか。①から⑪の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	主に男性	主に女性	適宜分担	ひとり暮らし	該当しない
①食事のしたく	1	2	3	4	5
②洗濯	1	2	3	4	5
③掃除	1	2	3	4	5
④日常の買い物 (食料品・日用品など)	1	2	3	4	5
⑤高額な商品や不動産などの購入の決定	1	2	3	4	5
⑥子どもの身のまわりの世話	1	2	3	4	5
⑦子どものしつけ	1	2	3	4	5
⑧子どもと遊ぶ、 勉強などを教える	1	2	3	4	5
⑨高齢者や障害者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5
⑩町内会・自治会の活動	1	2	3	4	5
⑪PTAやボランティアなどの地域活動	1	2	3	4	5



2 働き方について伺います

問2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別がありますか。またはありましたか。①から⑧の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	男性が優遇 されている	女性が優遇 されている	差別はない	わからない	就労経験が ない
①賃金	1	2	3	4	5
②昇進・昇格	1	2	3	4	5
③幹部への登用	1	2	3	4	5
④能力評価	1	2	3	4	5
⑤仕事の内容	1	2	3	4	5
⑥教育・訓練の機会や内容	1	2	3	4	5
⑦有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ	1	2	3	4	5
⑧結婚、出産退職などの慣行	1	2	3	4	5

問3 専業主婦・主夫、無職の方に伺います。現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。

1 働きたい 2 働きたいが働けない 3 働く必要が無い 4 働きたくない

問3-1 問3で「2 働きたいが働けない」を選んだ方へ、その最も大きな理由を1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 家事との両立が困難だから
- 2 子育てとの両立が困難だから
- 3 介護との両立が困難だから
- 4 希望する勤務条件（時間・場所・給与等）の仕事がなかったから
- 5 求職しているが仕事が見つからないから
- 6 年齢面の制約のため
- 7 健康面の理由から
- 8 配偶者（パートナー）等家族が望まないから
- 9 その他（具体的に： _____)

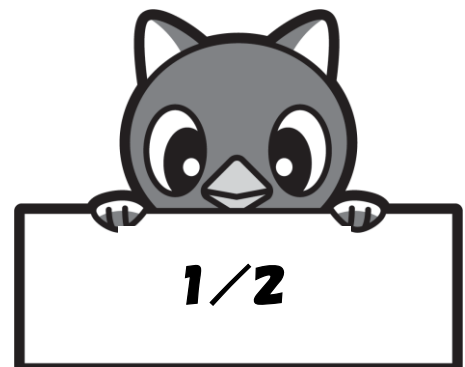
問4 女性の理想の働き方を1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 ずっと働く（勤務条件等を変えない※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む）
- 2 ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）
- 3 結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める
- 4 子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める
- 5 子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く
- 6 ずっと職業を持たず、家事に専念する
- 7 その他（具体的に： _____)

問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。

最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消
- 2 育児・介護休業制度等の充実
- 3 フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入
- 4 保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実
- 5 介護サービス・施設等の整備の充実
- 6 結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実
- 7 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力
- 8 女性自身の自覚、意欲・能力の向上
- 9 男性の意識の変化
- 10 その他（具体的に： _____)



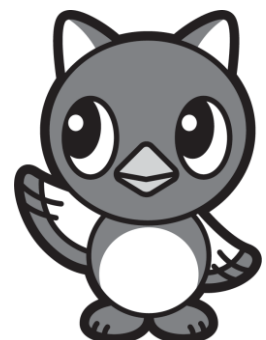
3 男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について伺います

問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の同僚に申し訳ないと思うから
- 3 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 4 休業後の職場復帰に不安があるから
- 5 仕事の量が多いから
- 6 仕事の責任が重いから
- 7 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから
- 8 女性の方が育児や介護に向いているから
- 9 その他（具体的に： _____)

問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる
- 2 労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- 3 社会の中で、男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める
- 4 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 5 男性は積極的に参加する必要はない
- 6 その他（具体的に： _____)



4 男女平等について伺います

問8 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

①から⑩の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	男性が優遇 されている	女性が優遇 されている	平等	わからない
①慣習、しきたり等	1	2	3	4
②法律・制度での扱い	1	2	3	4
③政府や企業での重要な意思決定の場	1	2	3	4
④政治（国政）	1	2	3	4
⑤政治（地方政治）	1	2	3	4
⑥学校教育	1	2	3	4
⑦就職の機会、職場での働き方や処遇	1	2	3	4
⑧家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定	1	2	3	4
⑨町内会・自治会の活動	1	2	3	4
⑩PTAやボランティアなどの地域活動	1	2	3	4

問9 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを①から③の項目ごとに選んでください。

① 個人で心掛けること（1つ選んでください）

1	「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する
2	男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める
3	性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける
4	男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ
5	その他（具体的に： ）

② 家庭での取り組み（1つ選んでください）

- 1 夫婦の関係が対等であるようにする
- 2 家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する
- 3 家事や育児の重要性を正當に評価する
- 4 「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める
- 5 子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない
- 6 その他（具体的に： _____)

③ 八千代市における取り組み（2つまで選んでください）

- 1 学校教育における男女共同参画教育を進める
- 2 男女共同参画の意識を高めるための学習の場（講座等）や情報提供（情報誌等）を充実する
- 3 事業者に対して職場における男女格差の是正を働きかける
- 4 事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける
- 5 保育サービスを充実する
- 6 介護サービスを充実する
- 7 女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する
- 8 男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する
- 9 市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する
- 10 市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める
- 11 市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける
- 12 男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する
- 13 その他（具体的に： _____)
- 14 特にない



5 性的マイノリティについて伺います

問10 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- | | | |
|---|--------------|-------|
| 1 | 思う | ⇒問11へ |
| 2 | どちらかと言えば思う | ⇒問11へ |
| 3 | どちらかと言えば思わない | |
| 4 | 思わない | |

※性的マイノリティ（LGBT等）とは、性別違和（「体の性」と「こころの性」が一致しない状態）の人や恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう人（同性愛・両性愛）、身体的な性別が不明瞭な人などのことを言います。LGBT L：レズビアン、G：ゲイ、B：バイセクシュアル（両性愛者）、T：トランスジェンダー（性的違和感を持つ方）

（問10で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答した方だけお答えください）

問11 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

あてはまるものを2つまで選んでください。

- | | | |
|---|---------------------------------------|--|
| 1 | 行政が市民等へ周知啓発を行う | |
| 2 | 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する | |
| 3 | 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う | |
| 4 | 法律等に、性的マイノリティの方への偏見や差別解消への取り組みを明記する | |
| 5 | 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う | |
| 6 | 働きやすい職場づくりの取り組みをする | |
| 7 | その他（具体的に： _____） | |
| 8 | 特にない | |

6 最後に、男女共同参画に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください

ご協力ありがとうございました

※ご記入がおわりましたら同封の返信用封筒にて10月15日（火）までに投函してください

令和元年度 八千代市の男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書

発行：令和2年3月
八千代市 企画経営課 男女共同参画センター
八千代市八千代台南 1-11-6 047(485)7088